

JATCO Sustainability Report 2024

ジヤトコ サステナビリティレポート 2024

Jatco

編集方針

当サステナビリティレポートは、お客さま、従業員、ビジネスパートナー、地域社会などジヤトコのすべてのステークホルダーを対象としています。ジヤトコのサステナビリティ活動への継続的な取り組みをご理解いただくとともに、みなさまからのご指摘を新たな課題発掘への手がかりとし、今後の取り組みに生かしていく予定です。ご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。

<アンケート>
https://forms.office.com/r/32KDqbwgJn?origin=lprLink

参考ガイドライン

「GRI（Global Reporting Initiative）スタンダード」

報告対象期間

2023年4月～2024年3月まで

報告対象範囲

ジヤトコ株式会社および国内・海外連結子会社を対象としています。

報告サイクル

年次報告として毎年発行（前回は2023年12月）

発行年月

2024年10月

発行責任部署および問い合わせ先

経営企画部、グローバル広報部
https://www.jatco.co.jp/inquiry/agreement_other.html

目次

CEOメッセージ 3

ジヤトコについて
企業情報 6
企業理念 7
価値創造のあゆみ 8
目指す姿 9
コア技術 10
モノづくりの考え方 11

サステナビリティマネジメント
ジヤトコのサステナビリティ 15

環境：持続可能な地球環境への貢献
環境マネジメント 20
脱炭素化の推進 27
クルマの電動化への貢献 31
循環型経済の構築 35
大気・水資源・土壌保全 39

事業：モノづくりを活かしたモビリティ・イノベーション
移動の可能性を拡げるソリューション 43
エネルギー効率の追求 45

社会：地域社会との共生および発展への貢献
コミュニティの発展 47
社会貢献活動 48

人的資本：ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上
ダイバーシティ&インクルージョン 52
人財育成 53
労働安全衛生 56

事業基盤：誠実な経営と事業基盤の強化
信頼される品質 65
人権 69
持続可能で責任ある調達 70
ステークホルダーエンゲージメント 72
ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス 73
災害対策（物理的ハザード） 77
情報セキュリティ 79

生産拠点別環境データ
生産拠点別環境データ 81

社会性データ
社会性データ 85

GRIスタンダード対照表
GRIスタンダード対照表 87

CEOメッセージ

サステナビリティ経営を強化し、人々の、社会の、地球の未来に貢献します



ジヤトコ株式会社代表取締役社長兼CEO
佐藤 朋由

ジヤトコは、サステナビリティを企業活動の中核として位置づけ、ステークホルダーのみなさまから信頼され必要とされる企業であるために欠かせないものと考えています。

気候変動や資源依存、人権に関わるさまざまな問題等、世界は多くの課題に直面しています。グローバルに事業を展開する当社は、このような課題に向き合いながら、ステークホルダーのみなさまに多様な価値を提供するための取り組みを進めています。

その基本になるのは、「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」という私たちのパーパスです。自動車用トランスミッションメーカーとして長年培った独自の技術を活かして新たなモビリティの可能性に挑戦し、お客さまや社会に価値ある商品やサービスを提供することによって、移動がもたらすより自由で豊かな社会の発展に貢献していきます。この変革期に従業員がリスクを恐れず挑戦するマインドを全社に広げるため、企業理念の価値観に「アントレプレナーシップ」を追加しました。また、ジヤトコとして取り組むべき優先課題として、18項目のマテリアリティ(重要課題)を定めています。

大きな柱の一つは、クルマの電動化への貢献です。ジヤトコは、ガソリン車用オートマチックトランスミッションの専門メーカーとして、常に製品の効率を追求し、燃費が良い環境性能の高い商品を提供してきました。今後は、電動車両用パワートレインの領域でも、当社独自の技術を活かした、伝達効率や静粛性、エネルギーマネジメント等において競争力の高い電動パワートレインを広く社会に

CEOメッセージ

提供することで、電動車両の価値向上と、電動車両の普及によるクリーンで豊かな社会の実現に貢献していきます。日産自動車様向けの電動パワートレインであるX-in-1は今年度中に富士市の工場での生産準備を完了します。独自開発中の超小型e-Axleなどと合わせて、2030年には電動車両向けユニットの年間生産台数500万台を目指します。

また、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーは当社にとっても重要なテーマです。カーボンニュートラルでは、開発、生産のプロセスや物流等、バリューチェーン全体で2050年のカーボンニュートラル実現に向けた取り組みをグローバルに進めています。サーキュラーエコノミーについても、「資源を最大限に活用する」という観点から、材料調達や製品企画・設計、アフターサービスなど様々な領域での、資源の効率的利用、廃棄物の削減を目指して取り組んでいます。

さらに、電動パワートレイン技術を含む当社の技術やノウハウを、クルマ以外のモビリティや新たな分野にも活かしたいと考えています。ジヤトコが得意とするギアや制御技術を活用し、電動アシスト自転車用のドライブユニットの商品化に取り組んでいます。また、当社の中国法人が現地の有力メーカーと電動スクーター用のインホイールドライブユニットを共同開発する等、グローバルに取り組みが進んでいます。サーキュラーエコノミーを意識して電気自動車のリユース部品と当社で開発したギアを組み合わせた、低圧風力発電機の発電用増速機の実証実験もその一つです。アントレプレナーシップの精神をもって、私たちの技術を活かした社会課題の解決や新しい事業の可能性を探索していきます。

これらの活動をリードし推進するのは、ジヤトコの「人財」です。そして、活動を実現するためには、それら「人財」を含めたすべてのステークホルダーの人権を尊重することが不可欠だと考えています。大切な「財産〔人財〕」である従業員一人ひとりが活き活きと活躍できるよう、多様性を尊重し、どのような職種、職場においても、性別、年齢、国籍、障がいの有無等にかかわらず能力を最大限発揮し成長できる環境づくりに取り組んでいます。また、従業員の心身の健康を最優先課題の一つとして、従業員のウェルビーイングと会社の持続的成長を目指す健康経営を実践しています。日本においては、経済産業省による「健康経営優良法人ホワイト500」企業に、6年連続で認定いただきました。

社会のみなさまからの信頼を得るためには、全従業員が各種法令やポリシーを遵守し、高い倫理観を持って公正で誠実に行動することが欠かせません。当社はグローバル共通の行動指針である「グローバル行動規範」に基づき、コンプライアンスの徹底に努めています。

急激な環境変化の中で、企業は時に困難な状況にも直面します。しかしそれは新しいビジネスを生み出すチャンスでもあります。私たちジヤトコは、企業価値向上と持続的成長に向けてサステナビリティの重要性を認識し、ステークホルダーのみなさまと真摯な対話を重ねながら、企業活動を通した社会課題の解決に取り組んでいきます。

私たちの取り組みで、人々、社会、そして地球の未来へ貢献できるよう、これからもサステナビリティ経営を強化してまいります。





ジヤトコについて

企業情報

企業理念

価値創造のあゆみ

目指す姿

コア技術

モノづくりの考え方

企業情報

会社名 ジヤトコ株式会社（英文名：JATCO Ltd）

事業内容 自動車用変速機、
電動パワートレインおよび
部品の開発・製造・販売

設立 1999年6月28日

本社所在地 静岡県富士市今泉700番地の1

従業員数 12,500人（2024年3月31日現在、連結）

代表 代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO）
佐藤　朋由

資本金 299億3,530万円

株主 日産自動車（75%）、三菱自動車工業（15%）、
スズキ株式会社（10%）

財務状況（連結）

単位：億円

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	5,428	5,613	5,400	6,217
営業利益	186	267	28	241
当期純利益	58	165	△48	158

（参考）

国内関係会社

● ジヤトコ エンジニアリング株式会社
〒417-0002　静岡県富士市依田橋125番地の1

● ジヤトコ ツール株式会社
〒417-0023　静岡県富士市吉原宝町1番1号

● ジヤトコ プラントテック株式会社
〒417-0023　静岡県富士市吉原宝町1番1号

海外関係会社

● ジヤトコ 米国会社
1974 Midway Lane, Smyrna, TN 37167, USA

● ジヤトコ メキシコ社
Carretera Panamericana Km 75, Col. Los Arellano, C.P. 20340. Aguascalientes, AGS., Mexico

● ジヤトコ 韓国エンジニアリング社
Lotte IT Castle 2-4F, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea

● ジヤトコ 韓国サービス社
Lotte IT Castle 2-412, 98, Gasan digital 2-ro, Geumcheon-gu, Seoul 08506, Korea

● ジヤトコ（広州）自動変速機有限公司
NO.8, Lihong 2 Road, Science City, Guangzhou Hi-Tech Industrial Development Zone, Guangzhou, Guangdong, 510530, China

● ジヤトコ（蘇州）自動変速機有限公司
No.2 Tangqiao Road (M), Tangshi Community, Yangshe Town, Zhangjiagang City, Jiangsu Province, 215600, China

● ジヤトコ フランス社
ZAC des Godets - Batiment C, 1-4 Impasse de la noisette, 91370 Verrières le Buisson, France

● ジヤトコ タイランド社
700/999 Moo 3, Amata Nakorn Industrial Estate, Thumbon Nongkakha, Amphur Phanthong, Chonburi 20160, Thailand

企業理念



激しく変化する事業環境の中で、ジヤトコは改めて自社が社会に存在する意義を問い直しました。

「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスは、予測が難しい未来に向けて私たちの向かう方向性を示しています。

また、自らの強みを活かし、モビリティを通してよりよい社会の実現に貢献したいという、私たちの願いでもあります。

コーポレートパーパス実現を推進すべく、2024年4月から従業員共通の価値観であるT-E-A-Mに、失敗を恐れず挑戦して新たな価値を創出する意味を持つEntrepreneurship[アントレプレナーシップ]を追加した、T-E+-A-Mを新たな価値観として定義しています。

「技術」

ジヤトコにとって技術は最も重要な資産であり価値の源泉です。
これまで磨き続けてきた技術を大切にし、さらに深化させ、未来を切り拓く思いを込めています。

「情熱」

ジヤトコは、モノづくりへの情熱、イノベーションへの情熱、そしてお客さまへの情熱で、新たな可能性を探索します。
情熱は私たちのチャレンジの原動力となります。

「モビリティ」

社会活動での移動とその手段の全てがモビリティです。
クルマを走る地表だけでなく、海、空、宇宙へと、モビリティの範囲は拡がっ ていきます。
ジヤトコの活動エリアもどんどん拡げていきます。

価値創造のあゆみ

1967年 日産自動車株式会社 AT生産開始
1970年 日本自動変速機株式会社設立
1975年 三菱自動車工業株式会社 AT生産開始
1989年 ジヤトコ株式会社に社名変更
1999年6月 トランステクノロジー株式会社 分社
1999年10月 ジヤトコ・トランステクノロジー株式会社 設立
1999年合併
2002年 ジヤトコ株式会社に社名変更
2002年 ダイヤモンドマチック株式会社 分社
2003年合併

創業訓
人を大切に
すべてに清潔に
常に最高の品質を

常に時代をリードする
「革新的な商品・技術」
それが、JATCOの進化の歴史です。

AT
- 1967 3N71 小・中型車用 3速AT
- 1981 F01A 小型車用3速AT
- 1989 JR502E 中・大型車用5速AT（World's First）
- 2020 JR913E FR車用9速AT

CVT
- 1997 F06A 中型車用CVT
- 1999 JR006E 大型車用 CVT（トロイダル式）（World's First）
- 2002 JF010E 大型車用CVT
- 2009 Jatco CVT7 軽・小型車用CVT（World's First）
- 2012 Jatco CVT8 中・大型FF車用CVT
- 2021 Jatco CVT-X 中・大型 FF 車用 CVT
- 2023 Jatco CVT-XS 中・大型 FF 車用 CVT

ハイブリッド車用
- 2010 JR712E 1モーター 2クラッチ式 ハイブリッド車用（World's First）
- 2015 Jatco CVT8 HYBRID 乾式多板クラッチ1モーター 2クラッチ式ハイブリッド車用
- 2021

電動車用
- 2022 電動車向けギア

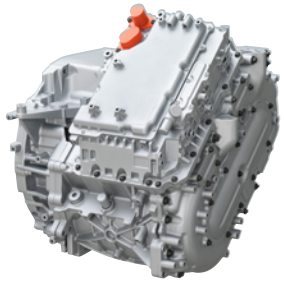
売上高推移
1970 1980 1990 2000 2010 2020
AT時代の夜明け
FF化の波
環境意識の高まり、燃費規制強化
新たなモビリティの時代へ

目指す姿

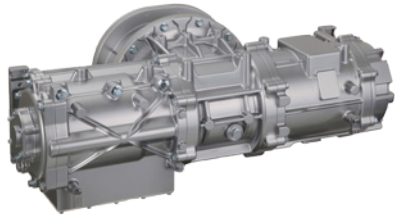
ジヤトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスのもと、自動車用トランスミッションメーカーとして長年培ってきた技術を活かし、移動がもたらすより良い社会の発展に貢献していきたいと考えています。加速する電動化の中で、電動パワートレインメーカーとしても、独自技術を活かした競争力のある商品を提供することで、より豊かな電動車両の未来の実現に貢献します。また、その技術を自動車以外の新しいモビリティにも拡げ、あらゆるモビリティへのドライブユニット提供の可能性を探っていきます。ジヤトコならではの技術とノウハウを最大限に活用し、お客さまや社会に価値ある新しい商品やサービスを提供することで、環境課題や社会課題の解決を視野に入れながら、持続可能な社会の成長とジヤトコの成長を両立させていきます。

あらゆるモビリティにドライブユニットを提供


X-in-1 (3-in-1)


X-in-1 (5-in-1)


超小型e-Axle


e-Axle(変速機能付)

サステナビリティへの関心の高まり

カーボンニュートラル
サーキュラーエコノミー
クルマからモビリティへの価値変化

安全で快適な移動の実現

持続可能な社会の実現への貢献


移乗機構付車いす


電動アシスト自転車用ドライブユニット


電動バイク用2速インホイールモータードライブユニット

コア技術

ジヤトコのコアコンピテンシー

前身会社の一つである日本自動変速機の創業以来、ジヤトコが世に送り出した自動車用オートマチックトランスミッションの累計台数は1億2,900万台以上にのぼります。これらCVT/ATの開発生産を通して磨いてきた、動力伝達機構の領域における、開発能力、生産技術がジヤトコの強みです。

開発においては、ユニット、コンポーネントの設計・製造に加え、常に自動車メーカーとともに車両システムを開発に携わってきました。これにより、車両の制御、通信も含め、動力性能や静粛性、熱マネジメントまで対応することが可能です。 また、生産においては、高精度の設計・加工技術や、高品質の製品をグローバルな生産拠点で量産し、安定的に供給することを強みとしています。

これらのコアコンピテンシーを最大限に生かし、電動パワートレインや新たなモビリティへの貢献など、新しい価値の提供を追求していきます。

車両～商品～コンポーネントすべてで価値を提供

車両システム開発
- 動力性能
- 静粛性
- 熱マネジメントシステム



ユニット開発
- 電動化ユニットシステム
- e-Axleなど





コンポーネント開発
- コア部品
- ギア、モーター、原材料など





CVT/ATの動力を伝達する機能を担うギアなどの設計・加工技術









高品質の商品をグローバルで安定的に供給する技術



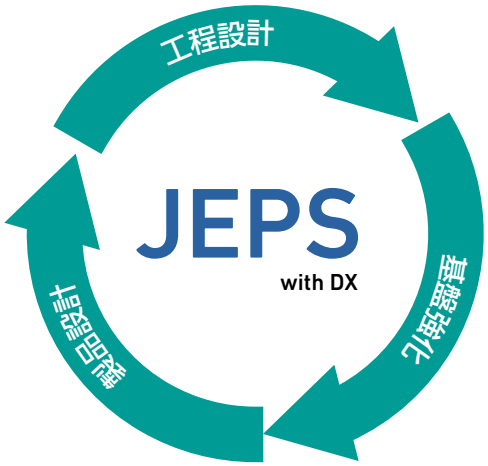


モノづくりの考え方

お客さま視点で目指す「世界No.1のモノづくり」

ジヤトコは、お客さまの変化に限りなく早く対応し、品質（Quality）、時間（Time）、コスト（Cost）における世界No.1のモノづくりを目指し、独自の生産方式「JEPS」（JATCO Excellent Production System）を構築・運用しています。JEPSは、素材仕入から加工、そして組立から出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同じスピード・同じ順序で稼働させタイムリーな生産・運搬を行うことで、一切のムダを排除するシステムです。

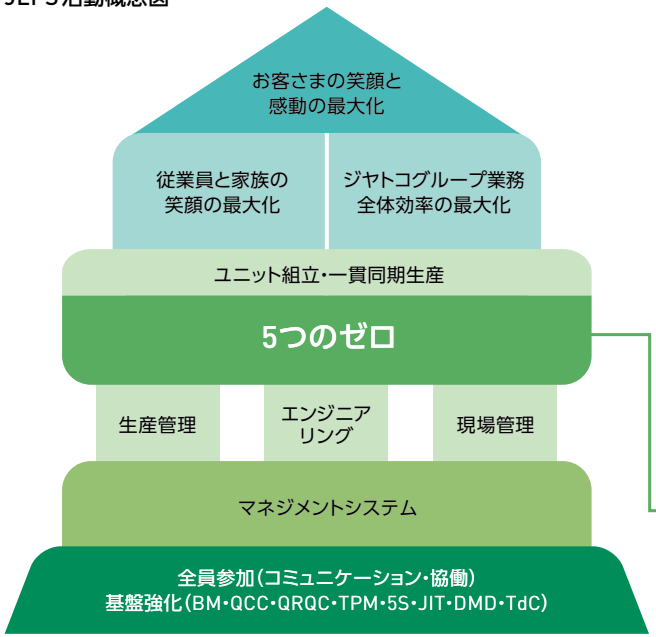
JEPSにより、サプライチェーン全体で「限りないお客さまへの同期」と「限りない課題の顕在化と改革」という2つの「限りない」を実現します。



JEPSイノベーションを推進

JEPSの基本的な考え方は、「限りないお客さまへの同期」と「限りない課題の顕在化と改革」の2つに集約されています。この2つの「限りない」を追求するため、ジヤトコでは「5つのゼロ」を明確な指標と定め、その実現を目指しJEPSの改善を続け、省エネルギー・省資源化を推進しています。

JEPS活動概念図



JEPS活動

SQTCE[*1]すべての領域で競争力向上にチャレンジ

生まれの良いモノづくりの実現（MP[*2]サイクル）

量産後「品質リスク」を残さない品質設計と計画通りの結果を出す工程設計を進めます。

DXツール開発＆活用による高効率寄与

さまざまな停止ロスの最小化（点検、測定、調整等）問題の予知・予防、クイックアクションを行います。

全員参加TPMによる基盤強化で結果を出す

限りない改善の実行と設備に強い人財育成（製造、保全、技術、品証、etc.）を行います。

*1 Safety, Quality, Time, Cost, Environment
*2 Maintenance Prevention

5つのゼロ

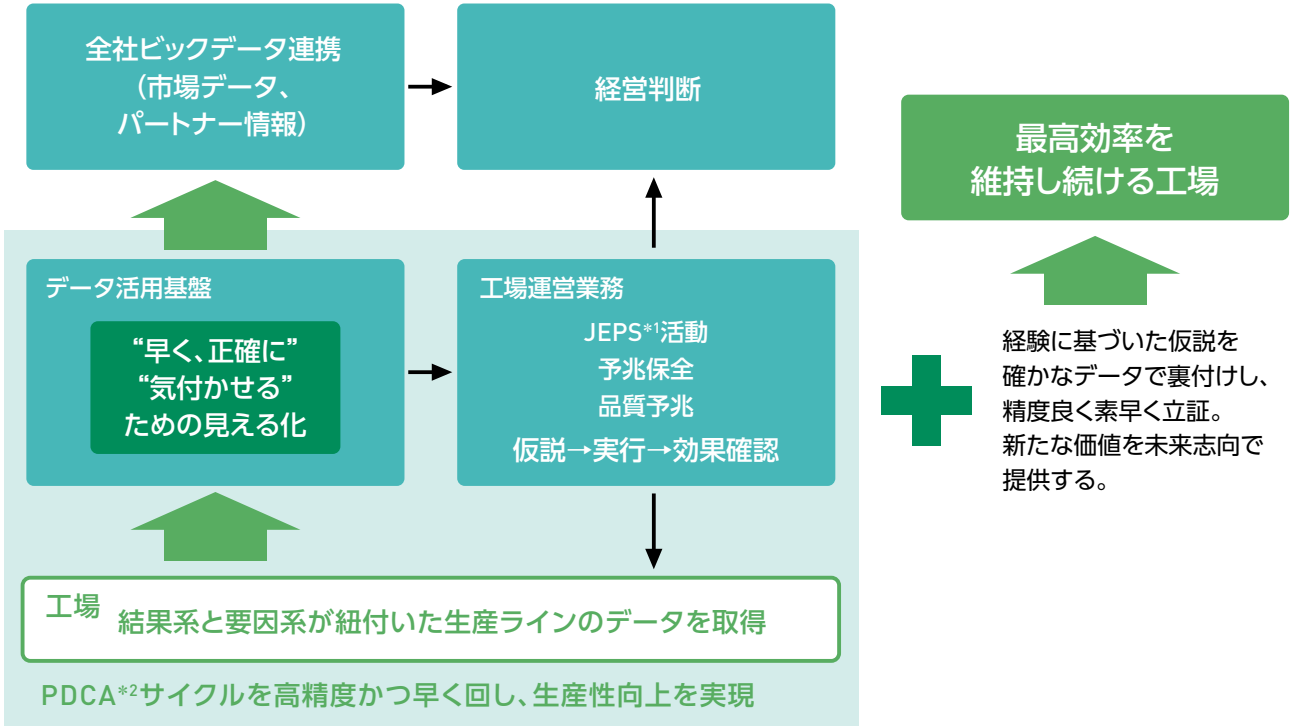


モノづくりの考え方

スマートファクトリー化の実現

ジヤトコは工場のスマートファクトリー化を推進しています。デジタルソリューション部を中心に、モノづくりのDX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、生産性向上や省エネルギーを推進しています。

ジヤトコのスマートファクトリー構想



*1 JATCO Excellent Production System
*2 Plan-Do-Check-Act

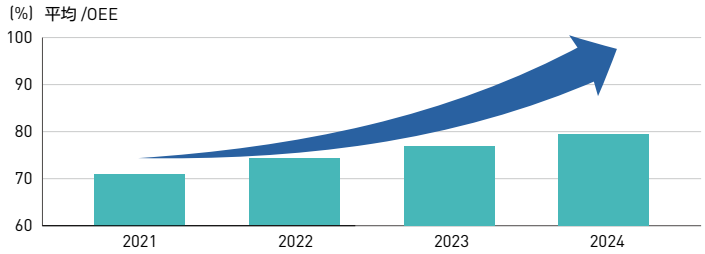
設備の稼働状況を可視化

ジヤトコの工場は素材仕入れ、加工、組立、検査、出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同期させることで、一切の無駄を排除するシステムを組んでいます。途中で生じたエラーにより生産が止まれば次の工程、またその次の工程へと影響が出てしまいます。そうした影響をなくすためにも、生産工程の設備状態を常時見えるようにすることで「止まらない工場」を目指しています。職場で発生した品質問題などを直ちに解決するQRQC*を基本とし、稼働状況が一目で分かる稼働管理ソフトウェアを内製で作成。これにより、チョコ停や故障などの現象を素早く把握し対策を打つことで、生産ロスを減らすことが可能になりました。稼働モニターの導入により、生産ラインの効率が約10%向上しました（2021年比）。


廃棄物専用運搬車両による処理施設への運搬

ジヤトコは究極の効率と品質を目指し、デジタル技術の幅を広げながらスマートファクトリーを実現しています。そして、1台のユニットを製造するために消費するエネルギーを最大限削減し、カーボンニュートラルの実現に寄与します。

設備総合効率（OEE）実績



*Quick Response Quality Control

モノづくりの考え方

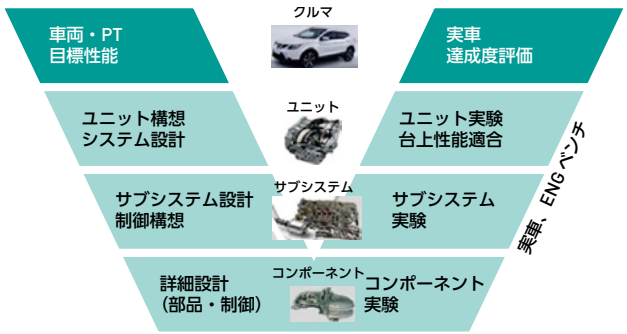
ジヤトコの製品開発および生産準備のプロセスでは、可能な限り初期段階から高精度かつ詳細な設計検討を行い、性能を作り込む「フロントローディング」を推進しています。

これにより、後工程での修正や実機による試行錯誤の繰り返しを抑制し、開発・生産におけるエネルギー効率の向上を図り、社会の環境負荷低減に貢献しています。

システムズエンジニアリングのVプロセスによる開発

多様化・高度化する製品への性能要求に対し、設計と実験の繰り返しを削減するため、システムズエンジニアリング(SE)のVプロセスの考えを導入しています。

Vプロセスにおける各システム階層での設計・検証にはMBD（Model Based Development：モデルベース開発）手法を活用しています。これは実際にクルマを走行させたときに各機能部品に発生する現象をコンピューター・シミュレーションで予測し、バーチャル評価を行うものです。



これらSEとMBDを組み合わせたMBSE(Model Based Systems Engineering)のアプローチにより、フロントローディングを推進し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

バーチャル評価による環境負荷低減

Vプロセスの実験プロセスでは、これまで実車で実験していたものをバーチャル実験（HILS* など）に置き換えています。また、新たに織り込む制御システムなどもバーチャル上で確認することで、実車に搭載した際に手戻りなく開発できるようになりました。これらバーチャル評価が進むことで、開発期間が短縮できることはもちろん、実車を使った実験が減り、試作品の削減や実験用燃料の削減など環境への効果もあります。

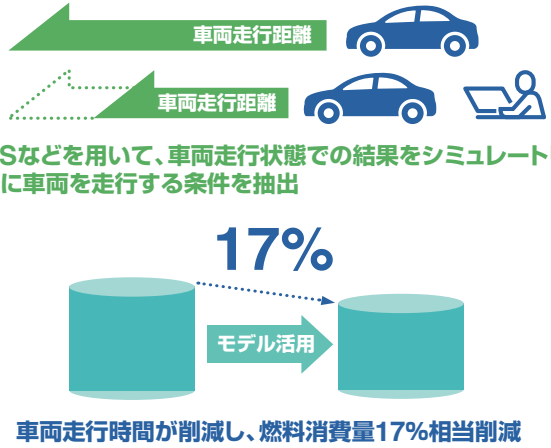
また、システムズエンジニアリングの手法を既存商品や次世代商品に適用し、グローバルに展開することによって50%の手戻り率改善が見込まれ、開発期間の短縮だけでなくフィジカル実験の削減によるガソリン使用量の削減にも貢献しています。

*Hardware In The Loop Simulation



HILSを使ったバーチャル評価

バーチャル実験による効果例



世界一の開発効率を目指し MBD推進センターなど外部団体へ参画

モノづくりの輪を広げ、日本の自動車産業の発展に貢献するため、ジヤトコは、国内自動車メーカー、部品メーカーからなるMBD推進センターに参画しています。MBD 推進センターでは、大学などが創出したモデルを自動車メーカーと部品メーカーがすり合わせ、同じモデルを開発に使用することで、自動業界全体として、手戻りのない世界一の開発効率を実現することを目指しています。

このMBD推進センターに当社も参画することで、カーボンニュートラル対応等を含む自動車技術革新に貢献しています。



サステナビリティマネジメント

ジヤトコのサステナビリティ

ジヤトコのサステナビリティ

ジヤトコは、「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスのもと、パワートレインの開発製造で培った独自の技術を活かした価値ある商品やサービスを提供していきます。サステナビリティを経営の中核と捉え、あらゆる事業活動を通して企業として成長し経済に貢献すると共に、社会が直面するさまざまな課題の解決にも貢献することが大切な役割だと考えています。ステークホルダーのみなさまとの対話を通してその関心事を理解し、新しい価値を提供し続けることで、持続可能な社会の発展に貢献していきます。

サステナビリティ基本方針

1



社会課題の解決

ジヤトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というパーパスのもと、サステナビリティを**経営の中核と捉え、あらゆる事業活動やその他の活動を通じて経済の発展に貢献し、社会課題の解決に取り組みます。**

2



独自価値の提供

ジヤトコは、**革新的技術で独自の価値を提供することにより、クリーン、安全で快適でワクワクするモビリティが創造する社会の発展に貢献します。**

3



社会との対話

ジヤトコは、お客さま、従業員、ビジネスパートナーのみなさま、地域社会等、**全てのステークホルダーとコミュニケーションをとりながら、持続可能な社会の実現を目指します。**

4



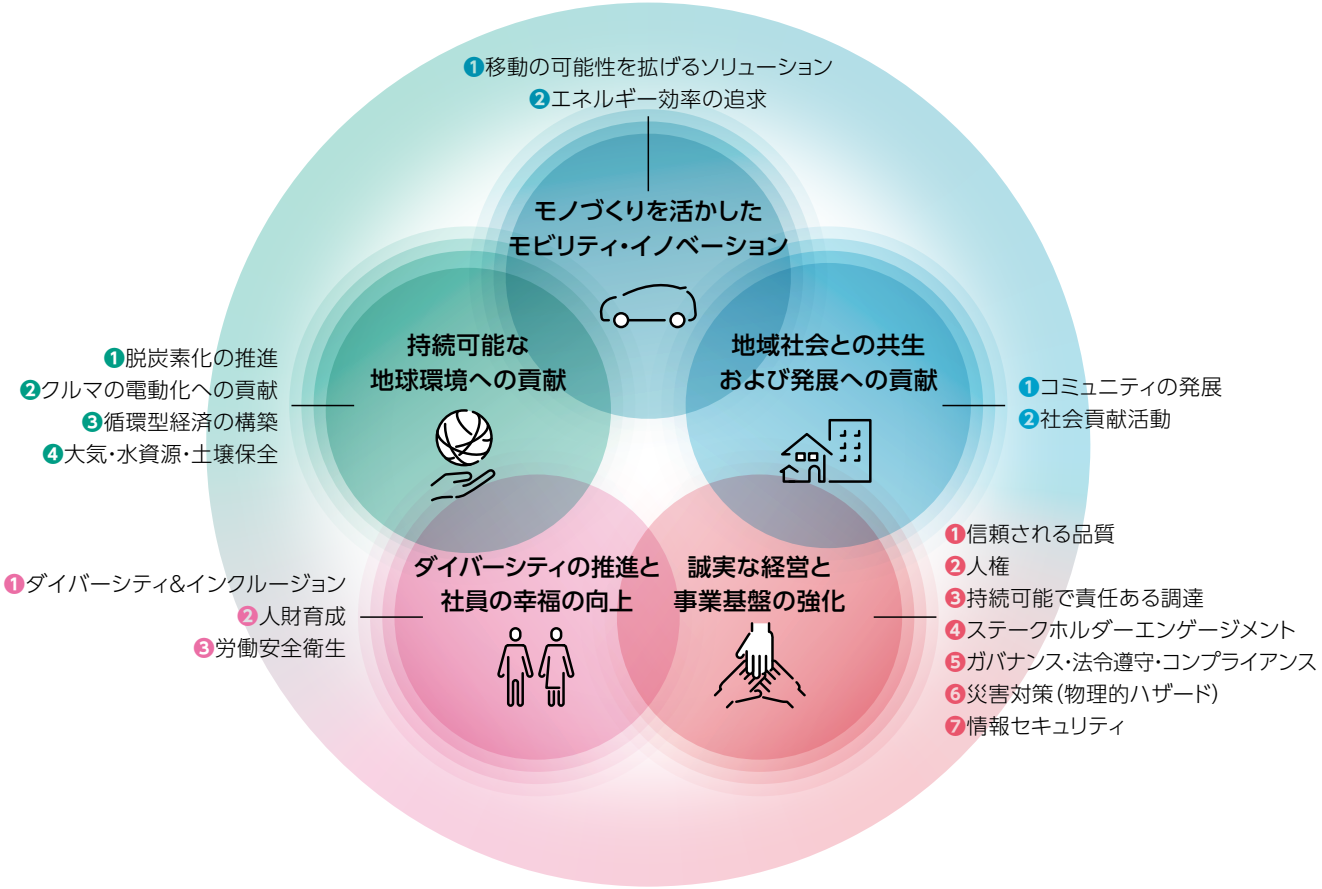
従業員の主体的な取り組み

ジヤトコは、**全ての従業員一人ひとりがサステナビリティを意識し、主体的に取り組むことによって**、企業としてサステナビリティの活動を推進し、レベルアップを図っていきます。

ジヤトコのサステナビリティ

マテリアリティ（重要課題）

ステークホルダーのみなさまの関心と当社の成長の方向性を合わせるため、ジヤトコは当社が優先的に取り組むべきサステナビリティのマテリアリティ（重要課題）として、5分野18項目を特定しました。これらの重要課題については、経営会議でも論議を行い、事業活動に織り込んでいくことにより、確実に取り組みを進め、企業価値の創出につなげていきます。



重点課題特定プロセス

ジヤトコのマテリアリティは以下のプロセスで特定しました。

1. 社会・環境課題の明確化
2. 自社経営課題との整合性を確認
3. マテリアリティの優先度整理
4. 経営会議での合意

ジヤトコのサステナビリティ

マテリアリティ（重要課題）と目指す姿

中長期的な企業価値創出に向けて、マテリアリティごとに目指す姿を設定しています。

マテリアリティ（重点課題）		目指す姿	SDGs
持続可能な地球環境への貢献	脱炭素の推進	「ライフサイクル全体」「生産」「開発」「環境活動」の4つの領域の取り組みで、2030年までに CO_2 46%削減（13年比）、2050年までにバリューチェーン全体でカーボンニュートラルを実現する。	
	クルマの電動化への貢献	トランスミッションで培った技術を活かし、競争力があり電動車両の商品力向上に寄与する電動パワートレインを提供することで、脱炭素社会の実現に向けた電動車両の普及に貢献する。	
	循環型経済の構築	地球環境保護と持続可能な社会への貢献を目指し、リペア／リユース／リビルト／リサイクルなど事業活動の様々なプロセスにおける効果的な資源循環の仕組みを構築することで、製品・サービスの新たな付加価値を、ステークホルダーに提供し続ける。	
	大気・水資源・土壌保全	生産活動において投入される資源や、外部に放出される物質の管理を徹底し、省資源、環境負荷低減に取り組むことにより、環境へのインパクトゼロを目指す。	
モノづくりを活かしたモビリティ・ソリューション	移動の可能性を拡げるソリューション	革新的な独自の技術により、クリーン、安全、快適そしてワクワクする商品・サービス実現の可能性を追求し、モビリティへの新しい価値を提供する。	
	エネルギー効率の追求	製品のエネルギー効率の向上や、車両全体のエネルギー効率改善に貢献する技術開発により、社会全体のCO_2削減と環境負荷低減に貢献する。	
地域社会との共生及び発展への貢献	コミュニティの発展	ジヤトコの技術やアセットを活かし、地域の活性化や課題解決に積極的にかかわることで、地域と企業が共に発展できる社会を目指す。	
	社会貢献活動	よき企業市民として、「環境」「社会」「福祉」を重点領域とする活動に従業員が積極的に参加することにより、社会課題の解決とよりよい社会の実現に貢献する。	

マテリアリティ（重点課題）		目指す姿	SDGs
ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上	ダイバーシティ&インクルージョン	従業員の多様な価値観と個性を尊重し、一人ひとりが活躍できる組織を実現し、そこから生まれる新しい発想で、お客さまと社会に新しい価値を提供する。そのために、女性や障がい者の活躍を促進する。	
	人財育成	従業員は会社の「財産」であるとの考えに基づき、一人ひとりが、成長を実感できる働きがいのある職場を実現する。従業員にあらゆる成長の機会を継続的に提供し、従業員と会社が共に成長する。	
	労働安全衛生	従業員が、安全、健康で活き活きと働ける職場環境を実現する。「安全絶対」で、災害火災のない職場づくり、安全に強い人づくりに、「健康経営」で、従業員のフィジカルとメンタルの健康の継続的な改善に取り組む。	
誠実な経営と事業基盤の強化	信頼される品質	お客さまの期待に応える製品品質と品質マネジメントを実現し、お客さまの信頼を獲得する。社員一人ひとりが高い品質意識を持ち、全社課題として取り組む。	
	人権	人権尊重を事業活動の基盤と認識し、社会に信頼される企業として全てのステークホルダーの人権を尊重し、適用される法令・基準を遵守する。全従業員がこの認識を共有し、最高の倫理基準に基づいて行動する。	
	持続可能で責任ある調達	ビジネスパートナーとの相互信頼を構築し、お互いの持続的な成長を目指す。サプライチェーンでの環境、社会に配慮したビジネスや、安定した部品・材料供給に向けた取り組みを実践する。	
	ステークホルダーエンゲージメント	主要ステークホルダーの関心事について積極的に対話を行い信頼関係を構築する。ステークホルダーの声を企業活動に反映することで、持続的な企業の成長と社会の発展を実現する。	
	ガバナンス・法令順守・コンプライアンス	企業理念や行動規範の浸透、「内部統制システムの基本方針」に基づく内部統制の維持・強化により、規律ある透明性の高い事業運営を行う。常に状況をモニターし課題に対応すると共に、定期的に従業員の教育を実施する。	
	災害対策（物理的ハザード）	企業活動の根幹を揺るがす様々なリスクを想定し、事業継続のための体制を構築する。定期的な訓練を実施し、継続的な課題解決を実施する。	
	情報セキュリティ	経営層から現場まで、セキュリティポリシーを周知徹底する。情報資産の特定とリスク評価、最新の予防的セキュリティ対策の実装により、全従業員が責任感をもって、情報資産流出などのリスクに対応する。	

ジヤトコのサステナビリティ

積極的な情報公開を目指して

ジヤトコでは、サステナビリティに関する取り組みについて積極的な情報公開を心がけています。

当社の活動をステークホルダーのみなさまに広くご理解いただくために、2005年から継続して「環境報告書」を発行し、2009年からは、社会とのかかわりについても情報を充実させて、「環境社会報告書」としました。2023年からはサステナビリティを経営活動の中核と捉え、あらゆる事業の活動やその他の活動を通じ経済の発展への貢献や社会課題の解決に努める取り組みについてより分かりやすく情報発信するために、構成も刷新させ「サステナビリティレポート」としました。



ジヤトコ サステナビリティレポート



ジヤトコ公式サイトのサステナビリティページ（2023年度版）

SDGs達成に向けた貢献

2015年9月の「国連持続可能な開発サミット」において「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。ジヤトコは世界共通の目標であるSDGsを支持し、その目標達成に貢献してまいります。2022年4月には、本社を構える静岡県富士市が掲げる「SDGs未来都市行動宣言」に登録するなど、SDGs未来都市「富士市」の実現に向けて行動しています。本レポートでは、SDGsとのつながりを示すため、関連する取り組みを記載したページにSDGsの各アイコンを掲載しています。

富士山とともに 輝く未来を拓くまち
SDGs 未来都市 富士市

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



環境

持続可能な地球環境への貢献

環境マネジメント

脱炭素化の推進

クルマの電動化への貢献

循環型経済の構築

大気・水資源・土壌保全

環境マネジメント

持続可能な未来に向けて、ジヤトコができること

ジヤトコはトランスミッション事業で培ってきた経験を生かし、走行性能と環境性能の両立を追い求めてきました。現在は電動車両向けの電動パワートレインの開発と同時に、グローバルシェアNo.1（2023年：当社調べ）を誇るCVTの改良にも取り組んでいます。

その技術や経験は、最新のJatco CVT-XSにおいて、伝達効率90%を誇るJatco CVT-Xをさらに進化させました。ドライバーの意図通りの加速感や優れた応答性により運転性能を高め、燃費も向上させてお客さまにその価値を提供しています。また、今後は電動化時代を見据え、e-Axleなどの電動パワートレインも市場投入していきます。

この技術や仕組みを生かし、クルマ以外のモビリティにも革新的な商品を提供することで、持続可能な未来に貢献していきます。



Jatco CVT-XS



超小型e-Axle

ジヤトコの環境方針

ジヤトコは環境活動と持続可能な社会の実現に向けて、環境方針をより時代に合った内容に見直しました。

新しい環境方針のもと、ジヤトコは持続可能な地球環境実現のため、イノベーション、脱炭素、資源循環、汚染予防の領域で継続的な改善を行い、レベルアップを図っていきます。

環境方針

全ての事業活動を通じて
持続可能な地球環境に貢献

- **イノベーション** …… エネルギー効率の高い商品と環境技術の開発及び生産
- **脱炭素** …… 2050年にバリューチェーン全体でのカーボンニュートラル達成
- **資源循環** …… 資源を最大限に活用するサーキュラーエコノミーの推進
- **汚染予防** …… 環境問題の未然防止及び法令の遵守
- **継続的改善** …… 組織の人々の協働・共創による環境マネジメントシステムの有効性向上

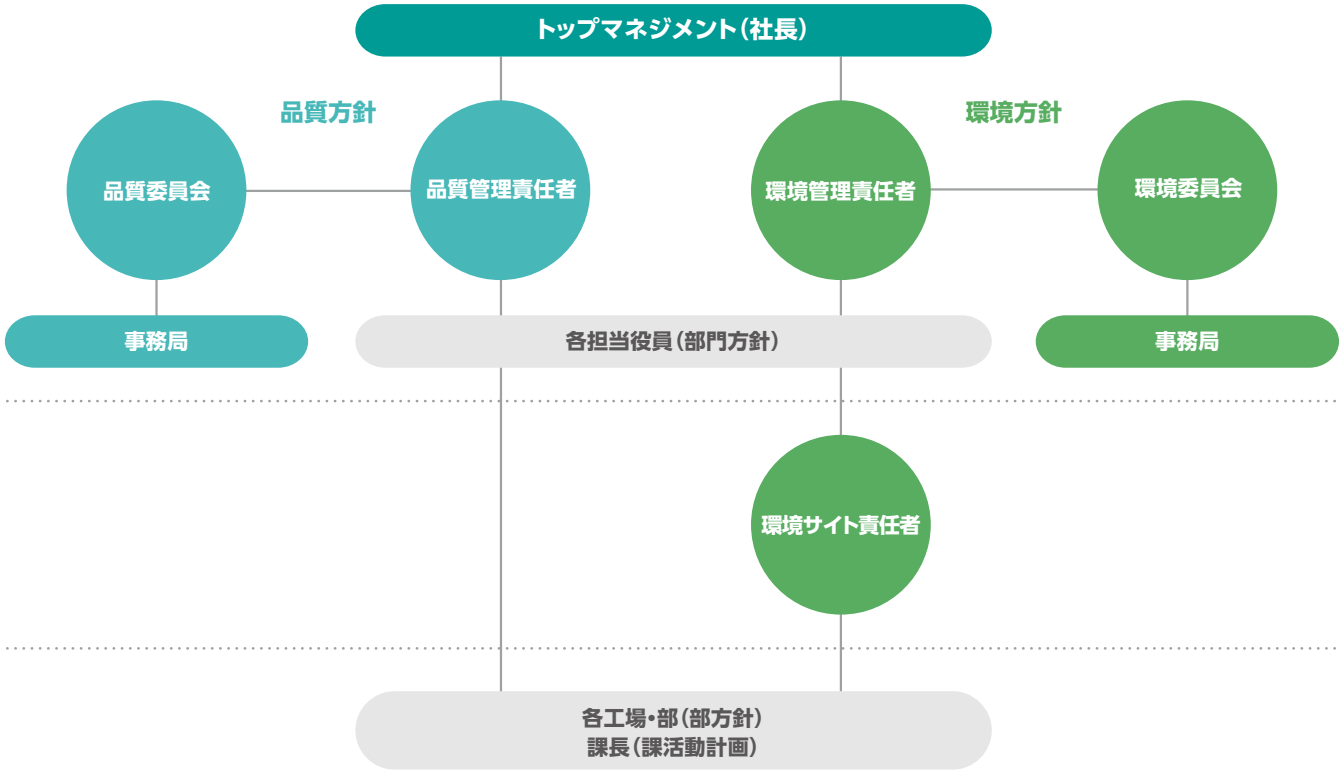
環境マネジメント

環境マネジメントの推進体制

ジヤトコの環境マネジメントは、各グローバルサイトに環境責任者、サイト責任者を任命し、各環境管理責任者の責任と権限のもと、環境マネジメントシステム（EMS）を推進しています。また2011年には、品質と環境のマネジメントシステムを統合しました。

ジヤトコ全体のEMS推進は、各環境管理責任者、サイト責任者で構成される全社環境委員会で、総合的に審議と評価を行い、フォローする体制をとっています。すべての部門や生産拠点で全社共通のEMSを運用することで企業としてのベクトルを一元化し、環境マネジメントを強力に推進していることがジヤトコのEMSの大きな特徴です。

ジヤトコの品質・環境マネジメント推進体制



グローバルでISO14001を取得

ジヤトコは、国内外のすべての生産拠点で、環境マネジメントシステムの最新規格である「ISO14001：2015版」を取得しています。ジヤトコがグローバルに展開する生産拠点では、環境への負荷を最小限に抑えるために、日本の生産拠点と同様の環境保全策を展開しながら、各拠点独自のアイデアも積極的に実施しています。また、環境マネジメントシステムの新規格「ISO14001：2015版」を、グローバル各拠点で取得しました。これからも環境への影響を抑えた生産を、世界の拠点で展開していきます。





グローバル全拠点で「ISO14001：2015版」を取得。（写真は一部）

拠点	法人名	ISO14001 取得年度
日本	ジヤトコ株式会社	1998年度
日本	ジヤトコ エンジニアリング株式会社	2004年度
メキシコ	ジヤトコ メキシコ社	2011年度
中国	ジヤトコ（広州）自動変速機有限公司	2013年度
タイ	ジヤトコ タイランド社	2015年度
中国	ジヤトコ（蘇州）自動変速機有限公司	2022年度

環境マネジメント

環境活動推進体制

地区別の環境委員会で地域にあった活動を推進

ジヤトコでは地区別に環境委員会を設置し、その地域にあった環境活動を実施しています。

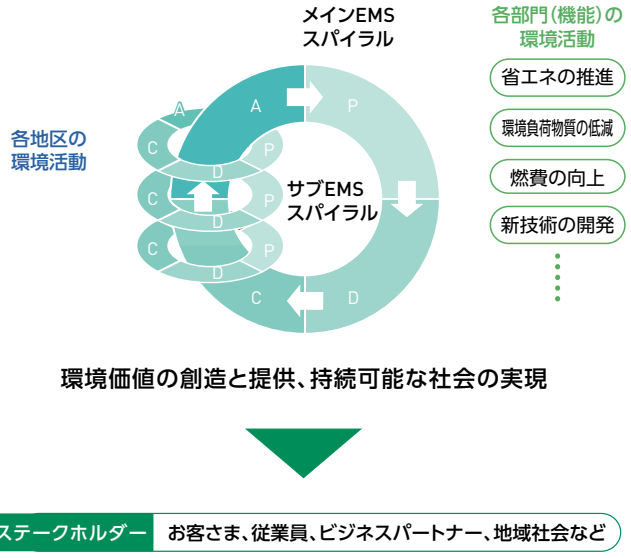
ジヤトコ全体のPDCAサイクル（メインEMSスパイラル）と地区および部門ごとのPDCAサイクル（サブEMSスパイラル）という2種類のPDCAサイクルを相互に連動させ、各取り組みの方向性を統一。より効果的な活動ができるよう継続的な改善を行うことで、ステークホルダーへの環境価値の創造・提供を目指しています。

中長期視点での環境課題への対応

地区ごとの環境マネジメントを行う、EMSの推進と並行して、中長期の環境課題への取り組みも進めています。社会情勢や事業環境の変化、企業理念や各種上位方針などとの関連において、ジヤトコが取り組むべき環境課題について、現状把握、リスク分析、必要なアクションの検討を行い、実行につなげます。個々の課題について、ジヤトコ全体を俯瞰しながら、社内を横断した企画・マネジメントを実施しています。また、海外拠点での環境活動の企画・マネジメントなども連携しながら推進しています。

ジヤトコでは環境課題への取り組みを8つの機能に分類し、それぞれの機能軸が連携して環境マネジメントを展開しています。特に、「脱炭素」「資源循環」「環境負荷低減（汚染防止）」は、最重要課題として、中長期の取り組みも強化しています。「地球温暖化防止」「環境保護」「資源の有効活用」という3つの分野での取り組みを強化しています。

ジヤトコの環境活動概念図



ジヤトコの環境活動概念図



*1 企業理念の詳細はP.7をご覧ください
*2 環境方針の詳細はP.20をご覧ください
*3 品質方針の詳細はP.65をご覧ください

環境マネジメント

2023年度の環境実績 ※日本国内事業活動における



環境マネジメント

マテリアルバランス

ジヤトコは循環型経済形成を目指し、適切な資源の使用と排出量低減に取り組んでいます。

投入量	単位	2021	2022	2023
原材料（アルミ材）	kt	77	59	64
原材料（鋼材・鋼板）	kt	174	137	149
エネルギー（LNG）	km^3	10,059	10,059	8,726
エネルギー（LPG）	T	1,754	1,434	1,343
エネルギー（灯油）	kL	5,913	4,562	4,321
エネルギー（その他）	kL	125	224	60
電力	MW-h	605,669	513,001	551,685
水資源（工業用水）	km^3	1,262	1,060	1,198
水資源（上水）	km^3	241	142	137
水資源（地下水）	km^3	949	904	1,007

排出量/生産量	単位	2021	2022	2023
CO_2	t-CO_2	320,739	281,599	276,604
排出ガス	kNm^2	701,092	493,700	618,554
排水量	km^3	2,207	2,204	2,466
廃棄物発生量	t	5,472	7,009	6,960

（グローバル合計）

環境マネジメント

国内外各拠点のマテリアルマネジメント

ジヤトコ（広州）自動変速機有限公司

	2019	2020	2021	2022	2023
電気（kw/h）	105,640,590	109,968,489	87,337,703	61,967,997	52,300,000
天然ガス（m^3）	–	–	–	–	–
プロパンガス（t）	–	–	–	–	–
水使用量（m^3）	156,462	161,703	131,685	102,045	89,000

ジヤトコ メキシコ社

	2019	2020	2021	2022	2023
電気（kw/h）	231,490,755	169,617,431	172,062,929	160,110,000	178,186,000
天然ガス（m^3）	2,010,198.67	796,922	1,290,724	1,500,000	812
プロパンガス（t）	241	150	–	–	–
水使用量（m^3）	372,382	307,989	329,334	326,700	376,000

ジヤトコ国内

	2019	2020	2021	2022	2023
電気（kw/h）	354,274,000	266,682,000	300,797,000	285,914,000	298,173,000
天然ガス（m^3）	8,718,000	7,422,000	8,433,000	8,157,000	7,883,000
プロパンガス（t）	2,329,000	1,686,000	1,734,000	1,686,000	1,322,000
水使用量（m^3）	2,574,000	1,927,000	1,905,000	1,651,000	1,809,000

*ジヤトコ、ジヤトコ エンジニアリング、ジヤトコ プラントテック、ジヤトコ ツール

ジヤトコ（蘇州）自動変速機有限公司

	2019	2020	2021	2022	2023
電気（kw/h）	–	29,598,000	27,699,000	18,875,000	14,160,000
天然ガス（m^3）	–	36,000	36,000	43,000	32000
プロパンガス（t）	–	–	–	–	–
水使用量（m^3）	–	43,438	43,156	24,690	30,000

ジヤトコ タイランド社

	2019	2020	2021	2022	2023
電気（kw/h）	27,119,912	14,555,600	19,590,020	13,106,000	14,099,000
天然ガス（m^3）	–	–	–	–	–
プロパンガス（t）	42.77	17.46	20.12	23	22
水使用量（m^3）	58,891	34,025	42,824	39,000	38,000

環境マネジメント

PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷低減

ジヤトコは年度ごとに環境負荷低減のための取り組み事項を「環境目標」として掲げ、その実現を目指しています。また、毎年度の取り組み結果を踏まえ、次年度以降の目標を設定することで、環境パフォーマンスの継続的改善を図っています。2023年度は環境関連の重大な法令違反や条例違反による行政処分は受けていませんが、協定値を超えた環境事故が1件あり、行政と連携して必要な措置と検討を行いました。

環境目的	項 目	2023年度目標	2023年度実績評価	評価	2024年度目標
環境マネジメントシステムの継続的改善	定期的レビュー実施	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）	○	定期審査受審、登録継続 内部環境監査実施（1回） 環境委員会実施（2回）
	内部環境監査員の養成	必要人員	21名	○	必要人員
法規制の遵守、環境問題の未然防止	行政、官公庁からの指摘	指摘件数 0件	指摘件数 0件	○	指摘件数 0件
	著しい環境側面の維持管理	定期見直し実施率 100%	定期見直し実施率 100%	○	定期見直し実施率 100%
	環境法関連教育の実施	環境教育の実施（2回）	環境教育の実施（2回）	○	環境教育の実施（2回）
	環境事故防止	ABランク事故　0件 Cランク事故　0件	ABランク事故　1件 Cランク事故　1件	△	ABランク事故　0件 Cランク事故　1件
資源の有効活用	省エネルギーの推進 売り上げ当たりCO_2排出量	51.0 t-CO_2 / 億円	52.1 t-CO_2 / 億円	△	45.3t-CO_2 / 億円
	廃棄物削減の推進 廃棄物総発生量の削減	2.004kg/台	1.879kg/台	○	2.105kg/台
	水使用量の削減	0.550m^3/台	0.555m^3/台	△	0.543m^3/台
環境負荷低減に向けた技術開発	環境配慮設計 [環境保全、自動車燃費改善への貢献]	個別（商品）課題の課題達成率 100%	個別（商品）課題の目標達成率 100%	○	各商品別QCT KPIの目標達成率 100%
	商品の環境負荷物質管理と削減	商品の環境法規制への適合率 100%	商品の環境法規制への適合率 100%	○	環境法規制変更時の商品適合・維持 100%

脱炭素化の推進

カーボンニュートラルへの取り組み

ジヤトコは「ライフサイクル全体」「生産」「開発」「環境活動」の4つの領域への取り組みを中心に、
2050年までにバリューチェーン全体でのカーボンニュートラル実現を目指します。

ライフサイクル全体での取り組み

原材料調達からリサイクルまでの一連のライフサイクルにおける環境影響を評価し、当社事業活動とサプライチェーンのCO_2排出量削減に取り組みます。



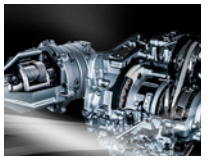
生産における取り組み

DXの推進と生産技術の革新によりスマートファクトリーを実現し、省エネルギー化を促進します。また、再生可能エネルギーの積極的導入や発電などにより、生産プロセスにおけるCO_2排出量削減に取り組みます。



開発における取り組み

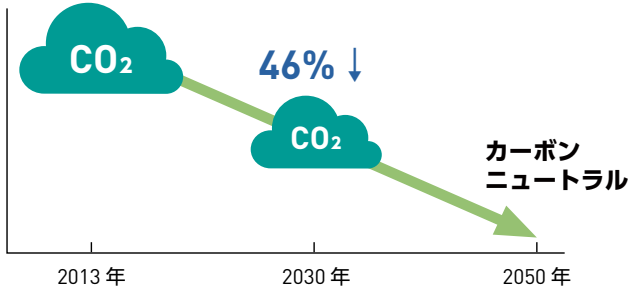
トランスミッションの効率を極限まで改善し、一層の燃費向上に取り組みます。さらに、電気自動車、ハイブリッド車などの次世代自動車に向けて、当社のコア技術を活かした商品開発を加速し、CO_2排出量削減に貢献します。



環境活動など包括的な取り組み

行政や地域社会、NPO法人などと協働した植林などの環境活動をこれまで以上に推進し、よき企業市民としてもCO_2削減に貢献していきます。





2030年までにCO_2排出量
46%減*を目指す *2013年比

カーボンニュートラル・ステアリング・コミッティ

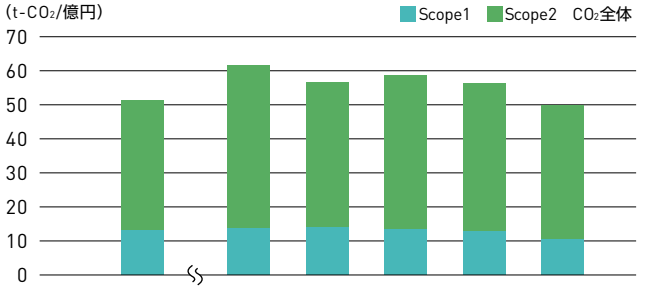
カーボンニュートラル実現に向けた戦略策定や進捗確認などは2ヶ月に1回のカーボンニュートラル・ステアリング・コミッティで役員が議論しています。「ライフサイクル全体」「生産」「商品」「環境」の責任者が参加し、社長らレビュアーの支援・意思決定による迅速な課題解決と全社での活動の活性化を目指しています。

カーボンニュートラル・ステアリング・コミッティ体制

- 議長:経営企画部担当役員
- 主催:経営企画部

レビュアー: CEO
(商品における取り組み)
開発部門役員
(LCA全体での取り組み)
調達部門・営業部門役員
(生産における取り組み)
生産部門・品質部門役員
(環境活動などの取り組み)
企画部門役員

CO_2排出量（国内）



	2010	2019	2020	2021	2022	2023
Scope2	38.4	48.0	42.7	45.4	43.6	39.5
Scope1	13.1	13.1	13.9	13.3	12.7	10.4
CO_2全体	51.5	51.5	56.6	58.7	56.3	49.9

脱炭素化の推進

生産での取り組み

生産プロセスの効率化を追求した省エネルギー・省資源活動を推進

ジヤトコでは原材料の購入後、鋳造、鍛造、加工、熱処理、組立と完成ユニットまでの一貫生産を行っており、新商品計画時、新技術開発時においては地球資源の有限性を認識したアプローチを行っています。特に新技術の積極的導入によるCO_2削減や有害物質管理、遊休設備の活用によるリサイクルといった重点課題に取り組むため、環境負荷が低い高効率な工法の開発やプロセスを短縮するための革新技術の開発、省エネルギー・省資源型設備の導入・転換などを進めています。

加工・熱処理ラインに生産設計を導入

生産技術部は商品の設計にかかわる「生産設計」を推進しています。プーリーの加工ラインでは加工箇所を極力少なくすることで設備台数・サイクルタイムを大幅に削減し、熱処理ラインでは必要なスペックを絞り込みサイクルタイムを大幅にカットしました。

	従来ユニット用ライン		新ユニット用ライン	
加工ライン 設備台数	49台×3.5モジュール	⟫	27台×3.5モジュール	▲43%
熱処理ライン サイクルタイム	100%	⟫	66.6%	▲33%

油圧圧入からサーボ（電動）圧入に変更

従来の組立工程における油圧の圧入では油圧発生装置でポンプを常時回しています。そのため、消費電力や騒音・発熱が大きくサーボを用いた電動圧入への変更を進めています。サーボは油圧の圧入のようにポンプを常時駆動しないため、消費電力・騒音・発熱を抑えることができました。

生産工程・工法の変革と革新的技術開発を強化

ジヤトコでは次世代技術の開発においてもCO_2排出の低減を主要目標の一つに掲げており、生産部門と開発部門が連携して2050年度までに温室効果ガスをゼロにするという目標の達成を目指しています。最新のCVTの生産工程・工法では、これまでのプロセスをさらに見直し、生産リードタイムを大幅に短縮しています。その他すべての部品について生産部門・開発部門が連携しながらCO_2の排出抑制に取り組んでいます。



真空浸炭炉

また、開発初期から生産技術が商品の設計にかかわる「生産設計」を進めることで、商品性能と生産性の向上を両立させる活動にも注力しています。ダイキャスト時の溶湯購入・歯車部品のシェービング工程廃止・真空浸炭炉の開発・薄肉ダイキャストや材料変更によるユニット軽量化、鋳造機を小型化（ダウンサイジング）することで、より少ないエネルギーで同じ商品が製作可能になるなど、さらなる技術のブレークスルーに挑戦しています。

電力運用を効率化するNaS電池を導入

地球環境保全に向けた取り組みとして、ジヤトコでは異業種企業との連携を積極的に進めています。東京電力エナジーパートナー株式会社とは、2005年度から共同でNaS電池*設備を導入し、負荷の少ない夜間に充電し負荷の高い昼間に使用することで、効率的な電力運用を実施しています。

また、2020年度には設備更新を行い、電力会社の電力不足時に電力を放出し、電力需給の安定に貢献しています。



NaS電池設備
*液体ナトリウムと液体硫黄、特殊セラミックを利用した蓄電池

脱炭素化の推進

物流での取り組み

ジヤトコの部品輸送ではGX（グリーントランスフォーメーション）としてCO₂排出量削減に取り組んでおり、2013年から2023年までに9%を削減しました。

部品輸送に伴うCO₂排出量を削減するために、日本国内のお客さまの理解を得ながらモーダルシフトを推進しています。

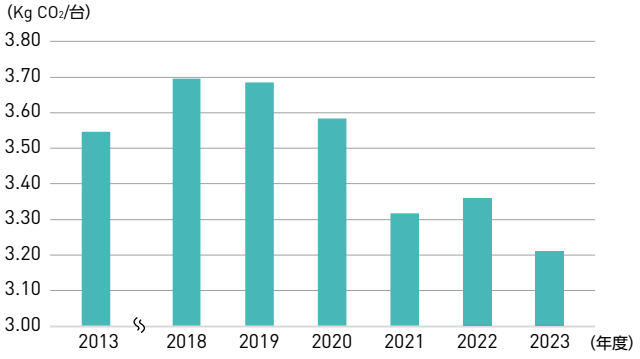
具体的には、2009年度より、広島方面（約780km）からジヤトコの生産拠点がある静岡県までの調達部品の輸送を、トラックから鉄道輸送に切り替えました。この結果、83.3%のCO₂削減効果をあげることができました。

また、2019年9月よりジヤトコ富士地区からの京都八木地区へのジヤトコ生産部品の輸送にダブル連結トラックを導入しました。

高積載率での輸送を行い、CO₂削減に繋げました。

今後もモーダルシフトや積載効率アップにより環境にやさしい部品輸送に取り組んでいきます。

輸送におけるユニット当たりのCO₂排出量





鉄道輸送



ダブル連結トラック　写真：(株) バンテック提供

2023年度の輸送におけるCO₂排出量

9%削減
(2013年度比)



物流からのCO₂排出量 (年度)

	単位	2021	2022	2023
合計	t-CO₂	4,376	4,166	4,344
インバウンド	t-CO₂	3,127	2,824	2,834
インターナル	t-CO₂	1,108	1,262	1,422
アウトバウンド	t-CO₂	141	80	88

荷量比率 (年度)

	単位	2021	2022	2023
トラック	%	92.9	94.0	94.3
鉄道	%	7.1	6.0	5.7

脱炭素化の推進

さまざまな取り組み

各工場で照明設備を改善

照明改善によるCO_2削減を計画的に進めています。工場照明における電力量の消費割合は決して少なくないため、工場単位で主に天井照明の改善を実施。照度環境を確保したうえで、省エネルギー型器具への変更のほか点灯の間引きや適切な消灯を実施しました。

回生エネルギーや省電力機器の利用と消費電力の見える化

モーター回生エネルギーの利用やLED照明など省電力機器の採用により、電力消費量を抑えることができました。また、メインライン、サブラインごとに消費電力を見える化しました。富士第1地区の事務棟には会議室のCO_2排出量が一目で分かる工夫を凝らし、省エネ意識を向上させる活動を進めています。



会議室の入り口にCO_2排出量を掲示

グリーンカーテンプロジェクトの実施

京都・八木工場では、「グリーンカーテンプロジェクト」と題し、工場建屋につる性の植物を絡ませることで、直接日光を遮断。日差しを遮ることで、放射熱の発生と侵入を抑えています。

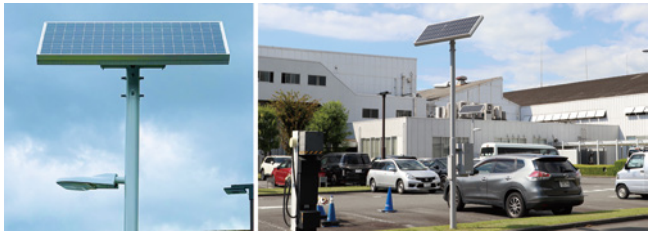

八木工場での「グリーンカーテンプロジェクト」

日産リーフバッテリー再利用、太陽光発電外灯

富士1地区・本社地区外灯設備を太陽光仕様へ変更し、商用電力ゼロによりCO_2ゼロ化しました。

CO_2削減効果は0.8t-CO_2/年・台となっており、蓄電池は日産リーフの使用済みバッテリーを再利用しサーキュラーエコノミーにも貢献。

非常時には着脱可能で災害用ポータブル電源(容量140.000mA)として使用可能となっています。


太陽光発電外灯

環境コンテンツによる従業員の啓発活動

従業員の環境意識向上を目的に、従業員向けポータルサイトに環境専門のサイトを設けています。社内外の環境行事への参加を呼びかけるとともに、ジヤトコ独自のeco検定やエコドライブ検定など気軽に環境問題を学べるコンテンツを掲載しています。

実際の電力使用量の状態が分かる「電力見える化システム」や省エネルギーの情報を掲載した「動力原低について」を掲載しています。

全従業員が各地区の電力使用量を手軽に確認できるため、一人ひとりの自発的な節電活動につながっています。


電力の見える化システム

クルマの電動化への貢献

独自技術を生かした電動化商品の投入

ジヤトコは10年以上前から電動化時代に備えてノウハウを積み重ねてきました。2010年に世界で初めて1モーター2クラッチシステムを採用したFRハイブリッド車用トランスミッション、JR712Eを開発。2013年には同システムのエンジンとモーターの結合部に世界で初めて乾式多板クラッチを採用したFFハイブリッド車用トランスミッション、Jatco CVT8 HYBRID を市場投入し、さらに2021年からはジヤトコ タイランド社で日産キックス向けのモーター・ギアボックスの生産を開始しました。日産のフラッグシップEVである新型日産アリアにもギア部品を供給し、日産アリアの特長の一つである静粛性などに貢献しています。積み重ねてきたノウハウを基に、2025年までにはモーター・インバーター・ギアが一体となった電動車用駆動ユニットのe-Axleを本格的に市場投入します。

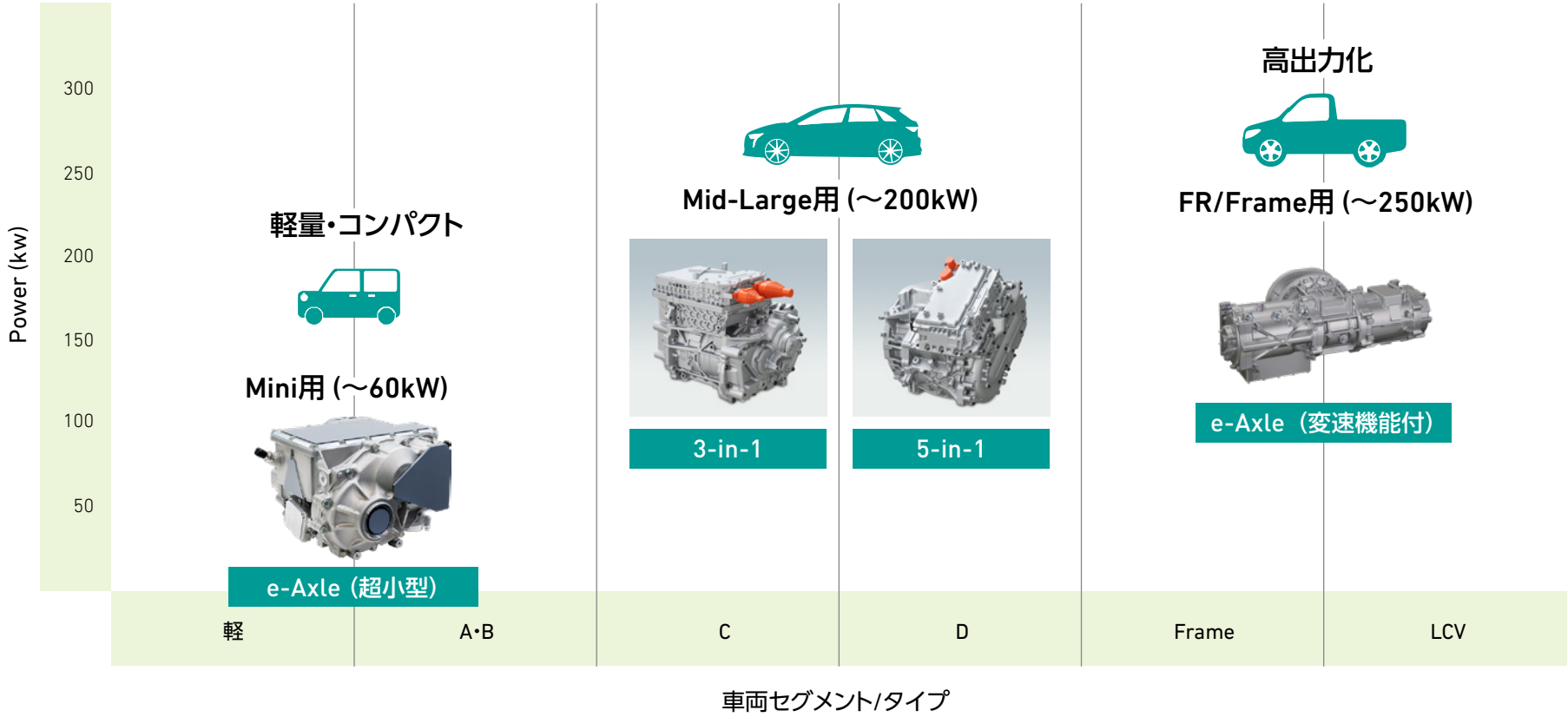


クルマの電動化への貢献

電動化への取り組み

電動パワートレインをフルラインナップ化してお客さまのニーズに応える

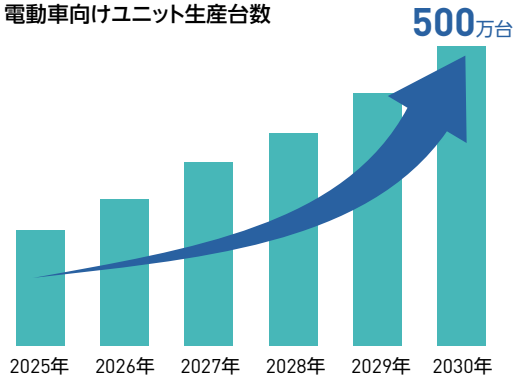
電動化が加速する中、EVは小型車、中型車のセグメントから、軽自動車やコンパクトカー、あるいは高性能車やピックアップトラックなどの大型車へとラインナップが広がっていきます。ジヤトコもそれらの動きに対してさまざまな検討を行っています。中でも注力しているのが研究開発中の超小型e-Axleと、大型ピックアップトラックなどへの搭載を想定した変速機能付きのe-Axleの2機種です。



クルマの電動化への貢献

2030年までの電動車両向けユニット年産500万台へ体制強化

ジヤトコは電動車両向けユニットの年間生産台数を2030年に500万台にする目標を掲げています。その実現のために社内体制の強化を着々と進めてきました。2023年4月には、新しく「eパワートレイン事業推進部門」を設立しました。電動化事業を全社視点で企画・推進し、電動パワートレイン事業を力強く推し進めています。開発では、2022年10月に座間に開発センターを立ち上げるなど、電動パワートレインの設計開発能力を拡充しつづけています。そしてグローバルで競争力のある生産コストを実現するため、大量生産を前提とした生産方式からいったん離れ、生産量の変動や機種の増減にも柔軟に対応できる生産方式を、ゼロから検討しています。



電気自動車用「3-in-1」、e-POWER（ハイブリッド）用「5-in-1」



3-in-1 電気自動車用



5-in-1 e-POWER用

- 主要な駆動部品の共用化
- 構成部品のモジュール化による生産効率の向上

▸▸30%*のコスト削減 *2019年比

- レアアース使用率1%以下のモーター採用

開発・画像出典元：日産自動車株式会社

X-in-1生産ライン



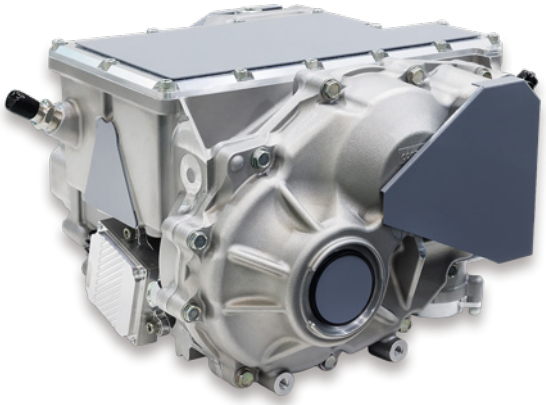


生産方式をゼロから見直した生産ラインが完成間近

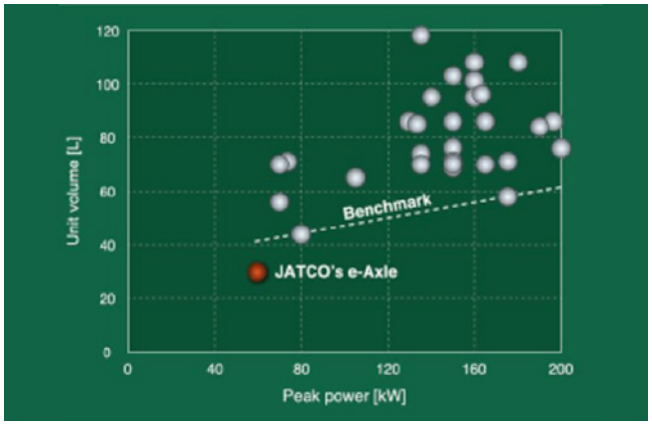
クルマの電動化への貢献

ジヤトコ独自開発の超小型e-Axle

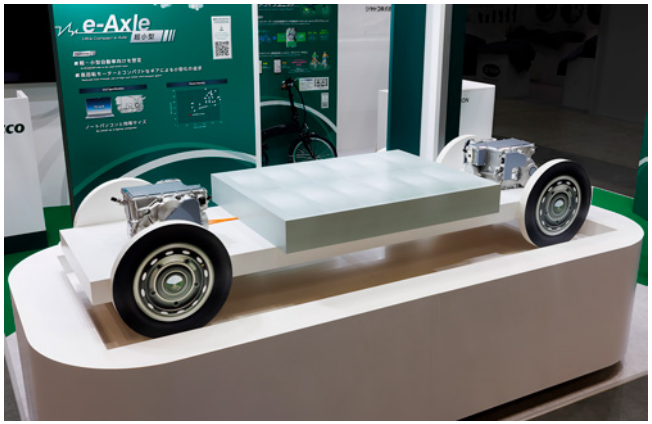
ジヤトコはオリジナルのe-Axleの研究開発も進めています。ノートパソコンに隠れるほどの超小型サイズでありながら十分な出力を発生するこのユニットは、業界トップクラスのサイズ効率を誇ります。
e-Axleの独自開発において、小型化は最重要課題の一つです。多くのお客さまの車両に載せられるサイズであることから、ビジネスチャンスが広がると考えています。
当社独自の電動パワートレインの開発は、電動化技術の手の内化とビジネス拡大の両面から今後も継続して進めていきます。



15インチのノートパソコンと同等のサイズ



業界トップクラスのサイズ効率



軽自動車への搭載イメージ　人とくるまのテクノロジー展 2024 出展

循環型経済の構築

ジヤトコのサーキュラーエコノミーの考え方

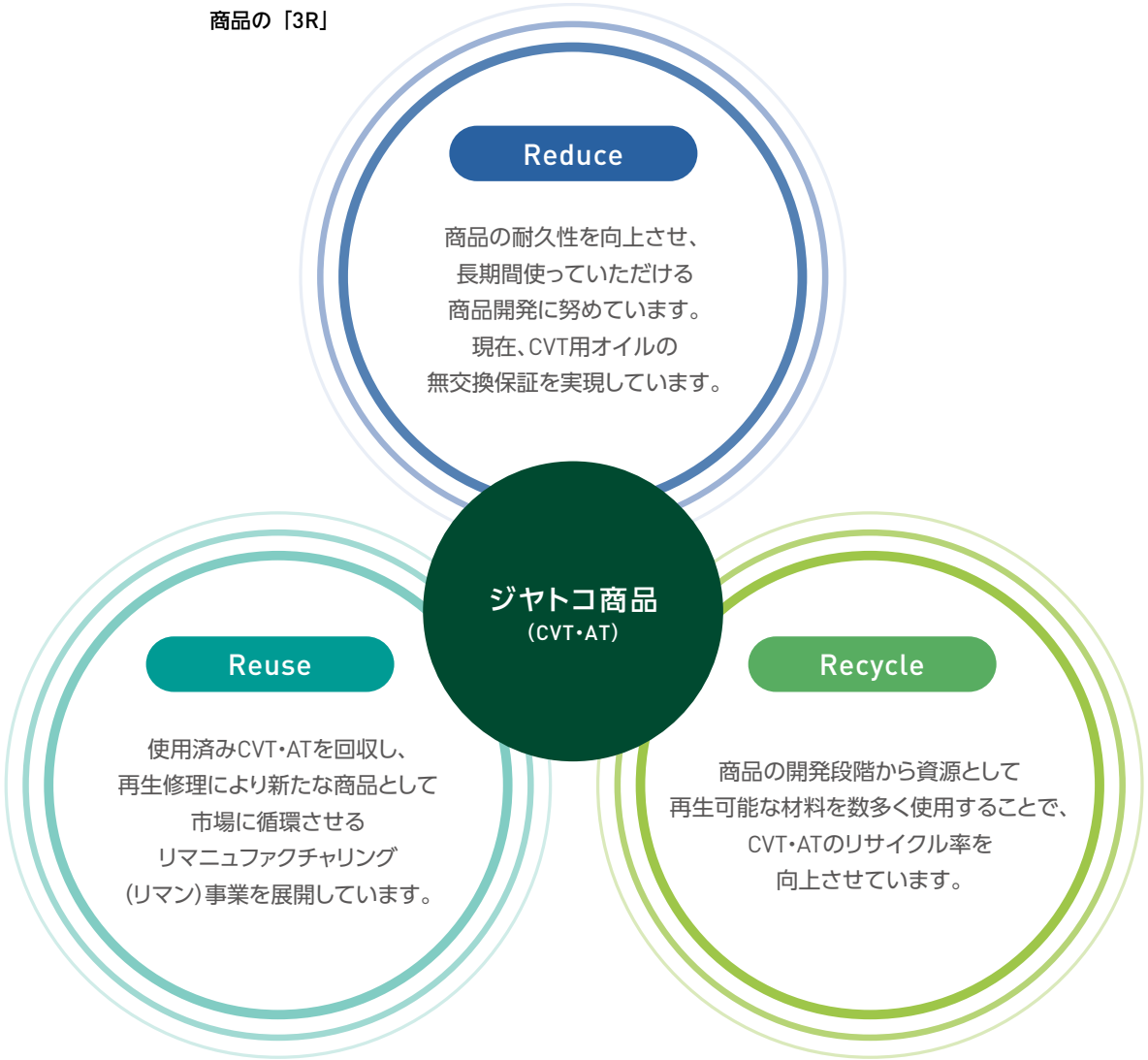
ジヤトコはモノづくり企業として、限りある資源を有効に活用することが大切だと考えています。以前より、使用済みとなった当社製CVT・ATを回収し、再生して再利用するリマニュファクチャリングを推進してきました。今後は、さらなるサーキュラーエコノミー推進にも力を入れていきます。資源依存の最小化、廃棄物の削減など、製品および事業活動全体において、サーキュラーエコノミーの効果的な仕組みの構築に取り組んでいきます。

循環型経済の実現へ

3Rとは、循環型経済を構築するためのキーワードとなるReduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）という3つの英単語の頭文字を表したものです。

ジヤトコでは特に商品を長く使っていただけるように設計開発することで廃棄物を減らし（Reduce）、市場から回収された製品の中からまだ使える部品は再生利用し（Reuse）、再生可能な材料を活用して新たな資源へ再生化（Recycle）することで循環型経済の実現に取り組んでいます。

商品の「3R」

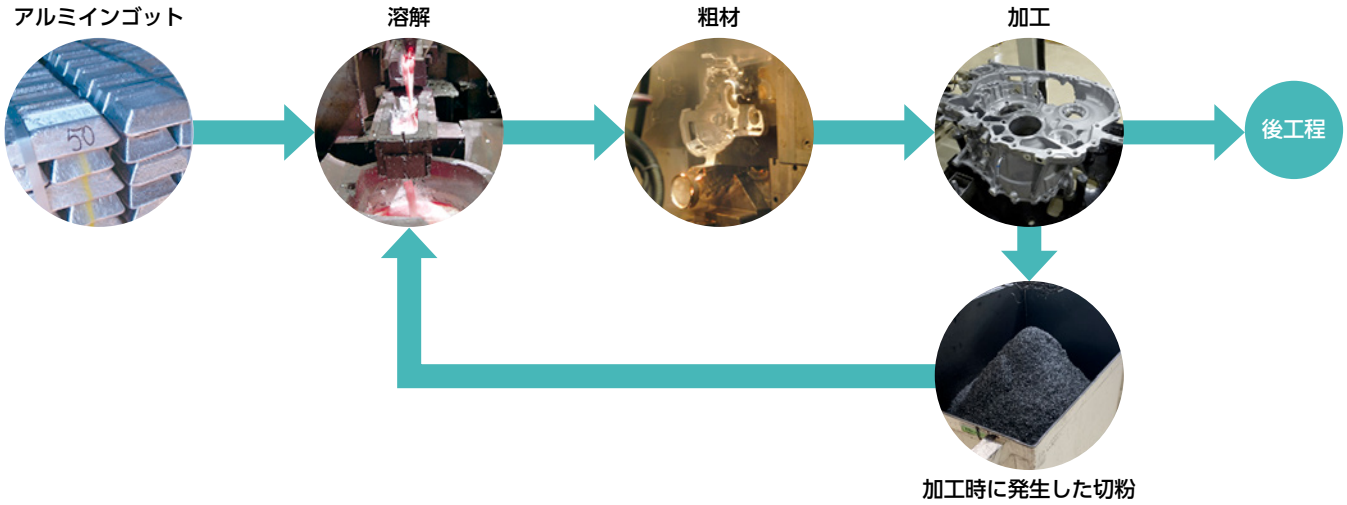


循環型経済の構築

アルミ廃材のリサイクル

生産過程においてアルミ粗材を切削加工する際、アルミの削りカス=切粉が発生します。

ジヤトコではこれら発生した切粉を自社で回収し再度溶解、不純物を取り除いた後、粗材加工工程を経て製品として再利用しています。アルミ切粉をリサイクルすることで、新規資源投入の削減、廃棄物削減だけでなく、省エネルギー・温室効果ガス（CO_2）排出量の削減に貢献しています。



荷姿改善・梱包資材の再利用

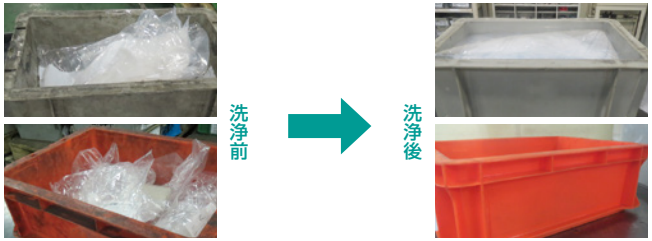
トラック台数削減につながる積載率向上対策として、購入部品の納入荷姿の改善を行っています。

また、従来、商品の移動・保管に使用している樹脂製容器や商品保護のために使っている樹脂製緩衝材類は、劣化や商品の変化により使えなくなった場合、産業廃棄物として処分してきましたが、2004年以降、ほかの商品への再利用を開始。また、樹脂製品製作会社にも協力いただき、原料としてリサイクルするなど、廃棄量の削減を進めています。

購入部品の荷姿の改善

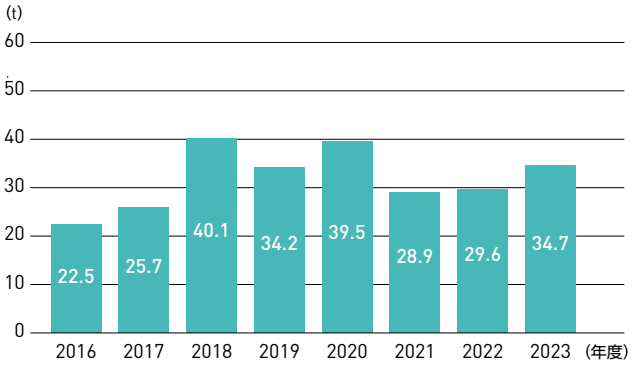


無駄な空間を無くすことにより、荷の輸送効率が向上するだけでなく、荷扱い時の安全性向上も確保しています



また、合わせて容器のクリーン化活動も推進しています

輸送用樹脂製容器類の再利用・リサイクルの推移



循環型経済の構築

廃棄物対策への取り組み

分別の徹底で廃棄物を再資源化

ジヤトコでは、資源を効率的かつ持続的に利用するため、徹底した分別による再資源化に努めています。廃棄物処理方法として単純焼却処分や埋立処分を打ち切り、マテリアルリサイクル（再生利用）やサーマルリサイクル（燃料化）を実施することにより、日本国内の事業所では生産段階における廃棄物の再資源化率100%を達成しています。

再資源化率

100%達成

全員参加による廃棄物削減活動

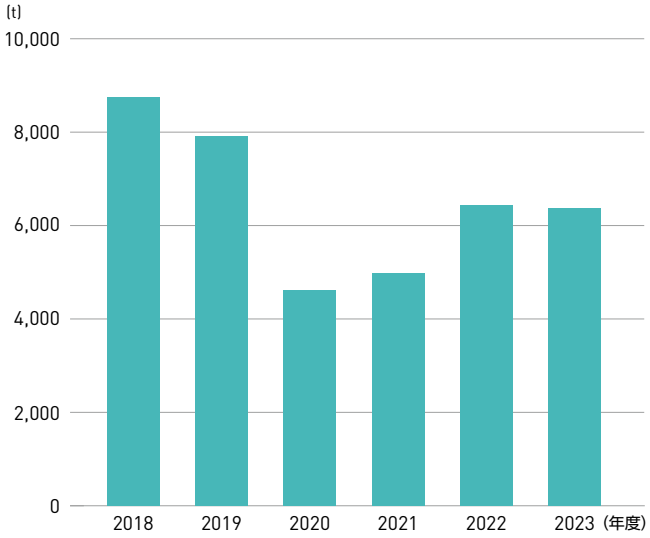
ジヤトコ従業員は常に、3Rの視点で廃棄物削減に取り組んでいます。

各事業所で廃棄物総量削減の目標を立て、各職場が実施した取り組みのアイデアを登録することで、廃棄物削減情報の共有化と職場ごとのモチベーションの向上を図っています。2023年の廃棄物量は、6,375tで2006年に対し67.8%削減されました。

2023年度の廃棄物総量

67.8%削減
（2006年度比）

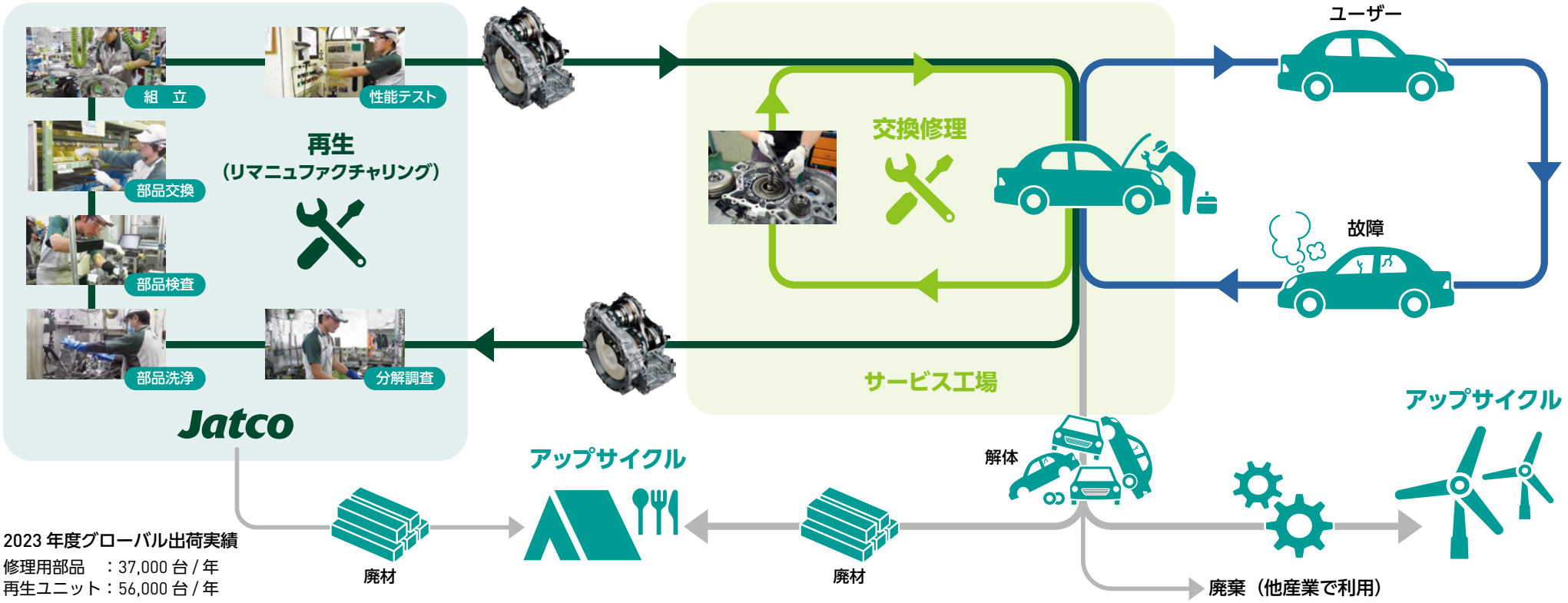
廃棄物発生量実績



循環型経済の構築

ユニット修理・再生への取り組み

ジヤトコは、資源依存の最小化、廃棄物削減の観点から、市場に出たユニットの修理技術の開発や、リユース事業に取り組んできました。
当社製CVT/ATが故障した場合は、まず故障部位を特定し可能な限り、その場で故障部品の交換修理を行います。
部品交換が困難な場合は、ユニットを回収し、分解調査、洗浄、検査、交換、組立、性能テストを経て、新品と変わらない品質のアフターサービス部品として再生し、お客さまに提供します。
また、CVT/ATとしての再生が困難なユニットは、材料としての再利用を進めます。
これらの活動でアップサイクルを含めた、ユニットや部品の再利用の更なる可能性を探索し、サーキュラーエコノミーの効果的な仕組みの構築に取り組んでいきます。



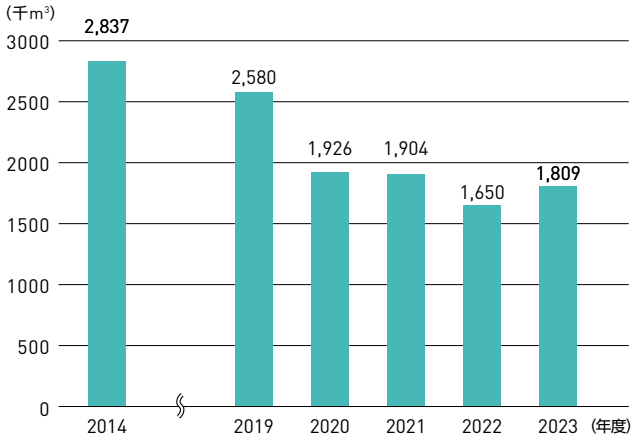
2023年度グローバル出荷実績
修理用部品　：37,000台/年
再生ユニット：56,000台/年

大気・水資源・土壌保全

毎年2%の水削減が目標

ジヤトコは工場での生産に伴う水使用量を把握し、削減への取り組みを進めています。親会社である日産自動車株式会社が策定した「ニッサン・グリーンプログラム」に則り、地球規模の水枯渇対策として2014年度から本格的に水使用量の削減に取り組んでいます。毎年2%削減することを目標に置き、2023年度は2014年度比36%の削減を実現しました。

水使用量



高水準の浄化を継続的に維持

排水にあたっては国や市町村の基準を遵守するのはもちろん、それ以上に厳しい社内基準を設けて浄化を実施しています。各地区の特徴に応じて、活性炭吸着法、限外ろ過法、高速凝集沈殿法、接触酸化法、砂ろ過、加圧浮上などの施設を組み合わせることで、高水準の浄化を継続的に維持しています。

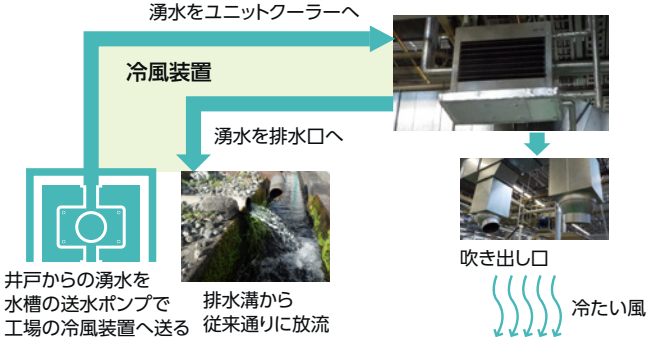
また、国内の各事業所では水道の蛇口に節水バルブを取り付け、水使用量削減に取り組んでいます。



水処理設備

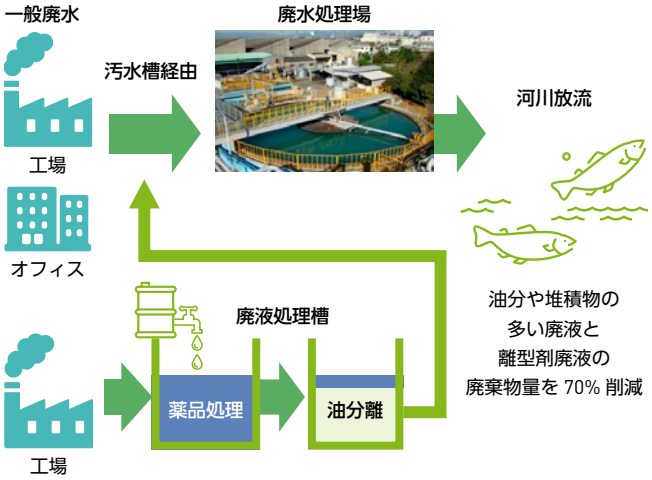
富士山湧水クールファン

富士山麓に位置する富士第1地区工場は敷地内に湧水がわいています。従来は排水溝から放流していましたが、湧水の温度が1年中15-17℃を維持するため、工場内の冷風装置を経由し、天然のクーラーとして活用しています。



工場の廃液を削減

工場やオフィスから排出される汚水は、社内の水処理施設に送られ安全な水に処理してから河川に放流しています。しかし、油分や堆積物の多い濃廃液や離型剤廃液は水処理施設で安全な水質に処理できないため、廃棄物として外部で処理していました。そこで使用薬剤や浄化方法の見直しを繰り返し行い、濃廃液と離型剤廃液の社内での処理が可能となりました。この改善によって濃廃液と離型剤廃液の廃棄物量を70%削減しました。



大気・水資源・土壌保全

冷却水循環装置の導入で排水を再利用

ジヤトコでは、生産設備の冷却や洗浄・切削油の希釈に使用している水の浄化のため、冷却水循環装置を導入し、排水の再利用を推進しています。



鋳造設備の冷却水循環装置

雨水対策を実施

工場の敷地へ降った雨水は、排水口から直接河川へと排水されます。工場敷地内の建物や道路に付着した油脂などによって汚れた雨水が河川に流れないように排水口の状況を常時カメラで監視しています。

排水口をすぐに認識できるよう、従業員の手で色分けし、間違って汚れた水を流さないことはもちろん、色分け作業を通じて排水口が河川へとつながる入口であることを従業員全員が意識するようになりました。

敷地内を走る従業員のクルマや部品、商品を運搬する車両から漏れたオイルなどが、万が一排水口へ流れた場合に備えて、河川との接続口に流れを止めるゲートを設けています。



従業員による排水口の色分け作業

安全・安心に配慮した汚水の輸送方法

ジヤトコでは汚水の発生を減らすとともに、発生した汚水を処理施設へと輸送する際にも安全性に配慮しています。部品を洗浄する設備には、水の汚れを取り除き、繰り返し再使用可能な工夫が施されており、数ヵ月使用した後にローリー車で処理施設へと輸送しています。

また、地中に埋設された配管や側溝で汚れた水を処理施設に送る方法は経年変化の影響を受けやすく、信頼性に問題があると考え、従業員の目が行き届く地上に露出した配管などで処理施設まで運ぶ方法へと改善を進めています。



廃棄物専用運搬車両による処理施設への運搬

大気・水資源・土壌保全

化学物質の管理活動

揮発性有機化合物の管理

揮発性有機化合物（VOC）対策は、一般社団法人日本自動車部品工業会（JAPIA）の行動計画に基づき、2010年度までに全VOC排出量を30%削減（2000年度比）することを目標とした活動を実施しました。その結果、2006年度までに98%削減することができ、2010年度には99%を達成、2023年度も99%を削減しました。

2023年度のVOC排出量

99%削減
（2000年度比）

地下水汚染

土壌・地下水汚染対策として、有機塩素系溶剤の使用を全廃し、現在は過去の有機塩素系溶剤の使用履歴と環境への影響をモニタリングしています。

有害大気汚染3物質の削減

有害大気汚染3物質[*1]の排出量については、2006年度に100%削減を達成し、2023年度も維持しています。

2023年度の有害大気汚染3物質排出量

ゼロ維持
（2000年度比）

PRTR[*2]対象物質の管理

ジヤトコが取り扱う、PRTR対象化学物質の国内生産拠点合計の排出量と移動量は下表の通りです。

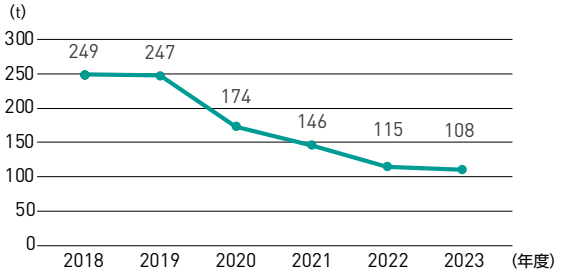
PRTR対象物質の取扱量と排出量（2023年度）

区分	科学物質名	取扱量	排出量			移動量
			大気	水質	土壌	
特定第一種	ダイオキシン	0	4.3	0	0	0
	ベンゼン	0	0	0	0	0
第一種	エチルベンゼン	0	9.8	0	0	0
	キシレン	26,000	30.4	0	0	0
	トリメチルベンゼン	73,000	11.3	0	0	0
	ノルマル-ヘキサン	0	2.1	0	0	0
	トルエン	9,500	45	0	0	0

単位：kg（ダイオキシン類はmg-TEQ/Nm^3）

*1 有害大気汚染3物質：ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン
*2 PRTR：Pollutant Release and Transfer Registerの略。特定化学物質の環境への排出量の把握 および管理の改善の促進に関する法律

PRTR対象物質総取扱い量（t）





事業

モノづくりを活かした
モビリティ・イノベーション

移動の可能性を拡げるソリューション

エネルギー効率の追求

移動の可能性を拡げるソリューション

コーポレートパーパス実現に向けて

ジヤトコは「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスを掲げています。クルマ以外のモビリティにも、ジヤトコ独自の技術を活かしていくことで、さまざまな社会課題の解決につなげていきたいと考えています。それを具体化するために、2024年4月1日付で組織改正を実施。コーポレート事業推進部門に新規事業の事業化推進組織を新設するなど、新規事業をより強力に推進しています。



電動アシスト自転車用ドライブユニットの開発チーム

「モビリティの可能性を拡げる」アントレプレナーシップの醸成

コーポレートパーパスに向かって継続的に成長していくために、ジヤトコは新しい価値や事業を創造し、リスクに挑戦していかなければなりません。その姿勢がアントレプレナーシップです。2022年度より、経営企画部を中心にアントレプレナーシップ醸成のためのビジネスコンテストや全社イベントなどを実施しています。ビジネスコンテストでは、グローバルの従業員から新規事業創出に向けたアイデアを募集。100件以上の応募に対し、経営層も交えて内容の検討を行っています。個人の柔軟性や変化への適応力が向上し、新たな機会や挑戦に対して積極的に取り組むことや、主体的に考えて行動し、自らのアイデアを実現することで、個人の成長や自己実現を追求することが狙いです。2022年度のビジネスコンテスト優秀案件は、2023年度に社外イノベーションプログラムに参加し、アイデアを磨いて最終的にビジネス提案を経営層に実施しました。その結果、推進者とともに新規事業推進部へ業務を移管し、事業化に向けた活動を継続している案件もあります。2023年度ビジネスコンテストの優秀案件も同様に、イノベーションプログラムに参加し、アイデアを磨いています。



2023年度のビジネスコンテストの参加メンバー

移動の可能性を拡げるソリューション

電動バイク用2速自動変速インホイールモータードライブユニットの開発

中国の電動バイク用ドライブユニットの有力メーカーである九洲科技と共同開発。2速の自動変速機とモーターを一体化したこのユニットは最大トルク250Nm、最高時速100km/hを超え、30度という厳しい勾配を上ることができます。





2速自動変速インホイールモータードライブユニット

電動アシスト自転車用ユニットの開発

独自技術でアシストモーターと変速機構を一体化したドライブユニット。バッテリー残量や航続距離のモニタリング、アシスト量の変更などができるスマホアプリの開発も行っています。2024年3月には韓国の自転車メーカーMYVELO社と量産に向けた協業についてのMOU（覚書）を締結しました。





2024年3月4日、MOU締結式の様子（左：ジヤトコ株式会社 小川英二常務、右：MYVELO社 崔 允豪社長）

移乗機構付車いすの開発

開発中の移乗機構付車いすは移乗と移動の機能を一つにしたモビリティです。介護する側、介護される側、両方が抱えている介護現場の課題に対し、人間工学を適用したロボット制御技術により、スムーズな移乗を実現し、介護の現場を笑顔にする商品の開発を進めています。







移動と移乗の機能を一つに

エネルギー効率の追求

ジヤトコは、パワートレインの専門メーカーとして、よりエネルギー効率の高いユニットを提供すべく、常に技術を磨き、環境性能と運転性能を両立させた商品を提供してきました。
今後市場投入する電動パワートレインにも、この技術をしっかりと活かしていきます。

Jatco CVT-XS

環境性能と運転性能を飛躍的に進化させたCVT

Jatco CVT-XS は当社がトランスミッションの専門メーカーとして 技術の粋を集めた集大成となる商品で、環境性能と運転性能が飛躍的に向上しています。従来トランスミッションと同サイズでギアレシオを約13%拡大すると共に、メカオイルポンプを小型化することによってメカニカルロスを低減しました。

これらの改善により車両の燃費が向上し、米国での温室効果ガス・燃費規制（GHG/CAFE）への対応にも貢献しています。



Jatco CVT-XS

X-in-1

主要部品の共用化とモジュール化を実現した電動パワートレイン

モーターやインバーター、ギアなどの主要部品を一体化することで、小型・軽量の電動パワートレインユニットを実現し、車両のエネルギー効率の向上に貢献します。

また、電気自動車用3-in-1とe-POWER用5-in-1の主要部品の共用化により、ユニットの生産効率を向上させ、生産時のエネルギー効率の向上にも寄与しています。

加えてレアアース使用率1%以下のモーターを採用することで環境負荷を低減しています。



3-in-1：電気自動車用



5-in-1：e-POWER用

高効率 超低粘度減速機油

EVの省電力に貢献する超低粘度油

EVの省電力に貢献できる超低粘度油を開発しました。

この油は、EVシステムの減速機のフリクションを大幅に低減できるため、バッテリー容量を増やさずに航続距離を延ばすことが可能です。

その結果、EVのコスト低減と普及に貢献し、地球温暖化防止につながるCO_2の削減を実現します。





社会

地域社会との共生および発展への貢献

コミュニティの発展

社会貢献活動

コミュニティの発展

地域社会のみなさまとともに

ジヤトコグループは、地域社会に愛される「よき企業市民」となることを目指しています。企業活動は地域社会とのかかわりの中で営まれるものであり、コミュニティの一員として主体的に社会とかかわり、さまざまな形で地域社会に貢献することが重要な責務と考えます。

ジヤトコグループの技術やアセットを活かした地域課題解決に積極的に参画することで「その地域にあってよかった」と思っていただけることは企業にとっても有益であり、地域と企業が互いに成長し発展していくことにつながります。例えば、自動車用ユニットの技術を活かして電動自転車用ドライブユニットを新たに開発し、地域が抱える観光振興や健康増進などの課題解決にともにチャレンジしています。また、岳南電車「ジヤトコ前」駅の花壇を整備し、地域のみなさまに生活の豊かさを提供しています。

複雑化する社会課題に対応しながら、ジヤトコグループは常に地域社会との対話を通じた地域活性化や社会・環境課題の解決に貢献していきます。



花咲く*ジヤトコ前駅プロジェクト

八木地区：従業員による吉富駅「お色直し」

京都府南丹市八木町にある吉富駅は、八木工場の従業員の多くが利用しており、少しでも力になれるよう継続的に清掃を行っています。2023年11月には従業員と南丹市職員の方々と合同で延べ90名のご協力のもと吉富駅の「お色直し」を行い見違えるほどきれいになりました。
これからもいつもお世話になっている駅を大事に使っていくようにいろいろな活動に取り組んでいきます。



富士地区：自転車を活用したまちづくりへの参画

ジヤトコではクルマで培ってきた技術をもとに電動アシスト自転車用ドライブユニットの開発を行っています。一方で、2022年3月に本社を構える富士市と自転車を活用したまちづくりに関する協定を結び地域課題へのチャレンジを進めています。2023年には地域の企業や団体とともに社会実験を実施するなど、地域まちづくり活動へ参画しています。



中国：子ども向けモノづくり体験

ジヤトコ〔広州〕自動変速機有限公司は、地域の子どもたちを対象にクルマが走る仕組みを学ぶプログラムを実施しています。これは「見る」「聞く」「触る」などの体験を通じて、楽しくCVTの機構を学ぶ体験型のプログラムです。そして、現在このプログラムは中国 広州にとどまらず、広東省の子どもたちにまで活動の場を広げています。



メキシコ：高卒認定講座開講

ジヤトコメキシコ社では、家庭の都合などで高校に通えなかったり、卒業できなかったりした従業員を対象に、社内で働きながら高卒認定を受けられるようにする講座を2021年より開講しています。本講座は2023年までに計4期開催され、計100名以上の卒業生を輩出しております。ジヤトコメキシコ社は高校卒業という目標を達成できるよう今後も支援していきます。




社会貢献活動

3つの重点分野「環境」「教育」「福祉」

ジヤトコグループの社会貢献活動は、従業員参加型スタイルが多くを占めるという特徴を持っています。

地域社会への貢献の取り組みとして「環境」「教育」「福祉」の3つの重点分野を設定し、実際に従業員が身体を動かす形で活動しているものがほとんどです。そして、各地域や現場で行う活動を通して、活動対象者からダイレクトな反応をもらえることも従業員にとっての大きなメリットとなります。



環境への貢献活動（一例）

富士市役所と共同で海岸清掃から富士山頂までの登山ルートの清掃活動を、ボランティアメンバーを募り実施しています。世界遺産の「富士山」の環境を守るだけでなく生態系の保護にも貢献しています。


富士山の山頂ゴミ拾いの様子

教育への貢献活動（一例）

ジヤトコグループでは、地域の学校と連携し、子供たちのキャリア形成へのお手伝いをしています。地域の小中高校へ従業員が講師として伺い、モノづくりの楽しさや仕事のやりがい、苦労話、キャリア選択などに関するお話を通して、子供たちが自分の将来を考えるきっかけづくりを支援しています。


静岡県立富士高等学校 みらい講座の様子

福祉への貢献活動（一例）

知的障がいを持ったサッカー選手たちは、練習の成果を発揮するチャンスが限られています。そこでジヤトコは、横浜Ｆ・マリノスと共同で、「ジヤトコ×横浜Ｆ・マリノスフトゥーロカップ（現ジヤトコカップ）」を2015年度から開催してきました。多くの知的障がいを持つ選手とそのチームが、本大会への出場を目標とし、改めてサッカーの楽しさを知るきっかけになるよう、サポートを続けます。


知的障がい者サッカー大会を支えた従業員ボランティアたち

社会貢献活動

生物多様性に配慮した活動の実施

私たちジヤトコは、重点分野の1つである環境への貢献活動として生物多様性にも積極的に取り組んでいます。

地球の未来は、豊かな生態系と共に織りなされていきます。ジヤトコは生物多様性の保全が持続可能な社会の礎であることを深く認識し、地域に根差した環境保全活動を通じて多様な生き物たちと共存できる世界を育んでいきます。

グローバルでの生物多様性の取り組み

ジヤトコはグローバルで植樹を積極的に行っています。日本においては富士市が主催する富士山麓ブナ林創造事業への参加や、メキシコでは世界環境デーにちなんでアグアスカリエンテス州内の公園で植樹を行いました。中国の広州市では、工場近隣での植樹を実施し従業員同士のコミュニケーションの促進にもつながりました。

また日本では、毎年6月の環境月間に合わせ、富士市いまいづみ幼稚園のみなさまと一緒に、近隣の田宿川に鮎の稚魚を放流しています。1999年から始まったこの活動は、本社がある富士市を流れる田宿川の生態系の保護と、幼稚園のみなさまに環境意識を育んでほしいという思いで行われています。私たちは社会の一員として積極的に生物多様性保全に取り組んでいきます。



日本
富士山麓ブナ林創造事業

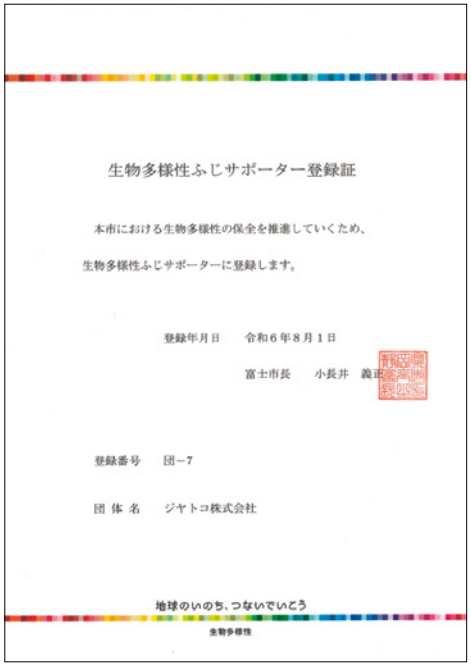

メキシコ
アグアスカリエンテス州での植樹


中国
広州開発区での植樹


日本
アユの稚魚放流

富士市の「生物多様性ふじサポーター」に登録

富士市では豊かな生物多様性を将来にわたって維持していくための取組みとして、「生物多様性ふじサポーター登録制度」を設けています。ジヤトコは法人サポーターとして登録し、市が実施する生物多様性保全に関する取組へ参加・協力をすることで、従業員の生物多様性への理解促進や積極的な富士市の生物多様性の保全への参画につなげていきます。


生物多様性ふじサポーター登録証

本市における生物多様性の保全を推進していくため、
生物多様性ふじサポーターに登録します。

登録年月日　令和６年８月１日
富士市長　小長井　義正

登録番号　団－7
団体名　ジヤトコ株式会社

地球のいのち、つないでいこう
生物多様性

社会貢献活動

グローバルで12,297人が参加

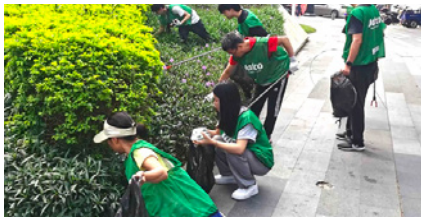
ジヤトコグループの社会貢献活動はグローバルに行われており、世界中でそれぞれの地域ニーズに合った活動に取り組んでいます。
2023年度は、グローバル全体で12,297人の従業員が参加。「環境」「教育」「福祉」各分野でさまざまな活動を行いました。



リサイクル品寄贈（ジヤトコ メキシコ社）

活動事例（一例）

分野	参加人数	主な活動事例
日本	5459	絵本寄贈（幼稚園） キッズエンジニア（小学生） 教育講座 学校&企業訪問（小・中・高校生） 富士山クリーンルート3776清掃 電動車椅子サッカーサポート
メキシコ	3789	リサイクル資材を寄贈 市内コミュニティエリアの清掃 がんを患う子どもたちの治療支援 困窮者への物品配布
中国	472	キャリアプラン講座 地下鉄駅環境保護活動 植樹活動 動物園ボランティア
フランス	16	中古タイヤの寄付 中古PCの寄付 ランニング参加費の一部を慈善団体へ寄付
アメリカ	69	食料品配給ボランティア 子どもたちにおもちゃを配布
タイ	1831	献血 宝くじ寄付 飲料容器のリサイクル
韓国	661	プラスチックキャップのリサイクル 困窮者への無料給食配布 動物支援の為のタオル寄付


地下鉄駅の環境保護活動
（ジヤトコ（広州）自動変速機有限公司）

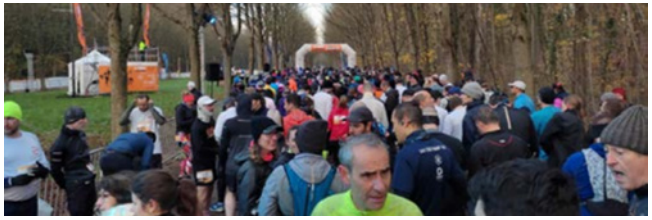

無料食料配布
（ジヤトコ 韓国エンジニアリング社/韓国サービス社）



リサイクル品寄付（ジヤトコ（蘇州）自動変速機有限公司）


飲料容器のリサイクル活動（ジヤトコ タイランド社）


食料寄付（ジヤトコ 米国会社）


ランニング参加費の一部を寄付（ジヤトコ フランス社）



人的資本

ダイバーシティの推進と社員の幸福の向上

ダイバーシティ&インクルージョン

人財育成

労働安全衛生

ダイバーシティ&インクルージョン

ジヤトコのダイバーシティ

時代の変化に対応しながらグローバルにビジネスを展開しジヤトコが成長していくために、従業員が大切にする価値観の一つとしてダイバーシティを位置づけています。多様な価値観を持った従業員が共存し、互いを尊重しながら意見を交わすことで、新しい発想が生まれ、より良い価値をお客さまに提供することを方針とし、さまざまな取り組みを行っています。

働き方の多様性

ジヤトコでは、全ての従業員のクオリティ・オブ・ライフ（QoL）向上のため、仕事の生産性の向上と共に、誰もが安心して活き活きと働ける職場環境の構築を目指しています。フレックスタイム制度や、育児・介護・不妊治療など幅広い視点からの家族サポートを目的としたライフサポート休暇、在宅勤務制度、勤務間インターバル制度などを早い時期から導入し、多くの従業員が活用しています。その実績が高く評価され、2015年から、次世代育成支援対策推進法に基づく特例認定（通称：プラチナくるみん認定）を受けています。

※プラチナくるみん…くるみん認定企業のうち、より高い水準の取組を行い、一定の要件を満たした企業のみが、認定を受けることができます。



女性の活躍推進

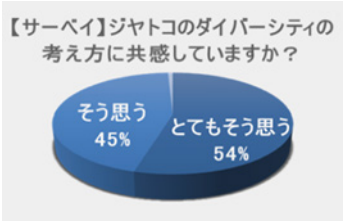
ジヤトコはダイバーシティ推進の柱の一つとして、女性の活躍推進に取り組んでいます。管理職に占める女性比率は、2023年度は5.2%で、厚生労働省が発表する産業ごとの管理職に占める女性の割合の平均値を上回っており、さらに7%の達成を目標に掲げて育成に力を入れています。男性社員の育休取得による育児参加も推奨しており、2023年度の男性育休取得率実績30.2%から、さらなる向上を目指して取り組んでいます。また、製造現場における女性活躍推進では、ダイバーシティラインで、女性がリーダーシップを発揮し、誰もが働きやすい生産ラインを実現しています。



全社の理解促進

ジヤトコのダイバーシティ&インクルージョンの考え方や全社の現在の状況について、従業員に広く周知し理解を促進するために、経営層を含む全社を対象としたe-Learningやサーベイを毎年実施しています。

2022年から新入社員にもダイバーシティ研修を導入し、従業員同士でディスカッションする機会を設けています。2023年のサーベイでは、回答者の99%がジヤトコのダイバーシティの考え方に共感していると回答しています。



障がい者の活躍推進

ジヤトコでは障がいを持った多くの従業員が活躍しています。多様な働き方、多様な人財が働きやすい職場の設置（ダイバーシティライン、屋内農園）が、活き活きと長く活躍できる新しい価値の提供につながっています。2023年度の障がい者雇用率は2.57%と法定雇用率を超えています。屋内農園で栽培されたハーブティや野菜は、昼休みに食堂で使用、販売されており、従業員からも大好評です。







屋内農園で野菜やハーブを栽培し、食堂で従業員に提供したり、お客さまへのギフトとして活用しています。




工場では、障がいを持つ従業員も、他の職場メンバーと一緒に、組立などの作業を担当しています。

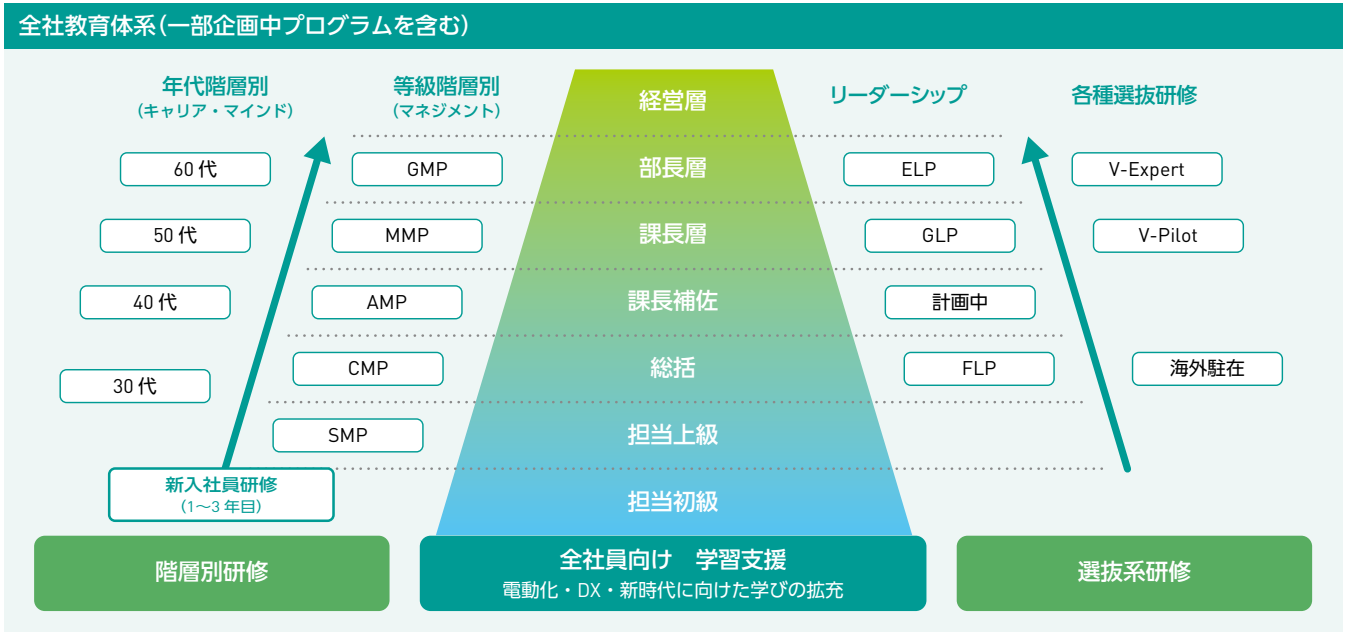
人財育成 ～ジヤトコの人財育成の考え方～

ジヤトコは、従業員一人ひとりが会社を構成する重要な人的資本であると捉え、それぞれが自身の成長と働きがいをより実感できる会社になることを目指し、多様性を尊重しながら人財育成に積極的に取り組んでいます。

従業員は、実務における役割実践・課題解決による成長だけでなく、役割に応じた能力開発プログラムや問題解決・コミュニケーションスキルの研修など、継続的に提供される幅広い成長機会を積極的に活用するとともに、上司も面談プログラムや継続的なOJTなどを通じて、従業員の成長を支援しています。

またジヤトコで社会人としての第一歩を踏み出した新入社員に対しては、先輩が日常の相談や、指導・アドバイスを行う「フレッシュマンリーダー制度」を導入しており、配属後の職場で充実した会社生活を送り、安心して業務課題にもチャレンジできるようサポートしています。

教育体系（事務・技術系）



GMP: General manager management practice, MMP: Manager management practice,
AMP: Assistant manager management practice, CMP: Chief management practice,
SMP: Staff management practice, FLP: Future leadership program, GLP: Global leadership program

業務や研修等を通じたグローバル感覚の醸成

ジヤトコは、グローバルビジネスに対応できる人財育成に取り組んでいます。入社2年目の海外研修を初め、若手従業員を数か月～1年間、海外拠点に派遣する短期派遣プログラムでは、業務だけでなく日常生活も含めたさまざまな経験を通じて、海外拠点との強い関係を構築したり、異文化に触れることで、世界基準での感覚を身につけたりしています。また海外拠点の人財も同様の短期派遣プログラムで積極的に受け入れ、拠点人財の育成と、インバウンドグローバリゼーションも推進しています。

DXツールの活用で、海外とのコミュニケーションが非常に容易になったことで、複数の海外拠点から、ONLINEで同時に参加できる新しいグローバル研修の運用も開始しました。



グローバル研修の様子

人財育成 ～幅広い成長の機会～

ジヤトコには手厚い研修制度や面談・公募など、従業員の成長をサポートする仕組みが豊富にあります。等級別の役割実践教育、年代層別のキャリア研修、グローバルでの選抜研修、上司との定期面談、キャリアプランに基づいたローテーションなども実施しています。

新入社員研修

入社後、1年かけて「ジヤトコを知る」プログラムを実施しています。社会人としてのモラル、マナーとともに、モノづくりのプロセス、共通の価値観にもとづいた仕事のやり方などを学びます。また製品・現場を知るために、全員が生産現場実習を受ける機会を設けています。様々な研修を通して仲間との絆を深めることや、会社の存在意義であるコーポレートパーパスについても学びます。





2年目海外研修

早期に海外での修羅場体験をすることにより、グローバル化への「軸・覚悟」醸成を図り、継続した自己成長意欲に繋げるため、入社2年目の従業員を対象に5日間の海外研修を実施しています。言葉や文化が全く異なる環境の中で、さまざまな課題にチャレンジすることで、仲間との絆を深め、グローバルマインドを醸成しています。





役割別実践教育

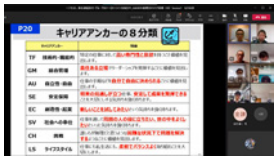
各階層の役割を理解し、実践スキルを身につけるため、約1年間、実際に業務を進めながら、定期的に開催する集合研修に参加します。他部署の同じ階層のメンバーとグループディスカッションを行い、悩みや疑問を共有し理解に繋げるとともに、従業員同士の連携も強化しています。

また、管理職層においては、部下マネジメント、評価、面談等のPCCプログラムも研修内容に組み込み、その実践を通じて管理職としての基礎を学んでいます。

MMPシリーズと呼ばれるこの教育は、上記コンセプトを元に、海外拠点の各社でも実施され、グローバル共通で従業員の成長をサポートしています。

年代層別キャリア研修

何歳になっても成長し続け、活き活きと働いている従業員を増やすため、年代別のキャリア研修を実施しています。研修では、自身のキャリアの棚卸しを行いながら、自分が本当になりたい姿を描き、その実現のために実現計画を立て、上司に共有しながら行動計画の具体化をしていきます。40代、50代からスタートしたキャリア研修は、今後30代、20代へと拡大していく計画です。



PMD/PCCプログラム

「会社と社員が共に成長していく」というコンセプトのもと、「部課長向けPMD（Performance & Management Development）プログラム」及び「一般層向けPCC（Performance/Competency/Career）プログラム」を運用し、上司と部下が定期的に行う行う面談を柱に、成長・キャリア形成の支援策を具体化・充実しています。

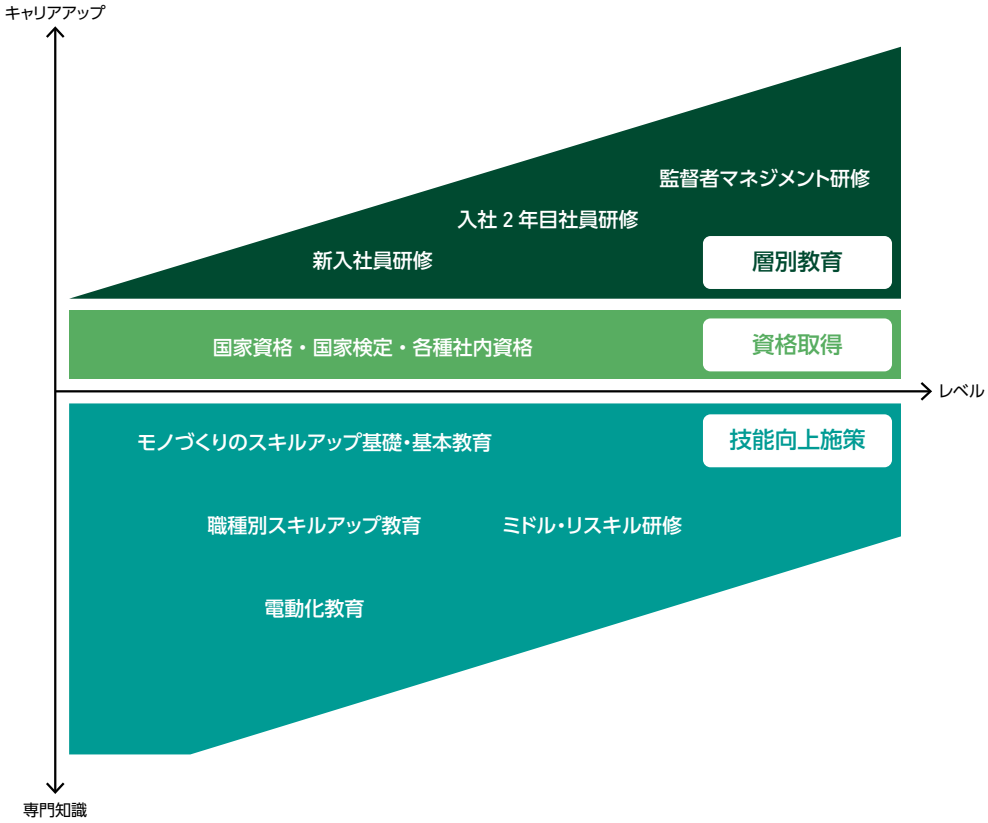
社内公募制度

ジヤトコでは従業員が自ら希望する仕事にチャレンジする社内公募制度を設け、自らキャリアを切り拓くことを支援しています。各部署の募集に対して従業員が応募するこの制度を多くの従業員が活用し、自らの理想とするキャリア形成を実現しています。

人財育成 ～製造現場における多様な教育プログラム～

変化し続ける環境の中で、ジヤトコが、世界中のお客さまに競争力のある高い品質の商品を確実にお届けするためには、モノづくりの現場での技術、技能を常に向上させることが必要です。ジヤトコでは、生産部門の従業員が、モノづくりの基本である技術・技能を高め続けることができるよう、入社時から管理監督者になるまでの、体系的な教育を実施しています。

教育体系（技能系）



監督者マネジメント研修

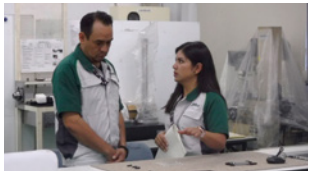
現場での経験を積んだ従業員が、職場のリーダーとして行動するための実践力を身につけます。指導者の指導やアドバイスを受けながら、「仕事の標準化」、「仕事の教え方」、「教えたあとの確認」等の管理サイクルを実践形式で学び、人への気付き、感受性や人間力を高め、コミュニケーションスキル・ヒューマンスキルの基本を学びます。


「仕事の教え方」を指導

モノづくりのスキルアップ研修

モノづくりの基礎基本から各分野での専門スキルを段階的に身につけ、製造現場での実践につなげることができるよう、各職種について、スキルレベルに合わせた講座を設定しています。また、海外拠点でも同様の人財育成が行われています。


スキルアップ研修（日本）


共通教育（メキシコ）


専門組立基本技能（タイ）

電動化に向けた人財育成

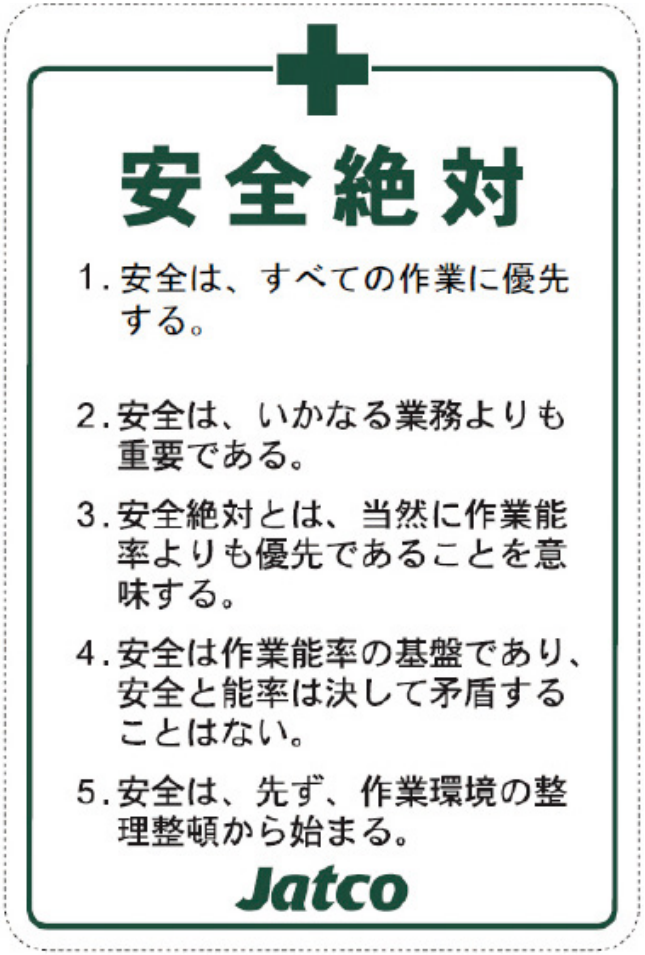
電動パワートレインメーカーとして、電動化商品に対応するための人財育成にも取り組んでいます。

CVT/ATで培ったジヤトコならではのモノづくりをベースに、電動化商品特有の機能、構造等を十分に理解し、電動化商品に求められる、より高度な安全性、品質を実現するための準備を着実に進めています。電動化商品の訓練道場も設置しました。


電動化商品の訓練道場

労働安全衛生

ジヤトコは、従業員が安全・健康で活き活きと働ける職場環境実現のため、「安全絶対」で、災害火災のない職場づくり・安全に強い人づくりと、「健康経営」で、従業員のフィジカルとメンタルの健康の続的な改善に取り組んでいます。



ジヤトコの合言葉は「安全絶対」

安全衛生管理基本方針

従業員一人ひとりが積極的に参画する安全衛生活動の実施

従業員の安全と健康を確保することは企業活動の基本である。

これらは企業活動の重要課題であり、後退は企業の存続にも係わる事を認識し、一人ひとりが積極的に参画する安全・衛生活動を労使一丸となって推進していく。

企業発展に繋げた安全衛生活動

安全と健康を継続的に確保する事で従業員はもとより家族、お客様、地域に対して信頼され、安心して働ける企業を目指す。その実現の為、設備の本質安全化の効率的な追求や作業環境・作業方法等の改善と教育訓練を進め、労働災害、職業性疾病、交通災害のゼロを目指し企業の発展に繋げる。


安全衛生関係者による現場パトロール

安全確保の取り組み

安全活動の3本柱

私たちジヤトコは安全活動について下記3本柱を立てています。

1.安全に強い人づくり、2.安全な設備/作業方法の実現、3.災害再発防止の取組み

まずは、人財育成という観点から方策として、「教育」が必要不可欠だと考え、安全に行動することの大切さ、不安全状態の怖さを繰り返し訴えかけています。

二つめに、安全な設備や作業方法の実現に向けて「異常処理撲滅活動」を行っています。活動主目的は、「異常処理を撲滅すること」ですが、物的対策を実施しても撲滅するまで管理するため、現場作業員と連携し活動を実施しています。

最後に「災害再発防止」に対する取り組みとして、過去に発生した災害の総点検を行っています。ハード対策はもちろん、ソフト対策についても実施出来ることを洗い出し災害を風化させない様、活動しています。

労働安全衛生

安全に強い人づくり

従業員全体の安全レベルの底上げ

工場を主体とした、安全CAPDo*1活動を軸に安全活動を継続して実施していますが、休業/不休災害共に継続して発生している状況です。

災害発生要因を4M*2の観点から分析した結果、下記4点が浮き彫りとなりました。

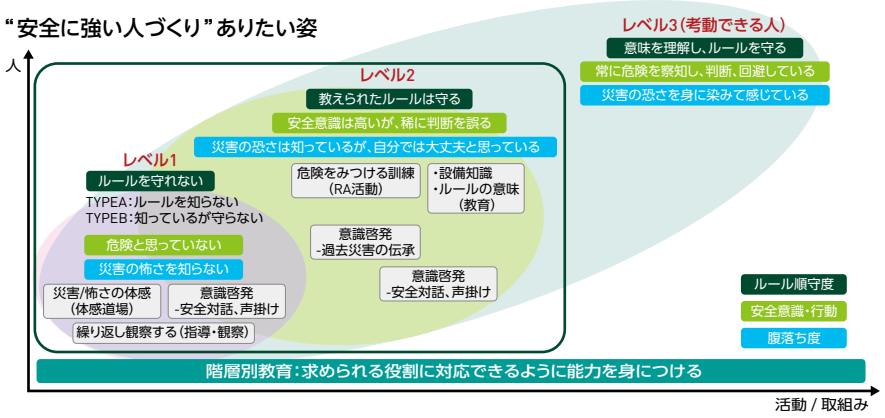
1.安全知識の不足　2.危険感受性の不足　3.日常作業の確認不足
4.不随作業の見落とし

安全CAPDoといった基礎的な軸は、変えずに危険感受性を高めること（レベル1）、を第一とし、危険敢行性を高めプラスして社内ルールを守ることを「レベル2」と定めました。

更に安全ルールの意味を理解するとともに、常に危険を察知し、判断、回避することができる従業員を「レベル3」と定義し、現在レベル3の「考動できる人」を目標に日々安全活動に尽力しています。

*1 CAPDo：計画を最初に立てるPDCAに対し、PDCAの順番を変えて「C（Check=現状把握）」から始める改善サイクル手法
*2 4M: Man（人）・Machine（機械）・Material（材料）・Method（方法）の4要素の頭文字を取って名付けられたフレームワーク

“安全に強い人づくり”ありたい姿



安全体感訓練道場の刷新

危険を認識し不安全行動や不安全状態の「怖さ」を体感できるよう、心に訴えかける教育を目標に安全道場での体感教育を実施しています。コンテンツは、従業員が実際にヒヤリとしたことがある内容や実際に発生した災害をもとに作成されたものです。

更に実際に再現すると危険が伴う災害/ヒヤリ事例については、シアター型体感教育ツールを導入しました。これにより、受講者があたかも実際にその空間に存在し作業を実施しているかの様なバーチャル空間で危険を体感することができます。


シアター型体感教育ツールによる教育風景


フィジカル体感教育　実演会

労働安全衛生教育の実施

(1) 危険有害物に対する技能向上教育

労働安全衛生法に基づく技能講習を実施することで社内に有資格者を育成しています。

受講対象者	有資格者数
危険有害物取扱業務従事者	62人
社内認定安全監査者	1744人

(2) 階層別安全教育

課長を始めとする安全健康管理係長、工長、リーダーは年に一度必ず安全教育を受講しています。

特に重点に置いているのは、現場指導はもとより、部署や課の従業員に対する安全・健康活動の責任者として存在する安全健康管理係長への「新任安全健康管理係長研修」です。

安全教育体系と重点について

階層	現状		FY24
	頻度	内容	
課長	昇格時のみ	新任管理職研修	1回/年 繰り返し教を実施
安全健康管理係長	↑	新任安全健康管理係長研修	重点
工長	↑	職長教育	
リーダー	↑	↑	
一般	入社時のみ	受入れ教育（共通）	ー
	各1回	↑ SHOP別	改善
		↑ 配属後	
		スキルアップ教育（基礎・基本）	DX体感型安全教育の新規導入 フィジカル体感教育ツール更新 ドライブシミュレータの新規導入
		↑ 初級	
		↑ 中級	
		↑ 上級	

労働安全衛生

安全な設備/作業方法の実現

従業員全員で取り組む安全活動

安全の確保はすべての作業に優先するという認識から「安全絶対」を合言葉に掲げ、リスクアセスメント活動を始めとする、SESI[*1]、5Sパトロール[*2]、工場（課）安全パトロール、公開作業観察、安全専門観察などの「現場を観る活動」を中心に災害ゼロから危険ゼロ職場にする為、安全CAPDoをアジャイル（臨機応変に素早く）に回し安全活動に取り組んでいます。

*1 SESI(Safety Evaluation System I)：職場の安全レベルを定量的に評価するシステム
*2 5Sパトロール：「整理・整頓・清掃・清潔・躾」の5Sが保たれる様、定期的に現場を巡回する活動

異常処理作業の撲滅

特に重点を置いているのは、労働災害発生リスクが高く、生産活動のロスでもある異常処理作業の撲滅です。

各活動で検出されたリスクは、リストにて把握し、リスクの大きさに応じて対応の優先度や適切な対応策を決め、本質安全対策（設備改善などのハード対策）や、教育・指導などのソフト対策を迅速に実施しています。

また、職場のリスクアセスメント活動の活性化により、すべての従業員が安全で快適に働ける職場づくりを推進しています。

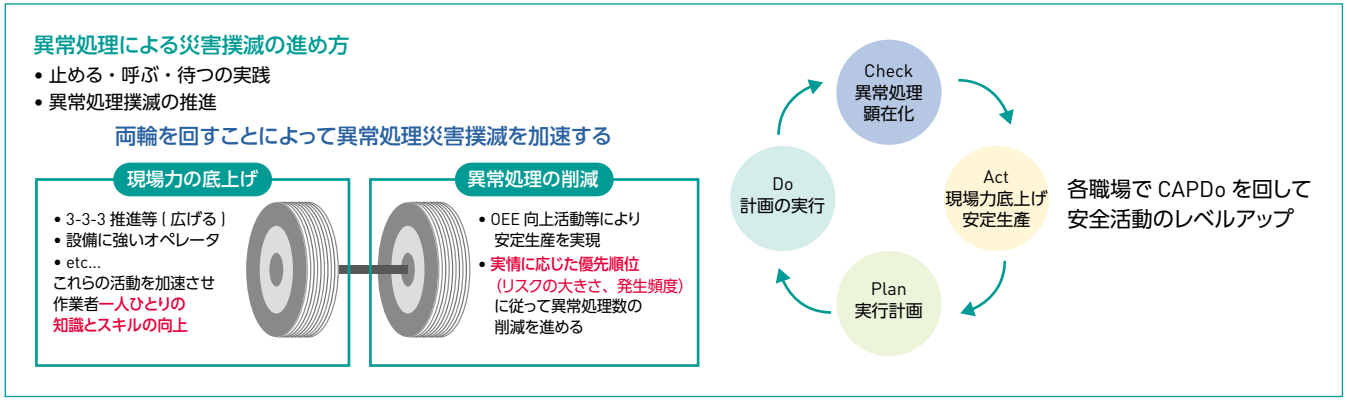
安全健康管理係長の配置

安全健康管理を専門に管理する為、全ての生産課に専任の安全健康管理係長をそれぞれ配置しています。課の安全/火災/交通事故/健康管理に責任を持ち、職場で働く仲間の声を聞き改善していくことを職務として担っています。

また専門家として、社内外に強い安全および健康に関するネットワーク構築することで、お互いに良いものを吸収し合うチームづくりを目指しています。また、外界志向で多様なアイディアをお互いに発言し合うことで、“すぐ行動する”、“いいことは褒める”、“ダメなことはダメと言える”風土づくりにもチャレンジしています。



海外拠点を含めグローバルでSESIを実施



異常処理撲滅を中心に、各職場でのリスクアセスメント活動を実行・推進

労働安全衛生

災害再発防止の取り組み

過去に発生した災害水平展開の総点検活動

過去に発生してしまった災害を二度と再発させない様、全社へ水平展開された対策内容が現場に浸透しているか、また、継続的対策内容が実施されているかを安全健康管理部が各課の安全健康管理係長と協力して対策内容の状況を確認し、フォローアップしている活動です。活動の主目的は、災害の再発防止ですが、新規に配属された仲間へのOJT（危険周知）も含め、総点検しています。

風化させない安全風土づくり

上記に加えて、「災害メモリアル」と題し、過去災害事例を安全健康管理部より配信しています。過去に発生した災害から学んだことを風化させない・同じ災害を繰り返し発生させない為、過去10年間当社で発生した労働災害を月ごとに同月発生した災害事例として全従業員へ展開しています。

日常の安全活動に各部署の朝礼での注意喚起など、全ての従業員を対象に災害について考える時間を作っています。

安全活動管理指標

災害発生状況

年	区分	実績
2023年	死亡災害	0 件
	休業災害	1 件
2022年	死亡災害	0 件
	休業災害	0 件
2021年	死亡災害	0 件
	休業災害	0 件

業務上の負傷（休業災害度数率*3）

年	区分	実績	全産業*5	日本自動車工業会*6
2023年	休業災害度数率	0.093	2.14	—
	強度率*4	0.005	0.09	—
2022年	休業災害度数率	0.000	2.06	0.07
	強度率	0.000	0.09	0.002
2021年	休業災害度数率	0.000	2.09	0.07
	強度率	0.000	0.09	0.018

*3 休業災害度数率：100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数［(死傷者数/実労働時間数）×1,000,000］
*4 強度率：1,000延べ実労働時間当たりの延べ労働損失日数で、災害の重さの程度を表す
*5 出展：厚生労働省統計表
*6 出展：日本自動車工業会（14社）
対象範囲：ジヤトコ株式会社

労働安全衛生

健康経営の取り組み

健康経営宣言

ジヤトコグループは、従業員の心身の健康が会社の大切な「資産」であり、従業員が活き活きと働きやすい会社となることを目指して「ジヤトコグループ『健康経営宣言』」を掲げています。

ジヤトコグループ「健康経営宣言」

従業員一人ひとりがリーダーシップを発揮して、お客さまのニーズに応える先進的な商品を開発すること。モノづくりの技術を高め、世界の競合他社を上回る品質を実現すること。地域社会とのかかわりを大切に公正な事業を行い、地域の活性化に貢献すること。それら全ての原動力は、ジヤトコグループ全従業員の活力です。

その活力は、従業員の心身の健康の上に成り立ちます。

ジヤトコグループは、従業員の心身の健康が会社の大切な「財産」と捉え、従業員が活き活きと働くとともにプライベートも充実するよう、クオリティオブライフ（QOL）の向上を図ることで、従業員と企業の幸福の実現を目指します。従業員一人ひとりとそのご家族が健康であることが、ジヤトコグループの持続的な発展の礎であるとともに、健康寿命の延伸などの社会要請に応えるものと考えます。

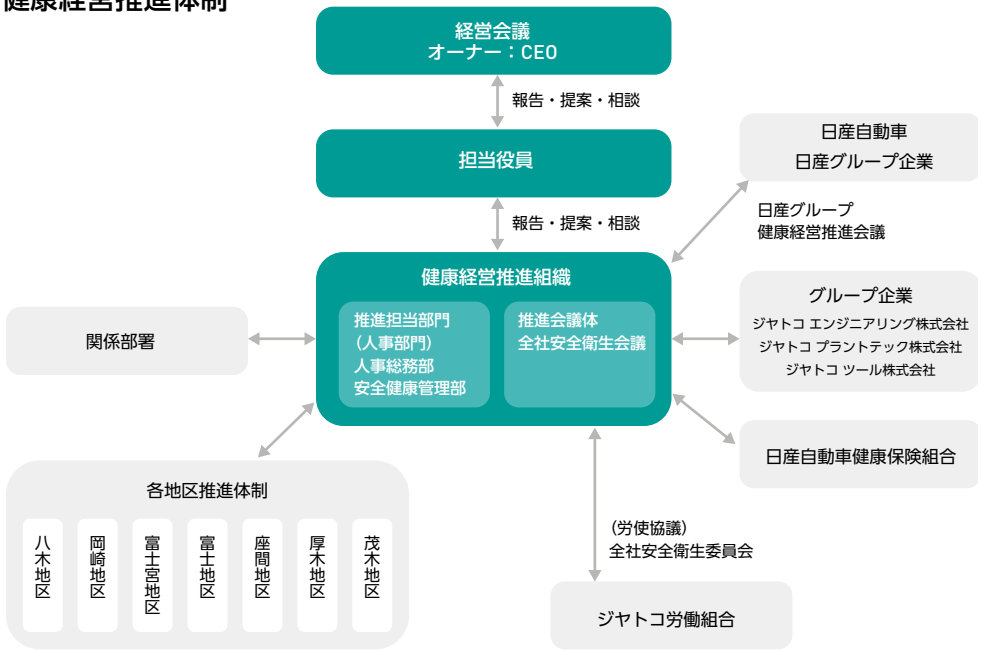
ジヤトコグループは、重要な経営課題の一つとして、従業員一人ひとりの健康増進と健康で活き活きと働きやすい会社となるための活動に取り組み続けることを宣言します。



ジヤトコ株式会社
社長兼最高経営責任者

佐藤明由

健康経営推進体制



外部評価

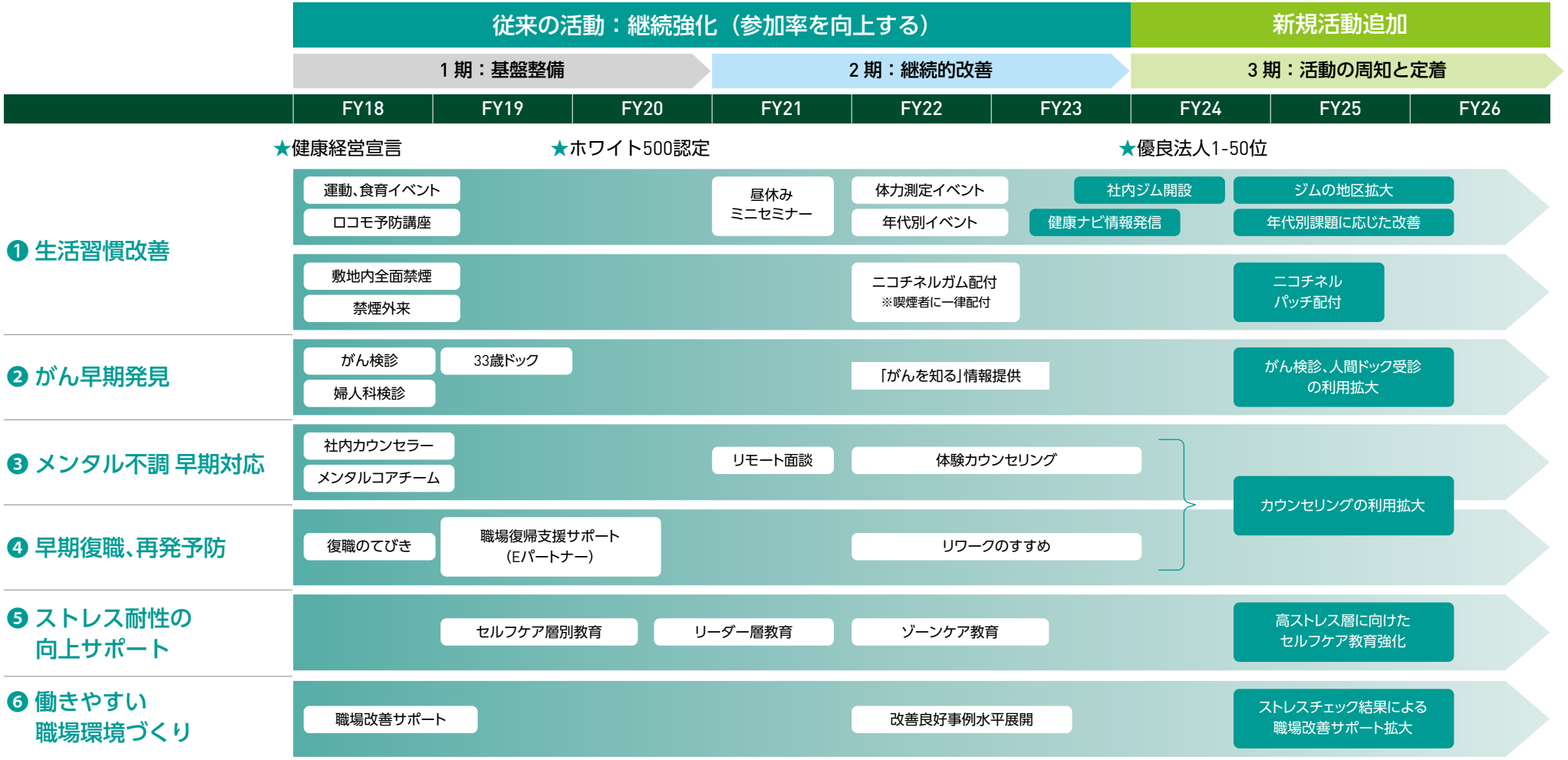
2019年から6年連続して「健康経営優良法人（ホワイト500）」認定を受けています。

2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

労働安全衛生

健康管理中期計画

健康経営宣言が目指す姿を実現するための中期計画を策定し、ジヤトコ健康経営の6本柱の活動を実行しています。



労働安全衛生

生活習慣改善

健康づくりイベント・健康教育

従業員が抱える健康リスクに対してより良い生活習慣の定着を図るため、健康増進活動を継続して実施しています。楽しみながら実践できる参加型のイベントを各事業所で実施し、健康意識の向上を目指します。

社内ジム

今まで運動習慣が無い人でも気軽に運動できる環境づくりとして、事業所内にトレーニングジムを設置しています。



社内ジム



役員向け健康イベント

健康づくりイベント：参加者1,740人

食育イベント
・ヘルシーメニューの提供

ウォーキングイベント
・家族と地域の名所や商店を巡るコースを設定

体力測定
・高齢化に向けた体力の維持・向上

健康教育：参加者599人

女性特有の健康課題教育
・健康課題への知識向上教育の実施

年代別教育
・ライフステージや職場環境の変化に合わせた一生涯の健康づくり活動

社内ジム：参加者122人

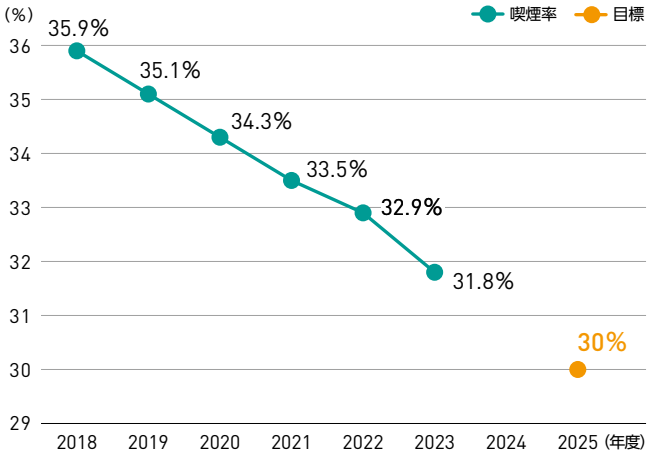
全従業員（関係請負人含む）が気軽に運動できるジムを社内に設置

当社はグループ会社も含め2003年より喫煙対策を始めており、2007年から本格的な分煙活動、2013年から禁煙時間の設定を実施し、2017年より構内（敷地内）禁煙を開始しました。また、喫煙者に対する「卒煙（禁煙）」活動として、卒煙者インタビューや禁煙ガムの配布、社内禁煙外来の開設も併せて実施しています。

その結果、社員の喫煙率は徐々に減少傾向となっています。

2025年に30%まで下げることを目標としています。

喫煙率の推移



労働安全衛生

メンタルヘルス対策の取り組みについて

ジヤトコは従業員、管理監督者、産業保健スタッフ、人事部門それぞれを対象とするメンタル支援施策を整備し、メンタルヘルスに関する基礎知識・ストレス対処（セルフケア）に関する知識、部下への対処（ラインケア）に関する知識の習得と理解の浸透に取り組んでいます。2018年度からは健康経営活動のひとつとしてよりPDCAを意識した取り組みや在宅勤務など働き方の変化や多様化に伴う精神的負担感に対するアプローチも行っています。

①全従業員、グループ会社への定期的なメンタルヘルス教育の実施
②体験カウンセリング等社内外相談窓口のPR活動
③在宅勤務に関するサーベイ実施と課題の抽出
④ストレスチェック結果による職場改善活動の実施と振り返り
⑤ストレスチェック結果による職場改善活動良好事例紹介
⑥再発防止のための社外EAPによる職場復帰支援
⑦再発防止のための社外リワーク活用の推奨
⑧医療職、人事部門、開発部門、生産部門の連携
（メンタルヘルス定例会議の実施）



健康経営活動管理指標

		FY21	FY22	FY23
アブセンティーズム	フィジカル休業者千人率	4.6	2.6	2.6
	メンタル休業者千人率	8.8	7.4	6.9
プレゼンティーズム	ストレスチェックと同時にWHO-HPQの絶対的プレゼンティーズム（0～100点[%]）を用いた従業員調査を定期的に実施。 実績値は損失割合を計算し全従業員の平均を算出しており、値が高いほど損失が大きいことを示す。実績値は全従業員平均。(%)	38	37	36
ワークエンゲージメント	ストレスチェックと同時に、ユトレヒト・ワーク・エンゲージメント尺度と相関の高いベンターオリジナルの従業員調査を定期的に実施。 実績値は全従業員の偏差値の平均を算出しており、値が高いほど良好であることを示す。実績値は全従業員平均。(%)	47.5	47.8	48.9



事業基盤

誠実な経営と事業基盤の強化

信頼される品質

人権

持続可能で責任ある調達

ステークホルダーエンゲージメント

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

災害対策（物理的ハザード）

情報セキュリティ

信頼される品質

品質に関する方針・考え方

製品の評価やパワートレインメーカーのブランド価値は、お客さまからの品質評価で決まるといっても過言ではありません。技術革新がめざましい現在、お客さまが求める品質のレベルはますます高まっています。世界経済の構図が大きく変化し、各地で都市化が進行する中、モビリティに対するニーズも増加しています。

ジヤトコは、世界中の人々にモビリティがもたらす豊かさを提供する使命を果たすとともに、お客さまに満足していただける品質を常に提供することもパワートレインメーカーとしての重大な責務であると考えています。品質を会社全体の課題と捉え、製品の企画から開発、生産、物流、販売、アフターセールスなどお客さまとかかわるすべてのシーンで、高い品質を提供するために活動を続け、お客さまに信頼される企業になることを目指しています。

一言で品質といっても内容は多岐にわたります。ジヤトコでは、製品そのものの使用感から、製品に不具合が発生した際の対応など、製品にかかわるすべてのシーンで高い品質を提供するために、部署や地域を超えて連携しながら全社的に取り組んでいます。

ジヤトコはお客さま中心の考えのもと、「長きにわたりジヤトコ製製品をお選びいただくために、お客さまの声を第一に、深い満足を感じていただける製品やサービスの品質を向上すること」を目標に、「製品品質」と「サービス品質」の両面から取り組んでいます。製品そのものの「製品品質」は、お客さまに長く安心して快適に製品を使っていただくための基本となる品質です。

お客さまにお届けする製品の「初期品質」、長くお使いいただいている間に感じる「耐久品質」など、製品のライフサイクルすべてにおいてお客さまの期待に応えられるような品質の提供を目指しています。

また、お客さまへの対応の質を追求する「サービス品質」では、ディーラーでの点検や修理のしやすさを追求する活動を行っています。

すべてのプロセスにおいてお客さまに満足いただくために、ジヤトコではお客さまの声を取り入れて、社内全体にフィードバックする取り組みを導入しています。

品質方針



品質に関するマネジメント

ジヤトコは、お客さまの安全確保と常に満足していただける品質の提供が、重要な課題であると捉えています。信頼される企業として持続的な成長を実現するため、グローバルで品質向上の推進体制を構築し、全従業員が一丸となって活動に取り組んでいます。多岐にわたる品質向上活動の責任者やプロセスは、IATF16949に準拠した品質マネジメントシステムで明確に定められ、グローバルに適用されています。そしてそれらすべての品質項目に対して、品質管理の徹底につながるよう、必要に応じて適宜マニュアルを改訂しています。また、品質マネジメントシステムを構築し実施していくための指針についての研修を毎年実施。この研修は全従業員必須のものとしています。

なお、生産拠点において、13全ての拠点がIATF16949の認証を取得しています。

品質に関するマネジメント体制

ジヤトコでは、品質においてトップレベルになるという目標を達成するため、品質最高責任者に品質専任の執行役員を選任しています。品質最高責任者を議長とする品質委員会を毎月開催し、各部門の役員が参加し、製品品質およびサービス品質の課題の迅速な解決と改善活動を推進しています。

また、コンプライアンスの徹底を実現するため、3層構造のモニタリング・監査体制を構築し、監査活動の強化に取り組んでいます。第1層は、各部門が法令や基準の遵守に責任を持ち、モニタリングを実施します。第2層は、コーポレート品質保証部が法令や基準の遵守に関して監査を実施します。第3層は、内部監査室がリスクに応じた年度計画に基づき監査を行います。

信頼される品質

品質向上への取り組み

お客さまの声を品質向上活動に反映

お客さまの期待する価値を提供するとともに、お客さまの感じる不満などに迅速に対応するため、お客さまからのすべての声に耳を傾け、開発からサービスに至るあらゆる品質の改善活動に反映させています。

お客さまの声への迅速な対応とタイムリーな情報共有

ジヤトコでは、自動車メーカーを通じお客さまからの問い合わせや相談に応えています。

また、市場でのお客さまの声は、いつでも従業員が閲覧できるよう社内のイントラネットに掲載し共有しています。

お客さまの声を製品やサービスに反映

市場でのお客さまの声は、企画、開発、生産、販売など、あらゆる部門で確実に共有し、製品やサービスに反映する仕組みを整えています。故障ではないものの、お客さまが不満に感じている要素も製品の品質を左右します。ジヤトコでは、お客さまの不満に応えることも品質向上活動の対象と捉え、改善に取り組んでいます。

お客さまが製品に求める期待値は、地域、年齢、嗜好などで異なり、製品の普及度や気候など市場特性の影響を受けることもあります。ジヤトコはグローバルデザインを基本仕様としながらも、地域のニーズに合わせた対応も行っています。

この役割を担うのが、チーフクオリティエンジニア（CQE：Chief Quality Engineer）です。CQEは企画段階から製品づくりに参画し、お客さまの不満や不具合の低減に取り組んでいます。

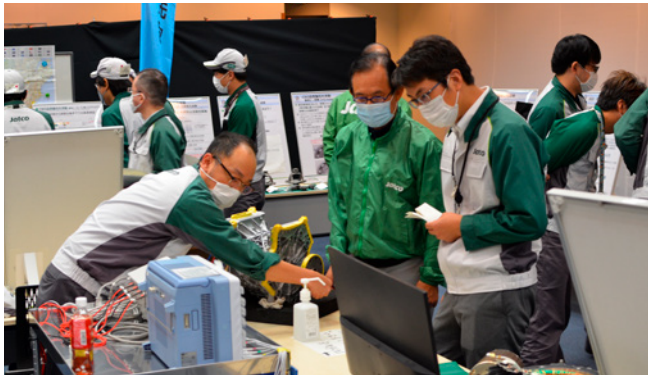
お客さまの声は市場情報などから抽出し、企画・開発工程から優先順位を決めて対応策を検討して、製品やサービスに反映するように努めています。

お客さま視点を醸成するための取り組み

従業員一人ひとりがお客さまの視点に立ち、「お客さまに信頼され続ける高い品質の実現」を意識して業務に取り組むことが重要であると考え、マインド醸成の全社研修や日常的にお客さまの声に触れる機会を持つ取り組みなど、さまざまな活動を推進しています。

また、役員、従業員を対象として、品質の現状や市場のお客さまの声、お客さまの声からの改善活動、目標達成に向けての活動をパネルや映像、実際の部品の展示で紹介する「ジヤトコクオリティフォーラム」を2006年より実施しています。開発からサービスにかかわるすべての部門で共催し、近年では、よりお客さま視点で考え、行動につなげられるよう、体感型のイベントを取り入れています。

さらに、従業員の声を品質向上活動に反映するため、役員と従業員が直接対話する機会も設けています。2023年には国内外で実施し、2,500人以上が参加しました。


2006年から実施する「ジヤトコクオリティフォーラム」


役員と従業員の直接対話

グローバルで働く従業員に対し、品質の重要性とお客さま意識を高める取り組みを行っています。

製品品質の向上

「製品品質」とは、お客さまに長く安心して快適にご使用いただくための基本となる品質です。日本の“モノづくり”を担ってきたジヤトコにとって、「製品品質」は企業の持続性を支える土台になるものです。常に品質をお客さま視点で考え、不具合が発生した場合は迅速に対応し、不具合の再発防止に努めています。また、お客さまの不満を確実に把握し、その解消に向けてあらゆるプロセスで対策活動を実施することで、一人でも多くのお客さまに満足いただけるよう「製品品質」を向上させています。

信頼される品質

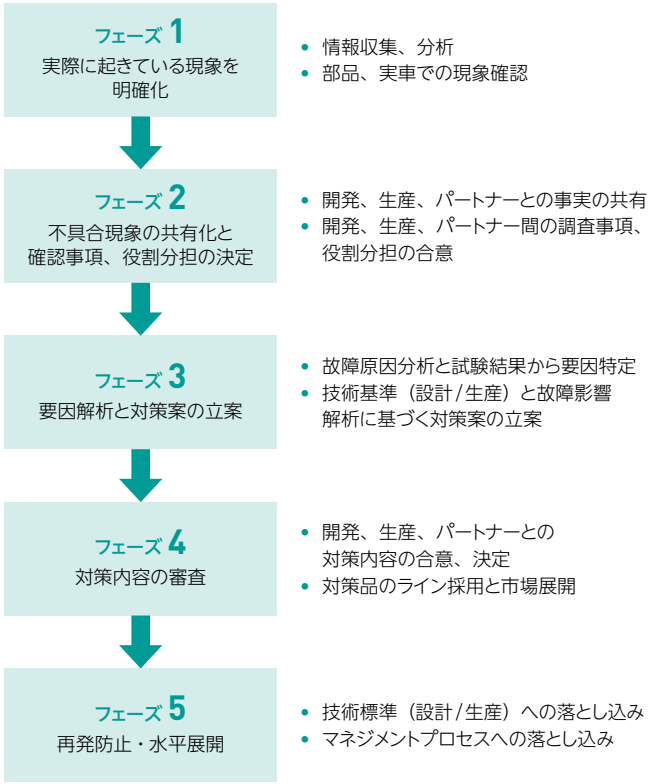
市場品質改善活動

市場での迅速な品質改善への取り組み

ジヤトコは、自動車メーカーを通じて販売会社や「お客さま相談室」などに入ったお客さまの不満や不具合の状況を把握し、開発や生産部門と情報を共有し、原因究明・対策検討などを実施して、不具合の流出防止を促進するなど、恒久的な対策をとっています。

また、ジヤトコの企業活動がグローバルに拡大するのに伴い、不満や不具合も世界各地で発生する可能性があります。そうした不具合を現地で迅速に解析し要因を分析するため、ジヤトコでは日本、米国、フランス、スペイン、中国、韓国、メキシコ、タイの計8ヵ所に調査拠点を設けています。同調査拠点では5つのフェーズに分けて市場品質の調査・解析活動を実施しています。

5つのフェーズでの市場品質調査・解析活動の概念図



初期品質の向上

お客さまに高品質の製品をお届けするための取り組みを強化しています。品質が改善できていることを工程ごとに確認し、発生する可能性のあるリスクも企画段階から可視化してリスクを緩和する方策を検討しています。こうしたすべてのプロセスを透明性のある判断で実施することで、新製品立ち上げ時から高品質を保証しています。

耐久品質の改善

お客さまに長く快適にクルマに乗り続けていただくために、長年の使用によって生じる経時劣化に対する取り組みを推進しています。ジヤトコでは保証期間中はもちろん、保証期間後に発生する不具合も低減するため、実際にお客さまが使用された中古車・部品を回収して品質確認を実施し、不具合の早期検出に活用するなど、さまざまなデータを入手・分析し、劣化しにくい技術の開発を強化しています。

重大な不具合への公正・迅速な対応について

製品の不具合を発生させないよう最善を尽くすことが責務と捉えると同時に、複雑な工業製品であるパワートレインづくりにおいて、万が一のときに備えることも私たちの責務です。ジヤトコでは透明で公正・迅速な対応を基本姿勢としています。具体的には、お客さまの安全確保とお客さまへの迷惑を最小限に抑えること、法令遵守を最優先に、迅速な改修につなげています。

信頼される品質

パートナーとの取り組み

部品の品質や供給に関するリスク対応を含め、ジヤトコはパートナーと協働しながら、すべての生産拠点において、部品の設計段階から品質向上に取り組んでいます。

パートナーと推進するリスク評価・低減のマネジメント

グローバル品質マネジメントの強化を進めるとともに、パートナー各拠点における生産工程の品質管理状況を現場・現物で確認し、ジヤトコの要求レベルを満たすことができるようにパートナーの改善活動を支援しています。

また、ジヤトコへ部品納入しているパートナーのみならず、その構成部品を生産する二次パートナーまで巻き込んだ共同改善活動を行うなど、さまざまな品質向上策に取り組んでいます。

製品安全・品質向上のための監査・トレーニング

ジヤトコは、製品安全を確保するため、製品のみならず納入部品についても、パートナーと協働しながら監査を実施しています。

パートナーからひとつの部品がジヤトコに納品されるまでには、企画段階の確認から、設計の図面製作、試作品づくり、性能確認、量産体制の確保など、さまざまな工程が必要です。ジヤトコでは、この一連の流れにおいて必要な品質保証活動を取引先のための品質管理基準として規定し、すべての部品、一つひとつにおいて実行することで正確な部品が納品される仕組みを整えています。ジヤトコでは独自のパートナー品質評価基準であるパートナーヘルスチェックに準拠しパートナーの支援を行っています。良品・不良品の明確な識別方法の有無、トラブル防止の仕組みの確認など、パートナーの作業現場を確認します。

また、製造工程のみならず、部品材料についてもパートナーと連携した品質管理体制により、すべての部品について材料認証を取得していることを確認しています。すべてのパートナーには取引先のための品質管理基準のトレーニングを実施し、パートナー内で展開、実行することで、正確な部品が納入される体制を構築しています。

また、パートナー向けスコアカードによる納品品質や市場品質などの診断と、マネジメント体制を確認するパートナー向け工場監査を実施しています。これにより、良質な部品の安定供給の仕組みや継続的な品質改善活動の実施状況を定期的に確認しています。

サービス品質の向上

ジヤトコでは、点検・修理方法の最適化に取り組んでいます。具体的には、交換部品を最小限に抑えることによるお客さま負担の軽減や、点検、修理方法の最適化によるディーラーの修理負担の軽減など、早く・安く・確実な修理方法を提供しています。

人権

人権についての考え方

ジヤトコは、「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスを実現するために、すべてのステークホルダーの人権を尊重すること、適用される法令、基準を遵守すること、ならびに当社の従業員が社内規則に定められた最高の倫理基準に基づいて行動することが不可欠であると認識しています。従業員や取引先、お客さま、地域社会の多様性を評価・尊重し、差別やいやがらせは、どんな形・程度にせよ容認しません。役員および従業員が相互の人権を尊重し、人種、国籍、性別、宗教、障がい、年齢、出身、性自認、性的指向、その他の理由による差別やいやがらせを行うことや、その状態を容認することを認めません。世界人権宣言（UDHR）をはじめ、市民的及び政治的権利に関する国際規約（ICCPR）、経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約（ICESCR）、労働における基本的原則及び権利に関する国際労働機関宣言（ILO中核的労働基準）に記載された人権を尊重します。

国連のビジネスと人権に関する指導原則（UNGPs）を参照すべき国際基準と位置づけ、事業活動から生じる可能性のあるリスクを管理し、すべての人権への影響を積極的に防止する取り組みを行っています。

人権尊重に関する考え方をサプライチェーンも含め、より明確かつ強固なものにするために「人権尊重に関する基本方針」を、各国地域のジヤトコの従業員がより安心して働けるよう、人権に対するコミットメントを説明し事業活動における人権尊重が確実に実施されるようにするために「グローバル人権ガイドライン」をそれぞれ公開しました。同ガイドラインではジヤトコの事業活動に照らし合わせ、7つのテーマを設定し、事業全体での従業員に対する人権尊重の取り組みをより一層強化しています。

人権に対する取り組み

従業員の労働および人権の適切な管理を可能とするだけではなく、QoL（Quality of Life: 生活の質）を高いレベルで維持・向上させていくために各国・地域で働きやすい職場づくりを推進しています。年次有給休暇について、日本では法律遵守（年間最低5日取得）はもちろんのこと、一人年間15日、年次有給休暇を取得できるよう部署で長期休暇の前後に「取得奨励日」を設定するなどの取り組みを行っています。また、各国で、ES（Employee Satisfaction）向上委員会などを各国で定期的に開催し、従業員からの改善要望をダイレクトに受け入れる仕組みを導入し、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

また、ジヤトコは、人権を尊重していく上で、従業員と対話することを重要な機会と捉えています。従業員の代表との協議はもちろんのこと、4半期に一度、Global Employee Meetingを開催し、経営層からメッセージを伝えるだけではなく、従業員からの質問に経営層が回答する機会を設けています。各国地域で、現地社長と従業員のダイレクトコミュニケーションタイムを設定するなど、グローバルで従業員とマネジメント層のコミュニケーションを大事にしています。

職場におけるセクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントやその他のハラスメント（いやがらせ）を「しない」・「させない」・「許さない」という姿勢のもと、性別（男性・女性・その他）を問わず、すべての従業員が被害に遭わないよう、防止に努めています。その施策として人権およびコンプライアンスに関するe-ラーニングを全員必須研修とし、従業員の意識向上、啓発に努めています。また、日本では、管理職を対象にハラスメント研修を毎年実施しています。

人権尊重の悪影響を与えかねない違反行為に関しては、内部通報システムの導入により、救済措置をとっています

人権マネジメント

人権に対する悪影響を未然に防ぐため、日産グループの企業として、人権デューディリジェンスプロセスを実施し、リスク管理を行っています。人権に関する課題やリスクは、必要に応じて当社の経営会議で議論されます。人権に関する取り組みを、自社の活動を超えた範囲で実施することの重要性を認識しており、グローバルなサプライチェーンのすべての段階において、倫理的かつ社会・環境に配慮した事業活動を実現することを目標としています。この目標を達成するために、私たちはサプライヤーや委託業者を含む全てのビジネスパートナーと協力し、人権に配慮した事業展開を実践しています。

社会性データはこちら ＞

持続可能で責任ある調達

サプライチェーンに対する基本的な考え方

ジヤトコは法令や人権を守り、さまざまなステークホルダーとコミュニケーションをとりながら、刻々と変化する社会や環境へ配慮し、企業としての責任を果たしていくことを目指しています。

また、「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」というコーポレートパーパスのもと、新規事業にもチャレンジしており、今後も企業活動のフィールドを拡げ続けます。

その過程において自らの企業責任を果たすためには、当社のビジョンや方針をビジネスパートナーに共感していただき、双方に有益となる長期的な信頼関係を築いて初めて目標を達成できると考えています。

ビジネスパートナーとの相互信頼を深めるために

「パートナーシップ構築宣言」への署名

ジヤトコは2022年に「パートナーシップ構築宣言」の趣旨に賛同し、宣言書に署名しています。

この宣言に従い、サプライチェーン全体の共存共栄と規模・系列等を超えた新たな連携を図るとともに、ビジネスパートナーとのパートナーシップ構築の妨げとなる取引慣行や商慣行の是正など適正取引の推進に積極的に取り組んでいます。

この宣言を遵守することによってSDGs の下記5つの目標達成に貢献しています。

「JATCO Purchasing Way」「CSRガイドライン」の設定

ジヤトコと直接取引していただいているTier1ビジネスパートナーだけでなく、間接的に取引のあるTier2以降のビジネスパートナーにも当社のビジョンや方針、責任をご理解いただくには、それらを明文化して共感していただくことが重要だと考えています。

そのために「JATCO Purchasing Way」を設定し、基本原則ー「信頼」「相手への敬意」「透明性」ーに基づいた「企業としてあるべき価値観」を明確にしています。併せて「CSRガイドライン」により、サプライチェーン全体で継続的に発展するために要求される社会的な責任を明示しています。

JATCO Purchasing Way

JATCO Purchasing Wayでは、お取引を行う際に大事にしている価値観をビジネスパートナーに明示しています。

当社はこの価値観に基づき、社会的な責任を共有するだけではなく、ビジネスパートナーの課題を分かち合い、社内のノウハウや人財を活用してサポートをしていくことを約束しています。



CSR ガイドライン

企業の社会的責任を果たし、お互いが継続的に発展するための要素を、「コンプライアンス」「安全と品質」「人権と労働」「環境」「情報開示」の観点から解説し、様々な課題に対する取り組みをビジネスパートナーに要望しています。

また人権や環境の側面から環境負荷物質や紛争鉱物への管理体制の構築も併せてお願いしています。

ビジネスパートナーとの事業継続活動

モノづくり改善への支援

ジヤトコはモノづくり改善の手法や人財育成プログラムなど、さまざまな経験やノウハウを持っています。このような当社の知見や人財をビジネスパートナーの要望に応じて提供し、改善のお手伝いを行っています。

このような支援活動は、ビジネスパートナーのモノづくり体質を改善するだけでなく、サプライチェーン全体の省エネや省資源化にもつながっています。

BCPの協力体制の強化と被災時の支援活動

ジヤトコはこれまでもビジネスパートナーと一体となってBCPを策定し、予測できない自然災害の発生に対応できるサプライチェーンを構築してきました。

近年、自然災害や、感染症パンデミックによる休業や操業停止など、影響が広範囲・長期化する問題が頻発しており、サプライチェーンのさらなる強化が求められています。

そのためBCMの観点から、有事の際の人道支援や生産活動の

持続可能で責任ある調達

復旧支援はもちろん、平時においてもさまざまな取り組みでビジネスパートナーに支援を行い、サプライチェーンの安定化に努めています。

例えば、各種の災害に対して定期的にビジネスパートナーの生産拠点を訪問し、当社オリジナルの評価表を使って被災リスクの見える化を進めています。この評価結果をもとに、各社の実情に合わせた対策や優先順位を協議し、リスクの軽減に協力しています。

サイバーセキュリティにおける連携

現代ではコンピューターシステムとネットワークを標的とするサイバー攻撃が大きな脅威としてクローズアップされています。自然災害と同様、ひとたびサプライチェーンが被害にあった場合、各社の基幹システムは停止し、企業活動に多大な影響を及ぼしています。

ジヤトコはビジネスパートナーと共にサイバーセキュリティに対する取り組み状況を改めて検証し、予防対策や被害にあった場合の事業活動の可否を確認しています。

また一部のビジネスパートナーとは、サイバー攻撃を受けたと仮定したシミュレーションを実施しています。当社は、このシミュレーションにより明らかになった課題と対策をビジネスパートナーと共有し、連携をさらに進めています。

持続可能な地球環境に向けたビジネスパートナーとの取り組み

カーボンニュートラルへの取り組み

ジヤトコは2013年を起点に、CO_2排出量を2030年に46%削減、2050年ゼロを目標としています。

この取り組みの範囲は自社事業所での活動はもちろん、サプライチェーンを含めたカーボンニュートラルの実現を目指しています。

カーボンニュートラルに向けた活動は今後も加速しますが、ビジネスパートナーと協働で環境改善を進めCO_2排出量を削減し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

サーキュラーエコノミーへの取り組み

ジヤトコは、耐久性に優れた製品を設計することで廃棄物を減らし（Reduce）、市場から回収された製品の部品を選別・再生し（Reuse）、アルミ材などの再資源化できる材料の部品を積極的に採用して（Recycle）、循環型経済の実現に積極的に取り組んでいます。

また、新規事業における新製品については、リサイクル材だけでなくグリーンアルミ材の採用も検討しており、再生可能エネルギーの利用についても積極的に推進しています。

環境負荷物質に対する管理の向上

ジヤトコは各国・地域の環境負荷物質に関する法令を遵守するとともに、法令変更にも速やかに対応しています。特に化学物質に関しては各国で管理対象物質が増しており、使用の制限が急速に進んでいます。このような世界の動向に合わせ、当社は欧州ELV、欧州REACH、日本化審法など、国内外における法規制に先行して環境負荷物質の使用禁止や削減の取り組みを推進しています。

そのためには法令で禁止された化学物質を原材料に使わない製品を開発するだけでなく、製造過程においても該当する化学物質を使用しないことが必要です。

当社はビジネスパートナーの協力のもと、環境に影響を及ぼす物質に対するマネジメント体制をサプライチェーン全体に構築し、使用情報の収集や管理を行っています。

グリーン調達ガイドラインの設定

前述の通り、ジヤトコは「全ての事業活動を通じて持続可能な地球環境に貢献」という環境方針に従い、製品のライフサイクルにおいて、環境に配慮した取り組みを推進しています。

そのため、ビジネスパートナーと共有すべき環境に係る方針や基準を「グリーン調達ガイドライン」として設定し、環境に対する取り組みや環境負荷物質の管理について、企業の社会的責任として明記しています。

特に環境負荷物質については、サプライマネジメントの観点からIMDS（InternationalMaterialDataSystem）への入力をお願いしており、このIMDSデータを基にして、製品に使われている環境負荷物質の管理と各種規制への適合性を確認しています。

ステークホルダーエンゲージメント

ステークホルダーとの対話を通し、関心事を理解する

ジヤトコの企業活動はさまざまなステークホルダーのみなさまとの信頼関係の上に成り立っています。ジヤトコは、自社の持続的な成長とよりよい社会の発展を両立させるために、ステークホルダーの関心事について積極的に対話を行い、ステークホルダーの声に耳を傾け企業活動に反映することが重要だと考えています。ステークホルダーとの対話の機会を設けることは、リスクやオポチュニティを見出すことにもつながります。ジヤトコでは、より多くの声を企業活動に反映させるため、様々な対話の機会を設け、その結果を確実に社内にフィードバックしています。

信頼関係の構築に向けて

変化するお客さまのニーズには迅速に対応し、安全・安心を第一に考えた商品やサービスの提供により、お客さまの真の満足を追求します。

ビジネスパートナーのみなさまとも、相互信頼に基づいた公正な取引を通じて、互いの成長を実現する取り組みを進めています。

また、多様性の尊重と人財育成を実践し、従業員一人ひとりが成長を実感できる働きがいのある職場づくりを目指しています。

そして、ジヤトコが事業を展開するすべての地域において「よき企業市民」であるため、地域社会と一体となった社会課題の解決や、それぞれの地域に根ざしたコミュニケーション活動に取り組んでいます。

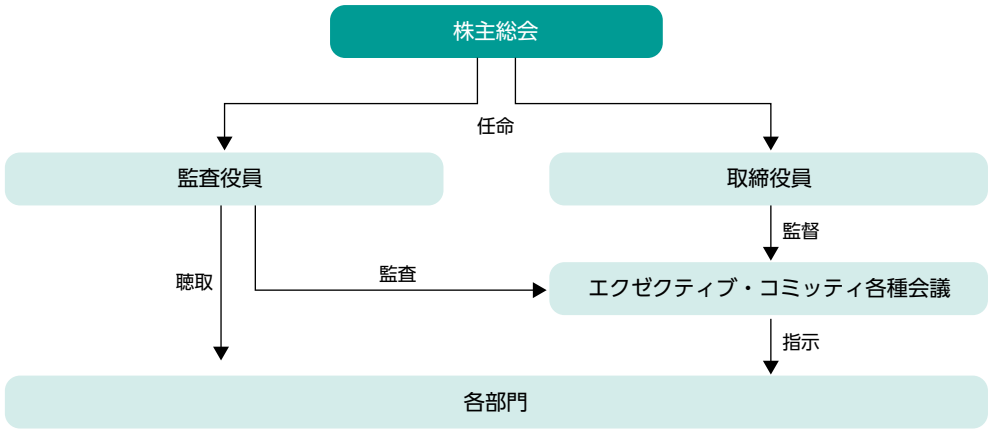
ステークホルダー	対話の機会	主なテーマ	主な取り組み
お客さま	日常事業活動でのコミュニケーション、企業サイト・SNS・メディア等を通じた情報提供、問い合わせ窓口の設置等	• 製品やサービスの品質 • お客さまへのサポート	• 技術説明会、試乗会 • お客さま要求事項への対応 • お客さまによる当社評価の分析・改善
従業員	定期的な従業員との交流イベント、面接（評価、キャリア開発）、各種従業員対象調査等、労使協議会、社内通報制度、イントラネット	• 会社の業績や課題 • 社内ダイバーシティ • 多様な働き方 • 職場環境・労働安全衛生 • キャリア、教育	• 役員による全社員向け経営情報共有（Global Employees Meeting） • 役員との事業テーマ別意見交換会 • 業績評価面談 • 従業員サーベイ • 社内通報制度（イージーボイス、スピークアップ）
ビジネスパートナー	日常事業活動でのコミュニケーション、方針説明会、お取引先様ウエブサイト、各種ガイドライン等	• 公正な取引 • 調達方針 • サステナビリティ方針	• 取引先方針説明会 • 取引先表彰 • モノづくりセミナー
地域社会	自治体・地域団体とのコミュニケーション、従業員による社会貢献活動、地域住民を交えたイベント等	• 地域社会への貢献 • 社会課題の解決に向けた自治体や地域団体との協働	• 従業員によるボランティア活動 • 地域住民を交えた事業所イベント（ジヤトコフェスタ）
株主	株主総会	• ジヤトコの事業戦略、業績、企業価値向上	• 株主総会

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンスの徹底

企業統治の体制

ジヤトコは会社法上の監査役会設置会社となっており、株主総会、取締役会、監査役会を法定の機関として設置しています。取締役会は原則毎月一回開催し、経営にかかわる重要な事項の決定、業務執行の内容の監督を行っています。取締役会は、業務執行を行う取締役のほか、数名の社外取締役から構成されており、客観的に業務執行の状況を監督できる体制となっています。また、効率的・機動的に経営を行うため、執行役員制度を採用し、明確な形で執行役員に権限委譲を行ったうえで、事業を運営しています。



内部統制システムの強化

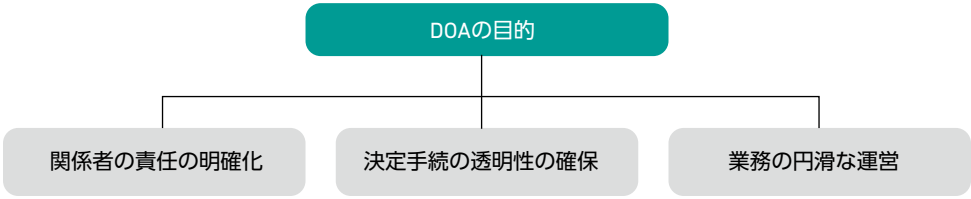
ジヤトコは、適正かつ効率的な企業活動を確実なものとするため取締役会において決議した「内部統制システムの基本方針」に基づき、内部統制の維持・強化を図っています。「内部統制システムの基本方針」では、主要項目として下記を定めており、内部統制システムが有効に機能しているか否かについては半年ごとに確認し、その結果を取締役会に報告しています。

「内部統制システムの基本方針」の主要項目

- 取締役・社員の職務の執行の法令・定款への適合
- 取締役の職務の執行に係る情報の保存・管理
- 適切なリスクマネジメント
- 取締役の職務の効率的な執行
- 企業グループ（親会社および子会社）における職務の適正の確保
- 監査役の監査の実効性の確保等

重要な業務事項とその決定

重要な業務事項とその決定に関わる権限基準はDOA（Delegation of Authorityの略、権限委譲）にて定めています。DOA制定の目的は、関係者の責任の明確化、決定手続の透明性の確保、業務の円滑な運営です。



ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

コンプライアンスの強化

コンプライアンスの基本的な考え

ジヤトコグループでは、各国・地域の法令を遵守することは、社会から信頼されるための最低限の条件であると考えています。また、法令遵守はもちろん、グループのすべての従業員が高い倫理観をもって公正で誠実に行動することも重要と考えています。ジヤトコは「グローバル行動規範」を制定し、グループ内のすべての役員、従業員が守るべき行動指針を示し、コンプライアンスの徹底に努めています。

グローバル行動規範で定めている項目

1. 法律・ルールの遵守

ジヤトコの社員は、事業活動を行う全ての国の法律、全ての会社のルールを遵守します。

2. 安全の推進

ジヤトコは、従業員の安全と健康の促進に取り組んでいます。ジヤトコの従業員は、健全な職場環境を維持促進するため安全に業務を遂行する必要があります。さらに、ジヤトコはお客さまの安全を確保することに細心の注意を払っています。ジヤトコの従業員は、製品の安全性を継続的に推進していくことが求められています。

3. 利益相反行為の禁止

社員にとって最も優先されるべきは、ジヤトコの利益です。会社の利益に反して、行動・活動すること、あるいは情報を使用することは禁じられています。

4. 会社資産の保護

ジヤトコの社員は、会社のあらゆる資産、資金、情報および知的財産を維持し、保護する責任があります。許可なくこれらを使用または流用することは禁じられています。

5. 公平・公正な関係

ジヤトコの社員は、取引先（自動車会社、パートナー、その他の関係先等）と、公平かつ公正な関係を維持していかなければなりません。

6. 透明性と説明責任の確保

ジヤトコの社員は、株主、お客さま、他の社員、地域社会等の関係者に対し、企業活動に係る情報を、公正性と透明性をもって、適時・適切に開示します。

7. 多様性の尊重と機会平等

ジヤトコは社員、取引先、お客さま、および地域社会の多様性を評価・尊重します。また、差別やいやがらせは、どんな形・程度にせよ容認されるべきではありません。

8. 環境保護

ジヤトコの社員は、製品を開発し、サービスを提供する際、事業目的の範囲内で環境保護を考慮しなければなりません。あわせてリサイクル・省資源・少エネルギーの推進に努めなければなりません。

9. 実践・報告の義務

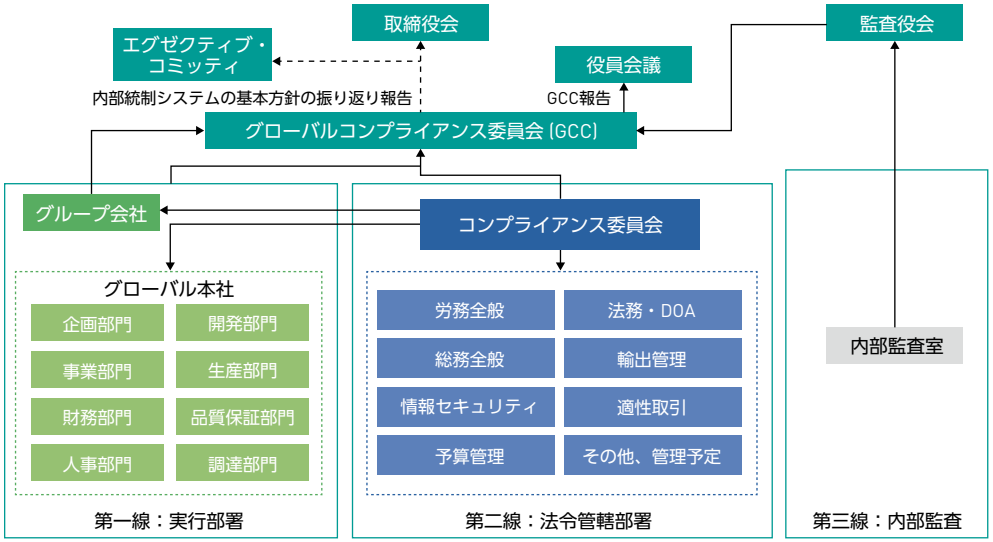
ジヤトコの社員は、この行動規範に従い、業務を遂行することを期待されています。また、行動規範の違反を察知した場合には、速やかにその旨を報告する義務を負っています。その際、当該社員は報復を受けることのないよう保護されます。

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

コンプライアンスの推進体制

ジヤトコグループのコンプライアンス活動は、法務知財部と人事総務部にて組織されるコンプライアンス事務局をセンターとして、①活動方針策定、②活動状況のモニタリング、③内部通報対応、④コンプライアンス教育・啓蒙を通じ、活動推進しています。また、コンプライアンス事務局は、各部門並びに各子会社にて任命されたコンプライアンスプロモーターと連携しながら個々の活動推進をサポートしています。

コンプライアンス体制の概要



ガバナンス

部門代表役員および国内外グループ会社社長を構成員とするグローバルコンプライアンス委員会（GCC）を組織し、コンプライアンス事務局により年4回の会議を開催しています。GCCでは、コンプライアンスにかかわるグローバル共通事項の共有、具体的発生事案の共有、各社のコンプライアンス活動内容の確認などを行い、適切にPDCAを回すことに努めています。

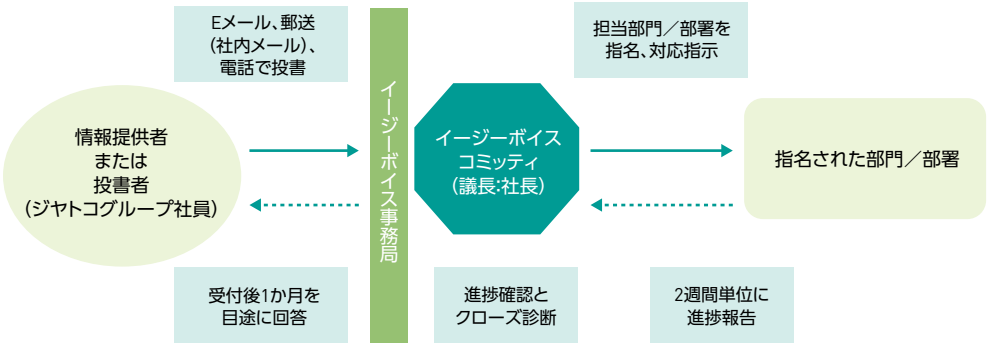
モニタリング

毎年、コンプライアンス総点検として第二線である法令管轄部署に対し、法令違反時の対応プロセスの確認等を実施し、活動状況のモニタリングを実施しています。

内部通報対応

ジヤトコグループでは、コンプライアンス違反行為などに関して従業員が直接会社に通報できる内部通報制度として社内にて対応する「イージーボイス」と、社外（日産グループ）の窓口による「SpeakUp」を設けており、従業員が通報できる環境を整えています。

イージーボイスシステムの概要



コンプライアンスの教育・啓発

グループの全従業員を対象に、e-ラーニングシステムを活用した行動規範教育を毎年行っています。行動規範教育の受講率は、グローバルコンプライアンス委員会の中で報告されており、毎年100%の実施率となるまでフォローアップがされています。

また、上記以外のコンプライアンス教育として、情報セキュリティ・ポリシー、ハラスメント、輸出入管理、独占禁止法、贈収賄防止・営業秘密、DOA、下請法、社則等について、第二線である法令管部署がプログラムを作成し、従業員に対する教育を実施しています。

ガバナンス・法令遵守・コンプライアンス

リスクマネジメントへの取り組み

リスクマネジメントの推進

グローバルな事業展開に伴い多様化するリスクに対応するため、ジヤトコでは、内部統制の一環としてリスクマネジメントを実施しています。

具体的には、

①商品戦略
②生産戦略
③販売&マーケティング戦略
④事業継続性
⑤商品およびサービス品質
⑥情報品質
⑦マネジメント品質
⑧倫理および不正行為
⑨人財
⑩金融&市場リスク
⑪外部環境変化に対する適応性
⑫法務リスク

の12項目について、役員含めた関係者にインタビューを実施し、年度ごとにリスクを洗い出し、エグゼクティブ・コミッティにおいて取り組むべき項目を決定し、項目ごとに任命された責任者のもと、リスク低減のための対策を立案・実行しています。各項目における取り組みの進捗はエグゼクティブ・コミッティに報告され、年度末に各項目のコントロールレベル評価が行われます。

コーポレートリスク管理のための年間計画	
役員インタビューなどによるリスク抽出	1月～2月
リスクアセスメントによる評価と課題候補の選定	2月
CRM*課題定義と課題オーナーの決定 (エグゼクティブ・コミュニティ)	3月～4月
中間報告：方策の方向性の合意	9月～10月
最終報告：方策実行の完了	3月

*CRM: Corporate Risk Management

BCM*委員会による取り組み

地震・台風などの自然災害をはじめ事業の継続を危うくするような事態が発生するケースがあります。ジヤトコでは発生し得るさまざまなリスクを想定し、リスク発生の未然防止および発生時のリスク低減に向け、BCM委員会を設けて対策を実行しています。生産の継続に影響を与える事態が実際に発生した場合は、ただちに関係者に周知され、BCM委員会が中心となり、全社の各部門の協力を得ながら問題の解決を図ります。

大規模地震発生時の初動の対応、早期復旧のための適切な対応を従業員が身に付けられるように、毎年BCMシミュレーション訓練を実施しています。

＊ BCM: Business Continuity Managementの略で、事業継続マネジメントのこと。大規模災害、病気 の流行など、企業が事業を継続できなくなる事態に備え、対応策の決定やその実行、そのための訓練などを行うこと

グループ会社のリスクマネジメント体制

海外の生産拠点をはじめとするグループ会社についても、それぞれの会社で想定されるリスクに対する対策を実行するなどリスクマネジメントに取り組んでいます。BCMの活動で培われたジヤトコの経験やノウハウはグループ会社に展開され、グローバル共通のリスクについては他のグループ会社と連携をとりながらリスクマネジメントを実施しています。

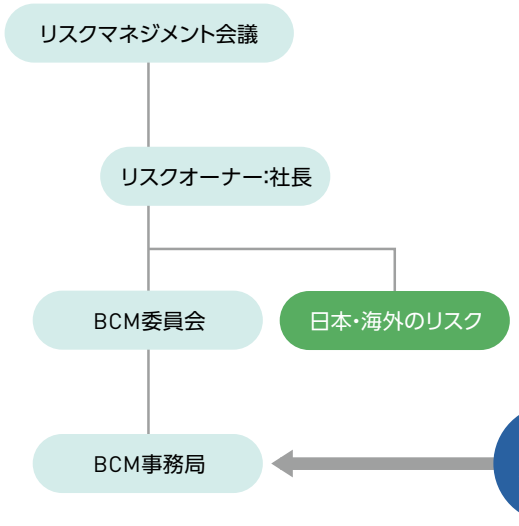
災害対策（物理的ハザード）

大規模災害発生時の事業継続に向けて

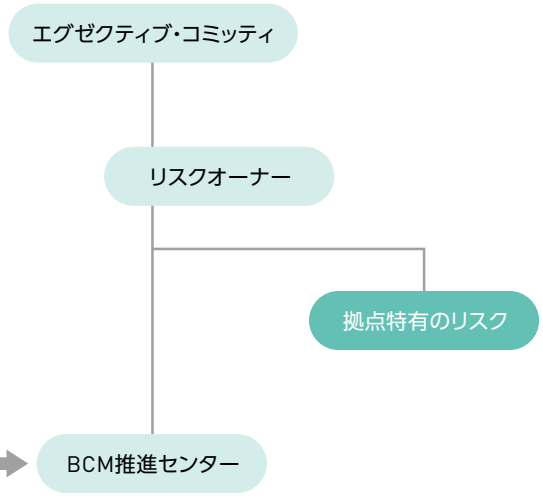
ジヤトコのBCMの一環として、近い将来発生が懸念される大規模地震（震度6強以上）に対し、初動活動として人命救助、二次災害防止、また事業復旧活動として迅速かつ効果的な復旧を目標としたBCM活動を進めてきました。BCM構築の取り組みは新潟中越沖地震（2007年7月）、東日本大震災（2011年3月）、そして自工場に大きな被害をもたらした静岡県東部地震（2011年3月）等の経験を経て、見直し・強化されています。想定する災害も、地震はもちろん、新型コロナウイルス、IT障害、サプライチェーン供給停止と多岐にわたり、メキシコ、中国、タイ等の海外拠点が直面するリスクも日本国内のBCM整備で得られた経験を活用しジヤトコグループ全体でグローバルに展開しています。さらに過去の災害からサプライチェーンを重視した活動を推進するために、各社にBCM体制診断等を通じ、サプライチェーン全体の強化にも努めています。ジヤトコの実効性の高いBCMの原動力は繰り返し行われる訓練にあります。2008年以降、毎年BCMシミュレーション訓練を実施し、発災後の初動対応と事業継続への復旧体制を確認しています。この訓練は、想定される被害状況をもとに自動車メーカー・ビジネスパートナー対応、地域社会やメディア対応など、事業継続に関する課題を各部署・各拠点が連携して解決していくもので、このような訓練を繰り返し実施し、災害発生時の迅速な対応を目指しています。こうした拠点間連携を重視したシミュレーション訓練の成果は、静岡県東部地震での富士宮工場における各拠点からの円滑な支援受け入れと早期復旧となって具体的に現れています。

BCM推進組織

ジヤトコのBCM推進組織



海外拠点のBCM推進組織





BCMシミュレーション訓練

災害対策（物理的ハザード）

従業員・地域の安全を守るために

日本国内における建屋や設備の地震対策

大規模地震が発生した際の建屋・設備・従業員への被害を防ぎ、一日も早い工場機能の復旧を図ることができるよう、日本国内の主要生産拠点では建物の耐震補強や生産設備の固定、天井やクレーンからの落下物対策など、幅広い「地震対策」を実施しています。

サプライチェーンの一員として、お客さまの生産への影響を最小限にとどめるよう、常に対策を考えています。

海外拠点における地震対策

グローバルに展開しているジヤトコの海外拠点においても、地震などの大規模災害に備え、国内拠点と同様のBCM活動を実施しています。

また、2013年7月に稼働開始したジヤトコタイランド社では、2011年に発生した大規模洪水の教訓から、建屋の基礎となる盛り土を当初計画から50cm高くし、津波・水害に備えました。

従業員の安全確保

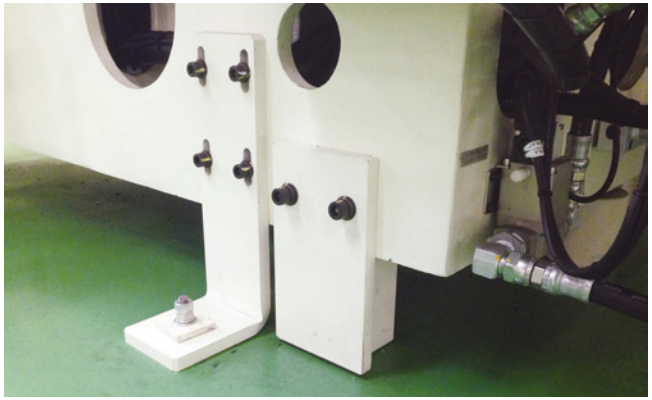
大規模地震が発生した際に従業員の安全を確保するために、ジヤトコでは避難場所や避難行動についての手順を細かく定めています。

また、その浸透を図るため、日中・夜間などさまざまな状況を想定し、定期的に訓練を実施しています。その他、非常時には各拠点において帰宅が困難になる従業員が発生することを想定し、水や食料、ヘルメット、毛布、寝袋、非常用トイレなどの備品を備蓄しています。

地域住民の安全・安心を確保

地域社会とともに歩むジヤトコとして、地域の暮らしにおける安全・安心の確保に積極的に協力しています。

大規模災害が発生した場合に避難場所のない地域住民の方々に社内施設を緊急避難場所として提供できるよう、自治体の避難場所リストに登録し、体制の整備を推進しています。


新たに付加した設備の補助脚


盛り土を行った建築現場


富士市の指定緊急避難場所・広域避難地に指定

情報セキュリティ

情報セキュリティの強化

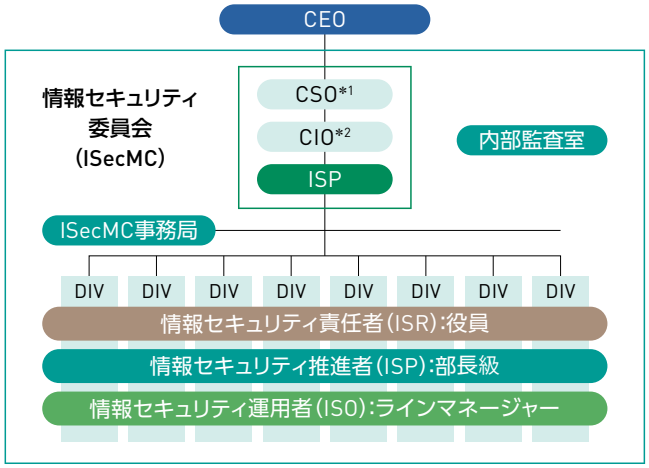
情報セキュリティの推進体制

ジヤトコでは高い情報セキュリティを維持するため、全従業員が情報セキュリティを意識し、業務に取り組めるよう、「情報セキュリティ・ポリシー」を制定しています。

情報セキュリティ・ポリシーとは、ジヤトコの情報セキュリティに関する基本方針を網羅的に示したものであり、以下の通り、情報の機密性・完全性・可用性を維持することを目的に制定されています。

1）機密性：アクセスを許可された者だけがアクセスできること
2）完全性：情報の正確性を保ち、処理方法の正確性及び透明性を保つこと
3）可用性：許可されたユーザーが、必要時に利用できること

情報セキュリティ委員会



*1 CSO: Chief Security Offcer　*2 CIO: Chief Information Offcer

これらが損なわれることにより、情報漏洩や誤った情報の公開、または情報が使えなくなるといった事態を引き起こすことがないよう、ジヤトコでは「情報セキュリティ委員会」を設置し、推進体制を構築しています。委員会を通じてグループ共通の課題や対策を共有し、各部門または各グループ会社の実行状況を確認しています。

情報管理の徹底と教育・啓発活動を推進

近年、会社や組織が保有するデータの重要性が急速に高まる中、情報漏洩やハッキング、マルチウエア攻撃などの脅威も増えており、堅固な情報セキュリティは、会社の成長にとって不可欠な要素となっています。

ジヤトコは情報インフラのさらなる強化に努めています。

サイバー攻撃などに備えるため、外部からの攻撃を防ぐさまざまな技術的施策を実施するとともに、万一侵入を許した場合でも情報流出を防げるよう、「サイバー攻撃対策本部」を設置し、速やかな対応が出来る体制・マニュアルを整えると共に、実際の有事を想定した訓練を年1回行っております。

情報セキュリティは、情報を取り扱う従業員一人ひとりの適正な管理意識にかかっていることから、標的型メール訓練等を通じて、新たな脅威に対する情報漏洩のリスク低減を図ると共に、情報資産管理台帳を用いた情報資産の管理徹底、グループの全従業員を対象とした情報セキュリティに関する教育を定期的に実施するなど、継続的な管理意識の向上に努めています。

各部門・グループ各社の情報セキュリティ活動

情報セキュリティを適切に運営していくためには、部門・会社の単位で、情報セキュリティに関する現状やリスクを正確に把握してから、対策を立案・実施し、結果をレビューすることが不可欠であることから、ジヤトコでは国際規格ISO27001に基づく、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）に準拠した評価を毎年実施するなど、PDCAサイクルを適切に回した対策を図っています。

各部門・各社における情報セキュリティにかかわる活動内容や発生したインシデント事案については、年3回行われる情報セキュリティ委員会で共有され、各部門・各社のベストプラクティスを互いに取り入れることで、海外拠点を含めたグループ全体における情報セキュリティ活動の標準化、共通施策の導入、教育の推進などより一層の充実を図っています。



生産拠点別環境データ

生産拠点別環境データ（2023年度実績）

富士地区

［本社含む］
敷地：580,440m²
建物（延べ）：389,403m²



大気

NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
小型ボイラー（22基）	ばいじん	g/Nm³	0.05	0.007	0.0006
	NOx	ppm	100	46	27
	SOx	Nm³/h	0.002	0	0
金属加熱炉（17基）	ばいじん	g/Nm³	0.05	0.016	0.007
	NOx	ppm	150	21	12
	SOx	Nm³/h	0.018	0	0
鋼材加熱炉（9基）	ばいじん	g/Nm³	0.05	0.003	0.0010
	NOx	ppm	150	7	3
	SOx	Nm³/h	0.026	0	0
アルミ溶解炉（9基）	ばいじん	g/Nm³	0.06	0.019	0.005
	NOx	ppm	150	43	9.81
	SOx	Nm³/h	0.019	0	0
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm³	5	0.52	0.12
乾燥炉（1基）	ばいじん	g/Nm³	0.05	0.028	0.022
	NOx	ppm	56	24	22
	SOx	Nm³/h	0.0048	0	0
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm³	5	0.00000063	0.00000063
乾燥焼却炉（1基）	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm³	5	0.0000044	0.0000044

水質

規制値の（　）内は日間平均

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.8～8.6	7.3	7.2
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	8	5.5
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	20（15）	9.3	7.3
浮遊物質量（SS）	mg/L	20（10）	1	1
n－ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	4	0	0
銅	mg/L	0.1	0	0
亜鉛	mg/L	1.0	0.09	0.07
大腸菌群数	個/mL	3,000	6	6
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	0	0
ジクロロメタン	mg/L	0.02	0	0
ホウ素	mg/L	10	0.1	0.1
フッ素	mg/L	15	0	0
アンモニア性窒素 硝酸性窒素 亜硝酸性窒素	mg/L	100	1.7 2.6 2.84	1.4 2.6 1.605

富士宮地区

敷地：67,698m²
建物（延べ）：66,756m²



大気

NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
小型ボイラー（6基）	ばいじん	g/Nm³	0.05	0.007	0.001166667
	NOx	ppm	100	92	76
	SOx	Nm³/h	0.01	0	0
金属加熱炉（3基）	ばいじん	g/Nm³	0.05	0.016	0.00525
	NOx	ppm	150	72	33
	SOx	Nm³/h	0.01	0	0

水質

規制値の（　）内は日間平均

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.8～8.6	7.4	7.3
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	3	2.5
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	20（15）	2.6	1.9
浮遊物質量（SS）	mg/L	20（15）	0	0
n－ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	5	0	0
フェノール類	mg/L	5	0	0
銅	mg/L	3	0	0
亜鉛	mg/L	2	0.18	0.18
溶解性鉄	mg/L	10	0	0
溶解性マンガン	mg/L	10	0	0
クロム	mg/L	2	0	0
大腸菌群数	個/mL	3,000	0	0.0
1・1・1-トリクロロエタン	mg/L	0.001	0.001	0
ホウ素	mg/L	10	0	0
アンモニア性窒素 硝酸性窒素 亜硝酸性窒素	mg/L		0.4 0 0.02	0.40 0 0

掛川地区

敷地：95,522m²
建物（延べ）：14,954m²



大気

NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
小型ボイラー（2基）	ばいじん	g/Nm³	0.05	0	0.0000
	NOx	ppm	100	60	60
	SOx	Nm³/h	0.01	0	0

水質

規制値の（　）内は日間平均

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	—	5.8～8.6	7.4	7.2
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	10	4.9
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	80（60）	14.2	9.9
浮遊物質量（SS）	mg/L	20（10）	4	1.3
n－ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	3	0	0
フェノール類	mg/L	2.5	0	0
銅	mg/L	0.5	0	0
亜鉛	mg/L	2	0.19	0.17
溶解性鉄	mg/L	5	0.76	0.45
溶解性マンガン	mg/L	5	0	0
クロム	mg/L	1	0	0
大腸菌群数	個/mL	3,000	125	25.5
カドミウム	mg/L	0.03	0	0
シアン	mg/L	0.5	0	0
有機燐	mg/L	1	0	0
鉛	mg/L	0.1	0	0
六価クロム	mg/L	0.25	0	0
砒素	mg/L	0.1	0	0
総水銀	mg/L	0.0005	0	0
アルキル水銀	mg/L	不検出	不検出	不検出
PCB	mg/L	0.001	0	0
トリクロロエチレン	mg/L	0.1	0	0
テトラクロロエチレン	mg/L	0.05	0	0
四塩化炭素	mg/L	0.01	0	0
1・1・1-トリクロロエタン	mg/L	1	0	0
ホウ素	mg/L	10	0	0
アンモニア性窒素 硝酸性窒素 亜硝酸性窒素	mg/L	100	9.6	6.05

生産拠点別環境データ

八木地区
敷地：233,323㎡
建物（延べ）：68,277㎡



大気

NOx：窒素酸化物 SOx：硫黄酸化物

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	2021年度 実測値		2022年度 実測値	
				最大	平均	最大	平均
小型ボイラー	ばいじん	g/Nm³	0.1	ND	ND	ND	ND
	NOx	ppm	150	51	41	50	37
	SOx	Nm³/h	0.00	ND	ND	ND	ND
連続浸炭炉	ばいじん	g/Nm³	0.1	ND	ND	ND	ND
	NOx	ppm	150	63	43	66	67
	SOx	Nm³/h	5.00	ND	ND	ND	ND

水質

規制値の（ ）内は日間平均

項目	単位	規制値（協定値含）	2021年度 実測値		2022年度 実測値	
			最大	平均	最大	平均
水素イオン濃度（pH）	―	5.8～8.6	7.5	7.4	7.5	7.2
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（10）	2	1.5	3	1.3
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	30（20）	1.1	0.8	2.9	1.3
浮遊物質量（SS）	mg/L	30（20）	0.8	0.5	3.8	0.8
n－ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	2.5	不検出	不検出	不検出	不検出
フェノール類	mg/L	0.5	不検出	不検出	不検出	不検出
銅	mg/L	1.5	不検出	不検出	不検出	不検出
亜鉛	mg/L	2.5	不検出	不検出	不検出	不検出
溶解性鉄	mg/L	5	不検出	不検出	不検出	不検出
溶解性マンガン	mg/L	5	不検出	不検出	不検出	不検出
クロム	mg/L	1	不検出	不検出	不検出	不検出
大腸菌群数	個/mL	1,500	不検出	不検出	不検出	不検出
窒素	mg/L	16（12）	9.6	9.2	9.6	7.6
ニッケル	mg/L	1	不検出	不検出	不検出	不検出
燐	mg/L	1（0.5）	不検出	不検出	不検出	不検出
ホウ素	mg/L	10	0	0	0	0
フッ素	mg/L	7.5	0	0	0	0

生産拠点別環境データ

ジヤトコ メキシコ社



大気

NOx：窒素酸化物

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉（#1）	ばいじん	g/Nm^3	1,022.5	0.32	0.05
	NOx	ppm	–	–	–
アルミ溶解炉	ばいじん	g/Nm^3		0.14	0.14
	NOx	ppm	375.0	136.44	106.42
真空浸炭炉（#2）	ばいじん	g/Nm^3	1,113.8	0.25	0.1
	NOx	ppm	–	–	–

水質

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	5–10	7.8	7.2
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	150	71.5	48.3
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	320	107.1	73.2
浮遊物質量（SS）	mg/L	150	45.2	17.2
n－ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	15	15.9	10.6
フェノール類	mg/L	n/a	–	–
銅	mg/L	4	2.2	1.7
亜鉛	mg/L	10	5.5	4.2

ジヤトコ（広州）自動変速機有限公司



大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉	TSP	mg/m^3	120	2.4	2.11
	非メタン炭化水素	mg/m^3	120	5.8	3.52

水質

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	6.0–9.0	7.0	7.0
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	300	55.0	35.9
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	500	155.0	103.0
浮遊物質量（SS）	mg/L	400	51.0	41.0
n－ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	20	0.2	ND

ジヤトコ（蘇州）自動変速機有限公司



ジヤトコ タイランド社



大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値
				最大
真空浸炭炉 No.1	TSP	mg/m^3	400.0	20.26
真空浸炭炉 No.2	TSP	mg/m^3	400.0	38.14

水質

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値
			最大
水素イオン濃度（pH）	—	5.5–9.0	7.58
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	500	26.8
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	750	119
浮遊物質量（SS）	mg/L	200	15.6
n－ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	10	3.20

大気

TSP：浮遊粒子状物質

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値	
				最大	平均
真空浸炭炉	TSP	mg/m^3	120	2.1	1.8
	非メタン炭化水素	mg/m^3	60	55.2	38.5
加工ライン	TSP	mg/m^3	120	2.1	1.9
	非メタン炭化水素	mg/m^3	60	2.6	1.3

水質

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値	
			最大	平均
水素イオン濃度（pH）	—	6.0-9.0	7.4	7.1
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	300	68.4	53.8
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	500	463	306.0
浮遊物質量（SS）	mg/L	400	108	46.9
n－ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	100	53	10.2



社会性データ

社会性データ

従業員データ

(年度)

ジヤトコ株式会社		単位	2021	2022	2023
従業員数		人	5,250	5,000	4,909
	男性	人	4,811	4,570	4,478
	女性		439	430	431
平均年齢		歳	44	44	43
	男性	歳	44	44	44
	女性		39	39	39
勤続年数		年	20.8	21.0	18.8
	男性	年	21.4	21.8	19.2
	女性		16.4	15.9	15.6
障がい者雇用率		%	2.48%	2.47%	2.57%
男性の育児休職取得率		%	0.9	16.5	30.2
育児休職後の復職率		%	95.7	100	100
	男性	%	100	100	100
	女性		95.5	100	100
年休取得日数		日	18.8	16.8	15.8
平均残業時間		時間/月	17.7	17.9	22.8
女性管理職		人	13	13	14
	比率	%	4.6%	4.8%	5.2%
新規採用人数		人	45	50	42
	男性	人	38	42	36
	女性		7	8	6

*男性の育児休職取得率=対象年度に育児休職を1日以上取得した男性従業員÷対象年度に配偶者が出産した男性従業員数
*新規採用人数の2023年度の数値は2024年4月時点



GRIスタンダード対照表

GRIスタンダード対照表

利用に関する声明	ジヤトコ株式会社は、2023年4月1日から2024年3月31日までの期間について、GRIスタンダードを参照し、本対照表に記載した情報を報告します。
利用したGRI 1	GRI 1: 基礎 2021

GRIスタンダード		開示事項	該当ページタイトル	ページ数（PDF）
一般標準開示項目				
2 一般開示事項2021	2-1	組織の詳細	企業情報	P.6
	2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	編集方針 企業情報	P.2 P.6
	2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	編集方針	P.2
	2-4	情報の修正・訂正記述	—	—
	2-5	外部保証	—	—
	2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	価値創造のあゆみ コア技術	P.8 P.10
	2-7	従業員	社会性データ	P.84
	2-8	従業員以外の労働者	—	—
	2-9	ガバナンス構造と構成	コーポレートガバナンスの徹底	P.73
	2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	コーポレートガバナンスの徹底	P.73
	2-11	最高ガバナンス機関の議長	コーポレートガバナンスの徹底	P.73
	2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	コーポレートガバナンスの徹底	P.73
	2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	コーポレートガバナンスの徹底	P.73
	2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	マテリアリティ（重要課題） コーポレートガバナンスの徹底	P.16 P.73
	2-15	利益相反	コンプライアンスの強化	P.74
	2-16	重大な懸念事項の伝達	コンプライアンスの推進体制 リスクマネジメントへの取り組み	P.75 P.76
	2-17	最高ガバナンス機関の集合的知見	—	—
	2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンス評価	コーポレートガバナンスの徹底	P.73
	2-19	報酬方針	—	—

GRIスタンダード		開示事項	該当ページタイトル	ページ数（PDF）
	2-20	報酬の決定プロセス	—	—
	2-21	年間報酬総額の比率	—	—
	2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	CEOメッセージ	P.3-4
	2-23	方針声明	モノづくりの考え方 サステナビリティ基本方針 ジヤトコの環境方針 品質に関する方針・考え方 人権についての考え方 サプライチェーンに対するジヤトコの基本的な考え方	P.11-13 P.15 P.20 P.65 P.69 P.70
	2-24	方針声明の実践	モノづくりの考え方 サステナビリティ基本方針 ジヤトコの環境方針 品質に関する方針・考え方 人権についての考え方 サプライチェーンに対するジヤトコの基本的な考え方	P.11-13 P.15 P.20 P.65 P.69 P.70
	2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	人権についての考え方 コンプライアンスの強化	P.69 P.74-75
	2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	コンプライアンスの強化	P.74-75
	2-27	法規制遵守	コンプライアンスの強化	P.74-75
	2-28	会員資格を持つ団体	—	—
	2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	ステークホルダーエンゲージメント	P.72
	2-30	労働協約	—	—
マテリアルな項目				
3　マテリアルな項目 2021	3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	マテリアリティ（重要課題）	P.16
	3-2	マテリアルな項目のリスト	マテリアリティ（重要課題） マテリアリティ（重要課題）と目指す姿	P.16 P.17
	3-2	マテリアルな項目のマネジメント	ジヤトコのサステナビリティ 環境マネジメント ダイバーシティ&インクルージョン 信頼される品質	P.15-17 P.20 P.52 P.65
経済				
201　経済パフォーマンス 2016	201-1	創出、分配した直接的経済価値	価値創造のあゆみ 目指す姿 コア技術 クルマの電動化への貢献 循環型社会の構築	P.8 P.9 P.10 P.31-34 P.36-38

GRIスタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）
		201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	—	—
		201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	—	—
		201-4	政府から受けた資金援助	—	—
202	地域経済での存在感 2016	202-1	地域最低賃金に対する標準的新入社員給与の比率（男女別）	—	—
		202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	—	—
203	間接的な経済的インパクト 2016	203-1	インフラ投資および支援サービス	コミュニティの発展 社会貢献活動	P.47 P.48-50
		203-2	著しい間接的な経済的インパクト	—	—
204	調達慣行 2016	204-1	地元サプライヤーへの支出の割合	—	—
205	腐敗防止 2016	205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	—	—
		205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	—	—
		205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	—	—
206	反競争的行為 2016	206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	—	—
207	税金 2019	207-1	税務へのアプローチ	—	—
		207-2	税務ガバナンス、管理、およびリスクマネジメント	—	—
		207-3	税務に関連するステークホルダー・エンゲージメントおよび懸念への対処	—	—
		207-4	国別の報告	—	—
環境					
301	原材料 2016	301-1	使用原材料の重量または体積	マテリアルバランス	P.24
		301-2	使用したリサイクル材料	循環型経済の構築	P.35-38
		301-3	再生利用された製品と梱包材	循環型経済の構築	P.35-38
302	エネルギー 2016	302-1	組織内のエネルギー消費量	マテリアルバランス 国内外各拠点の環境負荷軽減への取り組み PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷軽減	P.24 P.25 P.26
		302-2	組織外のエネルギー消費量	脱炭素化の推進	P.27-30
		302-3	エネルギー原単位	PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷軽減	P.26
		302-4	エネルギー消費量の削減	マテリアルバランス 国内外各拠点の環境負荷軽減への取り組み PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷軽減	P.24 P.25 P.26

GRIスタンダード		開示事項	該当ページタイトル	ページ数（PDF）
	302-5	製品およびサービスのエネルギー必要量の削減	環境マネジメント エネルギー効率の追求 脱炭素化の推進	P.23 P.45 P.27-30
303 水と廃水 2018	303-1	共有資源としての水との相互作用	大気・水資源・土壌保全	P.39-41
	303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	大気・水資源・土壌保全	P.39-41
	303-3	取水	マテリアルバランス 国内外各拠点の環境負荷軽減への取り組み PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷軽減	P.24 P.25 P.26
	303-4	排水	マテリアルバランス 国内外各拠点の環境負荷軽減への取り組み PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷軽減	P.24 P.25 P.26
	303-5	水消費	マテリアルバランス 国内外各拠点の環境負荷軽減への取り組み PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷軽減	P.24 P.25 P.26
304 生物多様性 2016	304-1	保護地域および保護地域ではないが生物多様性価値の高い地域、もしくはそれらの隣接地域に所有、貸借、管理している事業拠点	社会貢献活動	P.48-50
	304-2	活動、製品、サービスが生物多様性に与える著しいインパクト	—	—
	304-3	生息地の保護・復元	社会貢献活動	P.48-50
	304-4	事業の影響を受ける地域に生息するIUCNレッドリストならびに国内保全種リスト対象の生物種	—	—
305 大気への排出 2016	305-1	直接的な温室効果ガス（GHG）排出（スコープ1）	カーボンニュートラルへの取り組み	P.27
	305-2	間接的な温室効果ガス（GHG）排出（スコープ2）	カーボンニュートラルへの取り組み	P.27
	305-3	その他の間接的な温室効果ガス（GHG）排出（スコープ3）	—	—
	305-4	温室効果ガス（GHG）排出原単位	PDCAサイクルに基づいた継続的な環境負荷軽減	P.26
	305-5	温室効果ガス（GHG）排出量の削減	2023年の環境実績 マテリアルバランス	P.23 P.24
	305-6	オゾン層破壊物質（ODS）の排出量	—	—
	305-7	305-7 窒素酸化物（NOx）、硫黄酸化物（SOx）、およびその他の重大な大気排出物	化学物質の管理活動 生産拠点別環境データ	P.41 P.81-83
306 廃棄物 2020	306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	循環型社会の構築	P.35-38
	306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	循環型社会の構築	P.35-38
	306-3	発生した廃棄物	マテリアルバランス 廃棄物対策への取り組み 化学物質の管理活動	P.24 P.37 P.41

GRIスタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）
		306-4	処分されなかった廃棄物	廃棄物対策への取り組み	P.37
		306-5	処分された廃棄物	廃棄物対策への取り組み	P.37
308	サプライヤーの環境面のアセスメント 2016	308-1	環境基準により選定した新規サプライヤー	持続可能で責任ある調達	P.70-71
		308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	持続可能で責任ある調達	P.70-71
社会					
401	雇用 2016	401-1	従業員の新規雇用と離職	社会性データ	P.85
		401-2	フルタイム従業員には支給され、有期雇用の従業員やパートタイム従業員には支給されない手当	―	―
		401-3	育児休暇	社会性データ	P.85
402	労使関係 2016	402-1	事業上の変更に関する最低通知期間	―	―
403	労働安全衛生 2018	403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	労働安全衛生	P.55-59
		403-2	危険性（ハザード）の特定、リスク評価、事故調査	労働安全衛生	P.55-59
		403-3	労働衛生サービス	労働安全衛生	P.55-59
		403-4	労働安全衛生における労働者の参加、協議、コミュニケーション	労働安全衛生	P.55-59
		403-5	労働安全衛生に関する労働者研修	労働安全衛生	P.55-59
		403-6	労働者の健康増進	健康経営の取り組み	P.60-63
		403-7	ビジネス上の関係で直接結びついた労働安全衛生の影響の防止と軽減	健康経営の取り組み	P.60-63
		403-8	労働安全衛生マネジメントシステム の対象となる労働者	健康経営の取り組み	P.60-63
		403-9	労働関連の傷害	安全活動管理指標	P.59
		403-10	労働関連の疾病・体調不良	健康経営の取り組み	P.60-63
404	研修と教育 2016	404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	―	―
		404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	人財育成	P.53-55
		404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	人財育成	P.53-55
405	ダイバーシティと機会均等 2016	405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	ダイバーシティ&インクルージョン 社会性データ	P.52 P.85
		405-2	基本給と報酬の男女比	―	―
406	非差別 2016	406-1	差別事例と実施した救済措置	―	―
407	結社の自由と団体交渉 2016	407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	―	―

GRIスタンダード		開示事項		該当ページタイトル	ページ数（PDF）
408	児童労働 2016	408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	—
409	強制労働 2016	409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	—	—
410	保安慣行 2016	410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	—	—
411	先住民族の権利 2016	411-1	先住民族の権利を侵害した事例	—	—
413	地域コミュニティ 2016	413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	コミュニティの発展 社会貢献活動	P.48 P.49-50
		413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト（顕在化しているもの、潜在的なもの）を及ぼす事業所	—	—
414	サプライヤーの社会面のアセスメント 2016	414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	持続可能で責任ある調達	P.70-71
		414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	—	—
415	公共政策 2016	415-1	政治献金	—	—
416	顧客の安全衛生 2016	416-1	製品・サービスのカテゴリーに対する安全衛生インパクトの評価	信頼される品質	P.65-68
		416-2	製品・サービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	—	—
417	マーケティングとラベリング 2016	417-1	製品・サービスの情報とラベリングに関する要求事項	—	—
		417-2	製品・サービスの情報とラベリングに関する違反事例	—	—
		417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	—	—
418	顧客プライバシー 2016	418-1	顧客プライバシーの侵害および顧客データの紛失に関して具体化した不服申立	該当なし	—

Jatco